

第 92 期社員総会

議案 第 1 号

議案 第 2 号

第 92 期 会 務 報 告 書

自 平成 3 0 年 4 月 1 日

至 平成 3 1 年 3 月 3 1 日

公益社団法人 空気調和・衛生工学会

目次

I. 法人の概況

1. 設立年月日	1
2. 定款に定める目的	1
3. 定款に定める事業内容	1
4. 所管官庁に関する事項	1
5. 主たる事務所・支部の状況	1
6. 会員に関する事項	2
(1) 会員異動表	2
(2) 支部別正会員数	2
(3) 論文集予約購読者数	2
7. 役員に関する事項	3
(1) 役員	3
8. 支部運営委員に関する事項	4
(1) 北海道支部	4
(2) 東北支部	4
(3) 中部支部	5
(4) 北信越支部	5
(5) 近畿支部	6
(6) 中国・四国支部	6
(7) 九州支部	6
9. 職員に関する事項	7

II. 事務報告

1. 総会に関する事項	8
2. 役員会等に関する事項	8
3. 登記・契約に関する事項	16
4. 規程に関する事項	17
5. 新設委員会に関する事項	18
6. 他学会・協会との連携に関する事項	19

III. 事業報告

1. 理事管掌委員会一覧	23
2. 委員会	24
(1) 法人運営	24
(2) 会員情報管理	27
(3) 北海道支部	28
(4) 東北支部	32
(5) 中部支部	36
(6) 北信越支部	40
(7) 近畿支部	45
(8) 中国・四国支部	50
(9) 九州支部	52

3.資格付与の実施に関する事項	55
(1)設備士資格検定委員会	55
(2)設備士資格検定試験	55
4.技術開発・研究開発の実施に関する事項	56
(1)規格制定事業	56
5.講座・セミナーの実施に関する事項	59
(1)教育普及事業	59
(2)学術事業	60
(3)CPD事業	62
(4)各種会合	63
6.調査・資料収集の実施に関する事項	64
(1)学術調査研究事業	64
(2)国際交流に関する事項	89
(3)出版物発行に関する事業	90
(4)刊行物に関する事項	94
(5)学会誌掲載内容内訳	95
(6)出版物出庫部数	96
7.表彰の実施に関する事項	98
(1)表彰事業	98
(2)空気調和・衛生工学会賞	99
(3)特別賞「十年賞」、「リニューアル賞」	101
(4)空気調和・衛生工学会振興賞	101
(5)井上宇市記念賞	103
(6)篠原記念賞	103
(7)功績賞	104
IV. 会 計 報 告	
1.財務諸表報告	105
(1)貸借対照表	105
(2)正味財産増減計算書	106
(3)財務諸表に対する注記	109
(4)付属明細書	110
(5)財産目録	111
監査報告	113

I.法人の概況

1. 設立年月日 大正6年(1917年)7月28日

2. 定款に定める目的

第3条 この法人は、空気調和、衛生、環境、エネルギー等に関する工学、技術の研究の連絡提携及び促進をはかり、もって学術、文化の発展に寄与することを目的とする。

3. 定款に定める事業内容

第4条 この法人は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 研究発表会及び学術講演会、学術集会の開催
- (2) 講習会、見学会、セミナー、シンポジウム、研修会等の開催
- (3) 会誌、論文集、研究報告、資料その他の刊行
- (4) 調査、資料収集、情報収集、データベース作成
- (5) 研究、開発、技術開発、システム開発、ソフト開発
- (6) 研究・調査の援助、奨励
- (7) 技術基準の制定、技術検査の支援、助言
- (8) 論文・報文、技術の業績の表彰
- (9) 技術者資格の認定、空気調和、衛生、環境、エネルギー等の技術に関するコンテスト、政策提言
- (10) 学術・技術資料・文献の所蔵、公開
- (11) 空気調和、衛生、環境、エネルギー等に関する知識の社会への普及と展示会その他による広報
- (12) 国内外の関連学術団体との協力及び連携
- (13) その他この法人の目的を達成するための必要な事業

第40条 この法人の事業年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

4. 所管官庁に関する事項

内閣府(平成24年3月19日認定書受理、平成24年4月1日より公益社団法人)

5. 主たる事務所・支部の状況

①主たる事務所(定款第2条) 東京都新宿区神楽坂4丁目8番地 神楽坂プラザビル4階

②支部(定款第37条)

北海道支部	北海道札幌市北区北13条西8丁目 北海道大学大学院工学研究院 空間性能システム部門 空間性能分野
東北支部	宮城県仙台市青葉区本町3丁目5番22号 宮城県管工事会館3階
中部支部	愛知県名古屋市中区錦1丁目7番31号 山田ビル3階
北信越支部	石川県金沢市御影町10番7号 菱機工業㈱内
近畿支部	大阪府大阪市住之江区南港北2丁目1番10号 ATC/ITM 棟11階
中国・四国支部	広島県広島市中区大手町3丁目8番22号 広島管工事会館内
九州支部	福岡県福岡市中央区天神2丁目3番10号 天神パインクレスト622号

6. 会員に関する事項

(1) 会員異動表

平成31年3月31日現在

種別	前期末 a)	資格取得者			小計	資格喪失者			小計	調整	当期末 b)	前期末比 増減 a)-b)
		入会*	資格変更	復活		退会	資格喪失 ・除名	死亡				
正会員	14,538	855	58	19	932	870	128	3	1,001	0	14,469	-69
名誉会員	28	0	3	0	3	1	0	1	2	0	29	1
特別会員	35	0	-2	0	-2	0	0	1	1	0	32	-3
終身会員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学生会員	354	193	-59	2	136	91	48	0	139	2	353	-1
小計	14,955	1,048	0	21	1,069	962	176	5	1,143	0	14,883	-72
賛助1級	47	0	0	0	0	0	0	0	0	0	47	0
賛助2級	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0
賛助3級	51	0	1	0	1	2	0	0	2	0	50	-1
賛助4級	375	14	-1	0	13	11	1	0	12	0	376	1
小計	482	14	0	0	14	13	1	0	14	0	482	0
合計	15,437	1,062	0	21	1,083	975	177	5	1,157	0	15,365	-72

※第93期 4月理事会入会承認分を含む

(2) 支部別正会員数

支部名	北海道 支部	東北 支部	中部 支部	北信越 支部	近畿 支部	中国・四国 支部	九州 支部
会員数*	446	639	1,254	545	2,033	607	940

※第93期 4月理事会入会承認分を含む

(3) 論文集予約購読者

種別	前期末a)	入会*	資格喪失者	調整	当期末b)	前期末比 増減 a)-b)
正会員	538	51	58	0	531	-7
学生会員	41	17	7	0	51	10
賛助会員	40	2	0	0	42	2
合計	619	70	65	0	624	5

※第93期 4月理事会入会承認分を含む

7. 役員に関する事項

(1) 第92期役員

役職名	担当職務	氏名	所属区	就任年月日	手 当	現 職	備 考
代表理事	会長	田辺 新一	1	平30.5.11	なし	早稲田大学	平28.5.12就任
同	副会長	阿部 靖則	1	平29.5.11	なし	新菱冷熱工業(株)	
同	副会長	大塚 雅之	1	平30.5.11	なし	関東学院大学	
同	副会長	堀川 晋	1	平30.5.11	なし	(株)日建設計	
業務執行理事	総務	山本 一郎	1	平29.5.11	なし	高砂熱学工業(株)	
同	総務	熊谷 智夫	1	平30.5.11	なし	大成建設(株)	
同	財務	熊谷 雅彦	1	平29.5.11	なし	日本ファシリティ・ソリューション(株)	
同	財務	飯嶋 和明	1	平30.5.11	なし	三機工業(株)	
同	学術	柳 宇	1	平29.5.11	なし	工学院大学	
同	学術	下田 吉之	6	平30.5.11	なし	大阪大学大学院	
同	学術	長井 達夫	1	平30.5.11	なし	東京理科大学	
同	教育普及	古閑 幸雄	1	平29.5.11	なし	(株)大林組	
同	教育普及	田之頭健一	1	平30.5.11	なし	東京ガス(株)	
同	教育普及	柳原 茂	1	平30.5.11	なし	東洋熱工業(株)	
同	技術	浅野 勝弘	6	平29.5.11	なし	清水建設(株)	
同	技術	河路 友也	4	平30.5.11	なし	愛知工業大学	
同	出版	高口 洋瑞	1	平29.5.11	なし	早稲田大学	
同	出版	河野 仁志	1	平30.5.11	なし	(株)朝日工業社	
同	出版	永田 久子	6	平30.5.11	なし	(株)東畑建築事務所	
同	会員・情報	井上 純一	1	平29.5.11	なし	須賀工業(株)	
同	会員・情報	楠本 晃典	8	平29.5.11	なし	西日本技術開発(株)	
同	会員・情報	久保田克己	2	平30.5.11	なし	(株)北海道日建設計	
同	北海道支部担当	濱田 靖弘	2	平29.5.11	なし	北海道大学大学院	支部長
同	東北支部担当	須藤 諭	3	平29.5.11	なし	東北文化学園大学	支部長
同	中部支部担当	羽津本好弘	4	平29.5.11	なし	中部電力(株)	支部長
同	北信越支部担当	堀 祐治	5	平30.5.11	なし	富山大学	支部長
同	近畿支部担当	吉田 篤正	6	平29.5.11	なし	大阪府立大学大学院	支部長
同	中国・四国支部担当	小金井 真	7	平29.5.11	なし	山口大学大学院	支部長
同	九州支部担当	依田 浩敏	8	平30.5.11	なし	近畿大学	支部長
監 事		那須原和良	1	平29.5.11	なし	清水建設(株)	
同		西村 英樹	1	平30.5.11	なし	(一財) ヒートポンプ・蓄熱センター	

※ 技術理事 倉田 雅史 (株)山下設計) 平成30年12月19日付辞任

8. 支部運営委員に関する事項

(1) 北海道支部

支 部 長	濱田 靖弘							
副 支 部 長	久保田克己							
総 務 幹 事	若林 齊	葛 隆生						
会 計 幹 事	中村 真人							
事 業 幹 事	菊田 弘輝 斎藤 雅也 阪田 義隆 山本 進	本間 康雄 佐藤 秀紀 小原 伸哉 白土 博康	宮本 一英 野川 貴史 小柳 秀光 武田 清賢	林 達也 水野 恭一 李 相逸 甲斐 至		末松 辰朗		
有 識 者	荒谷 登 高松 康二 持田 徹	伊藤 健二 谷口 博 長野 克則	岡垣 理 羽山 広文	落藤 澄 半澤 久		窪田 英樹 平間 登		

(2) 東北支部

支 部 長	須藤 諭							
副 支 部 長	渡辺 浩文	船木 寮一						
総 務 幹 事	金田 清満	及川 義信	荒川 博之					
会 計 幹 事	庄司 恒久	小林 照和	牧野 泰弘					
事 業 幹 事	赤井 仁志	田原 誠	小林 光	石島 和明				
事 業 委 員	内海 康雄 後藤 正徳 田中 和則 山田 英明	岡田 誠之 菅原 正則 谷 博之 渡邊 東一	神鳥 博俊 鈴木 道哉 月野 智弘	許 雷 須知 秀行 早瀬 訓				

(3) 中部支部

支 部 長	羽津本好弘
副 支 部 長	斎藤 輝幸 (研究・国際交流担当)
〃	田上 賢一 (総務・会計/事業担当)
総 務 幹 事	田上 賢一 (総務代表)
〃	池谷 誠 大野 剛志 大場 章晴 井上 聡 ^{※1} 渡部 篤 ^{※1,2} (※1: 会計兼務、※2: 7月より山田 宏に交替)
会 計 幹 事	閑林 憲之 (会計代表)
事 業 幹 事	河村 英之 (教育普及事業代表)
(教育普及事業)	原 豊 大塚 淳 ^{※3} 田中 雅之 菱田 誠 山内 祥司 (※3: 11月より水田 亜紀に交替)
事 業 委 員	河路 友也 (学術事業代表)
(学術事業)	北野 博亮 原田 昌幸

(4) 北信越支部

支 部 長	堀 祐治 (富山) (本部理事兼務)
副 支 部 長	高村 秀紀 (長野) 垂水 弘夫 (石川)
	熊谷 郁郎 (富山)
総 務 幹 事	◎鈴木 啓泰 (石川) 田村 巖 (新潟) 山田 龍彦 (福井)
会 計 幹 事	◎猪野毛 淳 (富山) ◎松本 幸保 (長野) 土井 信博 (石川)
事 業 幹 事	◎中川 勝弘 (新潟) ◎桃井 良尚 (福井)
学術委員会 委員長	坂口 淳 (新潟)
名 誉 会 員	村島外三雄 (石川) 西村 豊治 (富山)

(※◎印は各県代表)

(5) 近畿支部

支 部 長	吉田 篤正						
副 支 部 長	下田 吉之	浅野 勝弘					
総 務 幹 事	白木 一成						
会 計 幹 事	片山 茂克	山本 雅洋					
事 業 幹 事	下田 吉之	浅野 勝弘					
委 員	竹林 英樹 西脇 里志 近藤 明	小椋 大輔 堀江 宏	近本 智行 木虎 久隆	河野 良坪 山中 俊夫			

(6) 中国・四国支部

支 部 長	小金井 真						
副 支 部 長	西名 大作	大枝 隆介					
総 務 幹 事	横田 秀樹	松田 啓二	谷口 実男	八木 崇郎			
会 計 幹 事	岡石 隆	角廣 誠	兼崎 智				
事 業 幹 事	川島 敏彦	田中 成幸	中川 信一	保森 博美	牧本 浩明		

(7) 九州支部

支 部 長	依田 浩敏				
副 支 部 長	北山 広樹	林 徹夫	藤井 修		
総 務 幹 事	今岡 浩司	楠本 晃典			
会 計 幹 事	中村 繁年	吉田 智明			
事 業 幹 事	小島 昌一	白石 靖幸			
賛助会会長	花田 淳一				
本 部 理 事	依田 浩敏	楠本 晃典			

9. 職員に関する事項

事務局職員は、事務局長 1名、書記11名、嘱託1名、計 13名である。

職員	当期末職員数	前期末比増減
男性職員	7	-2
女性職員	6	1
合 計	13	-1

II. 事務報告

1. 総会に関する事項

1.1 社員総会

日 時	平成 30 年 5 月 11 日(金)午後 1 時 00 分～午後 2 時 00 分		
場 所	東京都港区元赤坂 2 丁目 2 番 23 号 明治記念館「蓬莱の間」		
出席者数等	社員現在数	14,458 名	
	総会成立定足数	7,230 名	
	本人出席社員数	88 名	
	委任状提出者数	7,559 名	
	出席社員総数	7,647 名	

総会の目的	議 案 第 1 号	第 91 期会務報告承認の件	(承認)
	同 第 2 号	第 91 期収支決算報告承認の件	(承認)
	同 第 3 号	第 92 期役員選任の件	(承認)
	同 第 4 号	名誉会員・特別会員推薦の件	(承認)
	報 告 第 1 号	第 92 期事業計画の報告	(了承)
	同 第 2 号	第 92 期収支予算の報告	(了承)
	同 第 3 号	創立 100 周年記念事業に報告	(了承)

2. 役員会等に関する事項

2.1 役員会

理事会(平成 30 年度第 1 回)平成 30 年 4 月 20 日(金) 本学会会議室

I. 審議事項

(1) 副会長

- ①第 32 回空気調和・衛生工学会 振興賞学生賞に関する件 (承認)
- ②第 27 回篠原記念賞・同奨励賞に関する件 (承認)
- ③平成 30 年度 設備士資格検定委員会委員委嘱に関する件(非公開) (承認)

(2) 総務理事

- ①第 91 期社員総会に付議する第 91 期会務報告書の審議、承認に関する件 (承認、議案第 1 号に決定)

(3) 財務理事

- ①第 91 期社員総会に付議する第 91 期収支決算報告の審議、承認に関する件 (承認、議案第 2 号に決定)

(4) 会員・情報理事

- ①新入会承認及び会員異動報告に関する件 (承認)
- ②平成 30 年度 委員会委員委嘱に関する件 (承認)

II. 報告事項

(1) 副会長

- ①学会ロゴマーク商標登録完了報告 (了承)

(2) 総務理事

- ①内閣府公益認定等委員会定期届出完了報告 (了承)

- ②国と特に密接な関係がある公益社団法人及び公益財団法人への該当性に関する報告 (了承)
- ③共催、協賛等名義使用依頼(6件) (了承)
- ④事務局に関する事項(2件) (了承)
- (3)学術理事
 - ①学術調査研究事業運営要領改定に関する報告 (了承)
- (4)教育普及理事
 - ①CPD 登録状況報告 (了承)
 - ②教育普及事業報告 (了承)
- (5)技術理事
 - ①委員派遣(2件) (了承)
- (6)出版理事
 - ①学会誌「特集」企画に関する報告 (了承)
 - ②引用・転載許諾報告 (了承)
 - ③改定出版・増刷・絶版報告 (了承)
- (7)支部担当報告 (了承)
- (8)その他(1件) (了承)

理事会(平成30年度第2回) 平成30年5月11日(金) 明治記念館 末広の間

I. 審議事項

- (1)会長
 - ①委員会設置に関する件 (承認)
- (2)会員・情報理事
 - ①新入会承認及び会員異動報告に関する件 (承認)

II. 報告事項

- (1)総務理事
 - ①委員派遣(2件) (了承)
 - ②共催、協賛等名義使用依頼(4件) (了承)
- (2)学術理事
 - ①REHVA 国際学生コンペティションに関する報告 (了承)
- (3)教育普及理事
 - ①教育普及事業報告 (了承)
- (4)出版理事
 - ①学会誌「特集」企画に関する報告 (了承)
- (5)会員・情報理事
 - ①永年一級賛助会員表彰の件 (了承)
- (6)監査報告 (了承)

理事職務互選のための理事会 平成30年5月11日(金) 明治記念館 末広の間

- (1)理事会規程第8条第2項に基づく理事会開催に関する件 (承認)
- (2)定款第36条第2項に基づく議事録署名人に関する件 (承認)

(3)理事会規程第2条に定める代表理事及び業務執行理事の選定に関する件 (承認)

理事会(平成30年度第3回)平成30年7月20日(金) 本学会会議室

I.審議事項

(1)会長

①代議員制検討委員会委員ならびに働き方改革委員会委員委嘱の件 (承認)

(2)総務理事

①選挙管理委員会ならびに役員候補者選挙推薦委員会の委員委嘱に関する件 (承認)

(3)財務理事

①旅費規程制定に関する件 (承認)

(4)学術理事

①第28回 国際交流視察団 ASHRAE 冬季大会 実施計画に関する件 (承認)

(5)会員・情報理事

①会費長期滞納に伴う会員資格喪失候補者に関する件 (承認)

②平成30年度委員会委員委嘱に関する件 (承認)

③新入会承認及び会員異動報告に関する件 (承認)

II.報告事項

(1)会長

①運営に関する事項 (了承)

(2)総務理事

①内閣府公益認定等委員会への定期届出ならびに登記完了報告 (了承)

②委員派遣(2件) (了承)

③共催、協賛等名義使用依頼(18件) (了承)

④「職員旧姓使用取扱要領」制定報告 (了承)

(3)財務理事

①支部会計等の運用に関する会合 (了承)

(4)学術理事

①国際建築設備調査団 CIB W062 シンポジウム海外視察団派遣に伴う旅行事故対策費用保険契約 (了承)

(5)教育普及理事

①CPD 登録状況報告 (了承)

②教育普及事業報告 (了承)

(6)出版理事

①学会誌「特集」企画に関する報告 (了承)

②引用・転載許諾報告 (了承)

③出版委員会 ZEB のデザインメソッド編集小委員会設置報告 (了承)

④出版契約(1件) (了承)

(7)支部担当報告

(了承)

(8)その他(1件)

(了承)

理事会(平成30年度第4回)平成30年10月19日(金) 本学会会議室

I. 審議事項

(1) 会長

- ① 特別委員会省エネ基準評価技術提案委員会の設置に関する件 (承認)
- ② 代議員制移行に関する件 (承認、一部継続審議)
- ③ 働き方改革委員会に関する件 (承認)

(2) 副会長

- ① 学会賞技術審査小委員会、特別賞審査小委員会、振興賞技術振興賞審査小委員会委員委嘱の件 (承認)

(3) 総務理事

- ① 第93期役員候補者選挙に関する件 (承認)

(4) 財務理事

- ① 第93期(平成31年度)予算編成に関する件 (承認)
- ② 第93期予算編成日程について (承認)
- ③ 委員会出席旅費の支給額に関する件 (承認)

(5) 会員・情報理事

- ① 平成30年度 SHASE 技術フェローの認定定数について (承認)
- ② 新入会承認及び会員異動報告に関する件 (承認)
- ③ 会費長期滞納による会員資格喪失者に関する件(確定) (承認)
- ④ 平成30年度委員会委員委嘱に関する件(第3回) (承認)

(6) 中国・四国支部担当理事

- ① 学術研究優秀発表奨励賞運営要領制定に関する件 (承認)

II. 報告事項

(1) 副会長

- ① 平成30年度(第63次)設備士資格試験受験資格審査結果報告 (了承)

(2) 総務理事

- ① 共催・協賛等名義使用依頼(20件) (了承)
- ② 委員派遣(1件) (了承)
- ③ 契約報告(2件) (了承)

(3) 財務理事

- ① 第92期会計定期報告 (了承)
- ② 契約報告(1件) (了承)
- ③ 支部会計に関する会合に関する件 (了承)

(4) 学術理事

- ① 平成30年度大会(名古屋)終了報告 (了承)
- ② 平成30年度大会(名古屋)「優秀講演奨励賞」表彰者報告 (了承)
- ③ 第23回国際建築設備調査団 CIBW062 シンポジウム実施報告 (了承)

(5) 教育普及理事

- ① CPD 登録状況報告 (了承)
- ② 教育普及事業報告 (了承)

(6) 技術理事

- ① 委員派遣(1件) (了承)

- (7) 出版理事
- ① 学会誌「特集」企画に関する報告 (了承)
 - ② 引用・転載許諾報告 (了承)
 - ③ 出版委員会空気線図の読み方・使い方改訂小委員会設置報告 (了承)
- (8) 会員・情報理事
- ① SHASE 技術フェロー制度に関する規程第 11 条に基づく該当者に関する報告 (了承)
 - ② SHASE 技術フェロー選考基準ならびに募集スケジュールに関する報告 (了承)
 - ③ 選考基準改定報告 (了承)
 - ④ 「JABMEE ナレッジマップ」に掲載する講習会等の開催情報の掲載許可のお願い (了承)
 - ⑤ 平成 30 年度賛助会員会終了報告 (了承)
 - ⑥ 学会ウェブサイト用サーバーのクラウド化に関する件 (了承)
 - ⑦ 契約報告(1 件) (了承)
- (9) 支部担当報告 (了承)
- (10) その他(3 件) (了承)

理事会(平成 30 年度第 5 回)平成 30 年 12 月 14 日(金) 本学会会議室

I. 審議事項

- (1) 会長
- ① 代議員制移行に関する件 (承認)
 - ② 代議員制移行スケジュールに関する件 (承認)
 - ③ 代議員選挙規程制定に関する件 (承認)
 - ④ 代議員選挙委員会設置ならびに委員委嘱に関する件 (承認)
 - ⑤ 代議員候補者推薦委員会設置ならびに委員委嘱に関する件 (承認)
 - ⑥ 代議員選挙システム構築費申請に関する件 (承認)
- (2) 総務理事
- ① 第 93 期役員候補者選挙投票用紙に記載する理事・監事候補者の決定に関する件 (承認)
 - ② 第 92 期社員総会における議案等に関する件 (承認)
 - ③ 会合ならびに付帯行事等の運営に関する件 (承認)
 - ④ 平成 31 年度理事会日程に関する件 (承認)
- (3) 出版理事
- ① 空気調和・衛生工学会規格“SHASE-S112-2019 冷暖房熱負荷簡易計算法”制作費超過による
予算追加申請の件 (次年度実施)
- (4) 会員・情報理事
- ① 新入会承認及び会員異動報告に関する件 (承認)
- (5) 北海道支部担当理事
- ① 北海道胆振東部地震被害調査に関する件 (承認)

II. 報告事項

- (1) 副会長
- ① 第 63 次 設備士資格検定試験 衛生部門 東京会場の試験運営のトラブルに関する報告 (了承)
- (2) 総務理事
- ① 共催・協賛等名義使用依頼(4 件) (了承)

- (3)財務理事
 - ①第 92 期会計定期報告 (了承)
 - ②第 93 期予算調整会議 (了承)
- (4)教育普及理事
 - ①CPD 登録状況報告 (了承)
 - ②教育普及事業報告 (了承)
- (5)技術理事
 - ①委員派遣(1 件) (了承)
- (6)出版理事
 - ①学会誌「特集」企画に関する報告 (了承)
 - ②引用・転載許諾報告(2 件) (了承)
 - ③契約報告(1 件) (了承)
- (7)会員・情報理事
 - ①当会ウェブサイトの翻訳機能設置に関する報告 (了承)
- (8)支部担当報告 (了承)
- (9)その他(2 件) (了承)

理事会(平成 30 年度第 6 回)平成 31 年 3 月 15 日(金) 本学会会議室

I.審議事項

- (1)会長
 - ①定款改定に関する件 (承認、議案第 5 号に決定)
 - ②理事退任に伴う理事の体制に関する件 (承認)
 - ③平成 31 年度各種委員会委員長候補者選考に関する件 (承認)
 - ④会員管理規程第 10 条第 3 号に基づく特別会員の推薦について (承認)
- (2)副会長
 - ①第 57 回学会賞推薦の件 (承認)
 - ②特別賞「第 19 回十年賞、第 7 回リニューアル賞」推薦の件 (承認)
 - ③第 33 回振興賞技術振興賞、第 16 回振興賞住宅環境設備賞推薦の件 (承認)
 - ④第 34 回振興賞高校教育賞推薦の件 (承認)
 - ⑤第 16 回功績賞推薦の件 (承認)
 - ⑥第 9 回井上宇市記念賞推薦の件 (承認)
 - ⑦表彰規程改定に関する件 (承認)
- (3)総務理事
 - ①第 93 期役員候補者選挙結果に関する件 (承認)
 - ②第 93 期役員選任議案に関する件 (承認)、議案 3 号に決定)
 - ③役員候補者選挙管理規程第 15 条第 3 項の規定に基づく役員候補補欠者の選任について (承認、議案 3 号と併せて提案を決定)
 - ④第 93 期事業計画(案)に関する件 (承認、報告第 1 号に決定)
 - ⑤平成 31 年度年間予定に関する件 (承認)
 - ⑥第 92 期社員総会の開催に関する件 (承認)
- (4)財務理事

- ①第 93 期収支予算(案)承認の件 (承認)
- (5) 学術理事
 - ①国際名誉員候補者の推薦に関する件 (承認)
 - ②第 24 回国際建築設備調査団 CIB W062 シンポジウム実施計画 (承認)
 - ③国際学術交流支援金運営要領制定に関する件 (承認)
- (6) 教育普及理事
 - ①第 92 期社員総会特別講演会の提案に関する件 (承認)
- (7) 技術理事
 - ①SHASE-S 106-2019 減圧弁改定に関する件 (承認)
- (8) 会員・情報理事
 - ①平成 30 年度「SHASE 技術フェロー」に関する報告 (承認)
 - ②第 92 期社員総会に推挙する名誉会員・特別会員候補者の選考に関する件 (承認)
 - ③新入会承認及び会員異動報告に関する件 (承認)

II. 報告事項

- (1) 会長
 - ①代議員に関する件 (了承)
- (2) 副会長
 - ①平成 30 年度(第 63 次)設備士資格検定試験の終了ならびに結果報告 (了承)
 - ②平成 31 年度(第 64 次)設備士資格検定試験実施日程の件 (了承)
- (3) 総務理事
 - ①共催、協賛等名義使用依頼(19 件) (了承)
 - ②委員派遣(1 件) (了承)
 - ③契約に関する件(3 件) (了承)
- (4) 財務理事
 - ①第 92 期会計定期報告 (了承)
- (5) 学術理事
 - ①第 28 回国際交流視察団 ASHRAE 冬期大会実施報告 (了承)
 - ② REHVA 国際学生コンペティション参加推薦英語論文審査結果報告 (了承)
- (6) 教育普及理事
 - ①CPD 登録状況報告 (了承)
 - ②教育普及事業報告 (了承)
- (7) 出版理事
 - ①学会誌「特集」企画に関する報告 (了承)
 - ②引用・転載許諾報告(1 件) (了承)
 - ③増刷報告 (了承)
- (8) 各支部報告 (了承)
- (9) 定期報告 (了承)
- (10) その他(5 件) (了承)

2.2 賛助会員会

期日等 平成30年7月20日(金) 明治記念館 富士の間

- 議 事
1. 会長挨拶
 2. 賛助会員代表者挨拶
 3. 懇談

以上

3. 登記・契約に関する事項

3.1 登記に関する事項

登記年月日	登 記 事 項
30.6.14	役員の変更
31.1.8	役員の変更

3.2 契約に関する事項

(1) 総務関連の契約

契約年月日	相 手 方	締 結 内 容
30.4.20	大塚商会(株)	ファイルサーバー増設
30.7.1	AIU損害保険(株)	業務災害総合保険
30.10.4	(株)トーセイ	給茶機設置に関する覚書
30.10.4	(株)ユニマツライフ	ティーサーバー (水道直結排水直結式)
31.2.27	セコム損害保険(株)	店舗総合保険 (設備・什器等、商品・製品等、借家人賠償責任)
31.3.1	東京海上日動火災保険(株)	会社役員賠償責任保険
31.1.31	医療法人社団 平成医会	産業医契約
31.1.31	医療法人社団 平成医会	業務委託契約(顧問医契約)
31.3.12	ヒューマンリソシア(株)	労働者派遣に関する基本契約

(2) 財務関連の契約

契約年月日	相 手 方	締 結 内 容
30.8.1	(株)ジェイエスキューブ	Boxサービス契約書

(3) 総務関連の再リース契約

契約年月日	相 手 方	締 結 内 容
30.11.19	三井住友ファイナンス&リース(株)	シュレツダ
30.11.20	日立キャピタルNBL(株)	電話機

(4) 事業関連の契約

契約年月日	相 手 方	締 結 内 容
30.7.11	東京海上日動火災保険(株)	旅行事故対策費用保険 (海外旅行 CIB)
30.12.27	東京海上日動火災保険(株)	旅行事故対策費用保険 (海外旅行 ASHRAE)

(5) 出版理事関連の契約 (編集著作権および出版権者)

契約年月日	相 手 方	締 結 内 容
30.5.25	長野克則	「建築設備の凍結・雪対策 計画設計施工の実務の知識」出版契約
30.11.2	丸善プラネット(株)	「新版 快適な温熱環境」制作業務委託契約

4. 規程に関する事項

提出者	内容	決定・報告機関	決定年月日
財務理事	「旅費規程」制定	理事会	30. 7. 20
会 長	「代議員選挙規程」制定	理事会	30. 12. 14
会 長	「定款」改定	理事会	31. 3. 15
副 会 長	「表彰規程」改定	理事会	31. 3. 15

5. 新設委員会に関する事項

設置年月日	委員会名称		委員長/主査
30.5.11	代議員制検討委員会		阿部 靖則
30.5.11	働き方改革委員会		大塚 雅之
30.12.14	代議員選挙委員会		奥宮 正哉
30.12.14	代議員候補者推薦委員会		千田 公男
30.4.1	特別委員会	SHASE-REHVAでのnZEB共同研究 特別委員会	丹羽 英治
		次世代空調ビジョン検討委員会	野部 達夫
30.7.20		省エネ基準評価技術提案委員会	倉淵 隆
30.4.1	ビル管理システム委員会	在室者情報活用BEMS検討小委員会	原 英嗣
		AI活用による建物システムの運用最適化検討小委員会	大岡 龍三
	住宅設備委員会	木質バイオマス活用によるエコタウン設備検討小委員会	浅野 良晴
	施工・保全委員会	施工・保全のトラブル事例共有化小委員会	前田 幸輝
		実践的な近未来都市・施設のSBCM(スマートな事業継続マネジメント)検討小委員会	田中 毅弘
	地球環境委員会	環境配慮建築小委員会	岩本 静男
		建築物の地球温暖化対策小委員会	村上 正吾
	標準化委員会	SHASE-S 010 空気調和・衛生設備工事標準仕様書改定小委員会	井澤 知
		SHASE-S 012 建築設備用あと施工アンカー改定小委員会	戸邊 勉
	30.7.20	出版委員会	ZEBのデザインメソッド編集小委員会
30.10.19	空気線図の読み方・使い方改訂小委員会		水野 稔

6. 他学会・協会との連携に関する事項

(1) 委員派遣

年月日	推薦先	内 容	委員名	
30. 4. 20	(一財) 建築保全センター	給排水管更生技術専門委員会委員	正会員 松野 徹朗	
	(一社) 公共建築協会	建築材料・設備機材等品質性能評価委員会 機械設備幹事会	建築材料・設備機材等品質性能評価委員会 委員	正会員 大谷 昌彦
			正会員 大谷 昌彦	
			正会員 船木 寮一	
			正会員 木村 文夫	
			正会員 中川 睦章	
			正会員 野澤 英美	
			正会員 吉田 友夫	
正会員 渡部 一八				
30. 5. 11	(公財) 給水工事技術振興財団	評議員	正会員 熊谷 智夫	
30. 7. 20	日本学術会議	科学者委員会学協会連携分科会学協会法人化問題 検討小委員会委員	事務局長 杉山 敦	
	(公財) 日本学術協力財団	学協会運営支援委員会委員	事務局長 杉山 敦	
30. 10. 19	(一財) 全国建設研修センター	管工事施工管理技術検定試験委員	正会員 井上 正憲	
	公益社団法人 日本下水道協会	ディスプレイ排水処理システム規格化委員会委員	正会員 小島 邦晴	
30. 12. 14	(一社) 公共建築協会	平成31年版機械設備工事監理指針改訂委員会委員	正会員 大谷 昌彦	
			正会員 船木 寮一	
			正会員 瀬谷 福之	
31. 3. 15	(一財) 日本建築設備・昇降機センター	建築設備検査員講習運営委員会委員	事務局長 杉山 敦	

(2)他学協会への後援・協賛依頼

開催年月日	名 称	名義	相手方
30. 4. 16～30. 4. 20	平成30年度 初級技術者のための研修会	協賛	7団体
通年	平成30年度 中堅技術者のための研修会(18講座)	協賛	10団体
30. 7. 5～7. 6	平成30年度 初級技術者のためのステップアップ研修会	協賛	7団体
30. 7. 13	平成30年度 技術講演会「健康で生産性の高いオフィスの環境設計 ―働き方改革の実現に向けて―」	協賛	7団体
31. 2. 13	平成30年度セミナー 「環境に寄り添う建築」	協賛	7団体

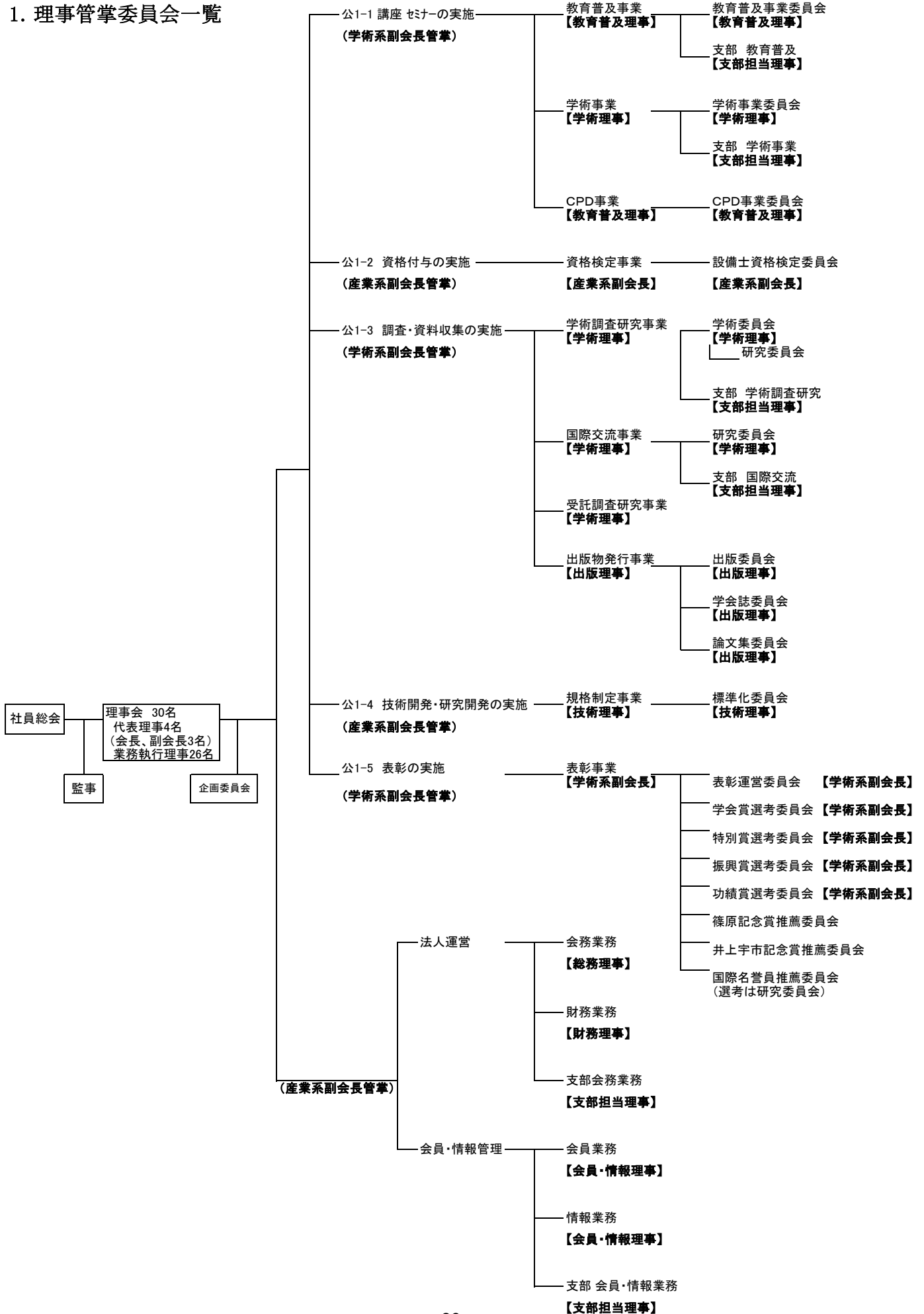
(3)他学協会との共同主催その他

	開催年月日	名 称	名義	申 請 者
1	30.7.1～7.30	平成30年度ヒートポンプ・蓄熱月間	協賛	(一財)ヒートポンプ・蓄熱センター
2	30.7.31～8.2	第35回エアゾル科学・技術研究討論会	協賛	日本エアゾル学会
3	30.6.7	セミナー「最新の冷媒問題への対応と展望2018」	協賛	(公社)日本冷凍空調学会
4	31.8.6～8.8	SBE 19 Tokyo国際会議	後援	SBE 19 Tokyo国際会議
5	30.7～12 30.7～31.2	平成30年度「電力負荷平準化・省エネルギー社会実現セミナー」及び「蓄熱技術研修会」/セミナー、研修会	協賛	(一財)ヒートポンプ・蓄熱センター
6	30.11.20～11.21	第47回日本医療福祉設備学会	後援	(一社)日本医療福祉設備学会
7	30.11.8、30.11.9	平成30年度ボイラーデー並びに第56回日本ボイラー大会	協賛	(一社)日本ボイラ協会
8	30.7.11～7.12	第28回環境工学総合シンポジウム2018	協賛	(一社)日本機械学会
9	30.10.9～10.12	第13回エコバランス国際会議	協賛	日本LCA学会
10	30.8.30～8.31	第31回におい・かおり環境学会	協賛	(公社)におい・かおり環境協会
11	30.11.14～11.16	第56回燃焼シンポジウム	共催・協賛	(一社)日本燃焼学会
12	30.6～12	住まいの環境デザイン・アワード2019	後援	東京ガスコミュニケーションズ(株)
13	30.12.11～12.13	第32回数値流体力学シンポジウム	協賛	(一社)日本流体力学会
14	級アナリスト 30.9.8、1・2級 30.12.15	2018年度計算力学技術者(CAE技術者)認定事業	協賛	(一社)日本機械学会
15	30.7.6	早稲田地球再生塾第1回勉強会「SDGs推進のための建築物の脱炭素化と新しい緑のデザイン-ZEB/ZEHの動向、自然エネルギー、バイオフィリックデザイン-」	後援	早稲田大学理工学術院総合研究所
16	30.9.5～9.7	2018年度日本冷凍空調学会年次大会	協賛	(公社)日本冷凍空調学会
17	30.8.24～8.26	2018年度「日本ヒートアイランド学会第13回全国大会」	協賛	日本ヒートアイランド学会
18	30.8.7 30.8.1～8.7	機械の日 機械週間	協賛	(一社)日本機械学会
19	30.9.7 31.2.22	室内環境学会講演会 2018 JASIS コンファレンス 東京/2019 大阪	後援	(一社)室内環境学会
20	未定	第17回環境・設備デザイン賞	後援	(一社)建築設備総合協会
21	30.10.15	平成30年度第1回講習会「スマートメータ・EMSデータの分析手法及び活用可能性」	協賛	(一社)エネルギー・資源学会
22	30.7.19	特別講演会「Energy Efficient Solutions for Commercial Kitchen Ventilation 厨房換気における省エネルギー手法」	後援	早稲田大学理工学術院
23	30.8.9	夏のリコチャレ 2018(理工チャレンジ事業)	後援	日本大学理工学部 株日刊建設通信新聞社
24	30.11.15	AI、IoTを活用した次世代空調冷凍システム	協賛	(公社)日本冷凍空調学会
25	30.8.25	第11回雨水ネットワーク全国大会2018 in 東京	後援	(公社)雨水貯留浸透技術協会 雨水ネットワーク全国大会in東京 実行委員会
26	30.9.27～9.28	講習会「『伝熱工学資料(改定第5版)』の内容を教材にした熱設計の基礎と応用」	協賛	(一社)日本機械学会
27	30.10.25～10.26	第63回FRP総合講演会・展示会	協賛	(一社)強化プラスチック協会
28	30.11.13～11.16	日本地熱学会平成30年学術講演会	協賛	日本地熱学会
29	30.12.5	BELCA資格者セミナー「超高層マンションの大規模修繕に関する考え方」	後援	(公社)ロングライフビル推進協会
30	30.9.10	放射(輻射)冷暖房協議会第3回セミナー「放射(輻射)冷暖房システムがもたらす快適性と効果について」	後援	放射(輻射)冷暖房協議会
31	30.11.20～11.22	HOSPEX Japan 2018	協賛	(一社)日本医療福祉設備協会 (一社)日本能率協会
32	30.11.20	成30年度「建築設備士の日」記念事業	後援	(一社)建築設備技術者協会
33	30.10.22	原子力総合シンポジウム2018	共催(負担なし)	日本学術会議総合工学委員会 (一社)日本原子力学会
34	30.9.15～11.15	日本医療機器学会第11回MDIC(医療機器情報コミュニケーター)認定セミナー/eラーニング	後援	(一社)日本医療機器学会
35	30.10.27	オータムワークショップ2018「私たちのエネルギーシステムをどのようにデザインするか」	協賛	(一社)エネルギー・資源学会

36	30.11.9	公共建築の日	後援	(一社)公共建築協会
	30.11.1~11.30	公共建築月間		
37	30.11.2	シンポジウム「快適な車室内環境技術-車室内技術レビュー2018-」	協賛	(公社)自動車技術会
38	30.11.8	第25回都市環境エネルギーシンポジウム	協賛	(一社)都市環境エネルギー協会
39	30.10.31	平成30年度講習会「設備診断セミナー『電気設備診断の基礎と事例』」	協賛	(一社)日本建築設備診断機構
40	福岡 30.11.20 東京31.1.25	平成30年度地域熱供給シンポジウム『「環境」と「防災」を両立させる面的エネルギーネットワーク整備をめざして』	協賛	(一社)日本熱供給事業協会
41	30.11.15~11.26	第44回腐食防食入門講習会	協賛	(公社)腐食防食学会
42	31.3.10~3.12	東京工芸大学 風工学 共同利用・共同研究拠点 国際ワークショップ「International Workshop on Wind Effects on Buildings and Urban Environment」	後援	東京工芸大学風工学研究センター
43	30.12.6~12.7	平成30年度室内環境学会学術大会	後援	(一社)室内環境学会
44	30.10.23	第14回建築設備シンポジウム「環境建築がひろがるこれからの価値創造」	後援	(一社)日本建築学会
45	30.11.19	第7回都市環境デザインフォーラム「低炭素・環境の時代、いま可能な都市計画への提案」	後援	(一社)日本建築学会
46	30.10.16~10.19	buildingSMART International Standards Summit Tokyo Japan	後援	(一社)buildingSMART Japan
47	30.11.28~11.29	平成30年度都市環境エネルギー技術研修会	協賛	(一社)都市環境エネルギー協会
48	31.1.24~1.25	第46回建築物環境衛生管理全国大会	後援	(公財)日本建築衛生管理教育センター
49	2019.6.25~6.28	「International Workshop Environmental Engineering 2019(IWEEE2019)」、「第29回環境工学総合シンポジウム2019」	協賛	(一社)日本機械学会
50	2019.4.23~4.24	第36回空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会	協賛	(公社)日本空気清浄協会
51	2019.2.7	コージェネシンポジウム2019	協賛	(一財)コージェネレーション・エネルギー高度利用センター
52	2019.2.28	第10回シンポジウム「建築設備の改修事例とIT技術の活用」	協賛	(一社)日本建築設備診断機構
53	2019.2.25	「日本建築学会環境基準 室内の臭気に関する対策・維持管理規準(AIJES・A003-2019)」	後援	(一社)日本建築学会
54	2019.3.1	「日本建築学会環境基準 雨水活用建築ガイドライン(AIJES-W0002-2019)」	後援	(一社)日本建築学会
55	2019.5.29~5.31	第24回計算工学講演会	協賛	(一社)日本計算工学会
56	関西 2019.2.6、 東京 2019.2.13	2019年Cx事例紹介シンポジウム in 関西 米国におけるコミッション事情の調査報告/2019年Cx事例紹介シンポジウム in 東京 米国におけるコミッション事情の調査報告	協賛	NPO法人建築設備コミッションング協会
57	2019.2.19	BIMの日2019シンポジウム「BIMによってなくなるもの・うまれるもの」	後援	(一社)日本建築学会
58	2019.5.29~5.31	第56回日本伝熱シンポジウム	共催(負担金なし)	(公社)日本伝熱学会理事第56回日本伝熱シンポジウム実行委員会
59	一次 2019.4(東京、大阪)、二次 2019.7~8(東京、大阪、札幌、福岡)	建築設備士第一試験受験準備講習会	協賛	建築設備士受験準備講習委員会
		建築設備士第二次試験受験準備講習会		(一社)日本設備設計事務所協会連合会 (一社)電気設備学会
60	2019.8.7~8.8	第28回日本エネルギー学会大会	協賛	(一社)日本エネルギー学会
61	2019.8.5~8.7	日本混相流シンポジウム2019	協賛	(一社)日本混相流学会
62	2019.4.16	公開シンポジウム「機械工学の将来展望:イノベーション創出にむけた次の一手」	共催(負担金なし)	日本学術会議機械工学委員会 機械工学の将来展望分科会
63	2019.9.4~9.6	2019年度工学教育研究講演会・第67回年次大会	協賛	(公社)日本工学教育協会
64	2019.9.13~9.15	日本流体力学会年会2019	協賛	(一社)日本流体力学会
65	①2019.11(東京、大阪)、②2019.6(東京、大阪)	①平成31年度「建築・設備総合管理士」	協賛	(公社)ロングライフビル推進協会
		②平成31年度「建築設備診断技術者」講習		
66	2019.5.24	セミナー「～新たなニーズに対応した～オフィスビルの戦略的な改修企画」	後援	(公社)ロングライフビル推進協会
67	2019.3.19	腐食防食部門委員会第326回例会「現場でできる腐食関連計測技術」	協賛	(公社)日本材料学会腐食防食部門委員会
68	2019.9.30	国際シンポジウム「ZEB時代の建築環境性能達成プロセスとは～コミッションングを軸として～」	協賛	NPO法人建築設備コミッションング協会
69	2019.6.6	セミナー「最新の冷媒問題への対応と展望2019」	協賛	(公社)日本冷凍空調学会
70	2019.7.1~7.31	ヒートポンプ・蓄熱月間	協賛	(一財)ヒートポンプ・蓄熱センター

Ⅲ. 事業報告

1. 理事管掌委員会一覧



2. 委員会

(1) 法人運営

委員会名 (委員長・主査)	開催回数	事業内容
企画委員会 田辺 新一	8	以下の検討を行った。 1. 会務全般に関する事項の事項 2. 理事会運営を適切に行うための議案整理に関する事項 3. 役員選挙に関する事項 4. 事業計画及び収支予算に関する事項 5. 事業報告及び決算報告に関する事項 6. 内部統制に関する事項 7. 法人運営の重要事項に関する事項 8. 各種規程制定に関する事項 9. 特別委員会設置ならび成果報告に関する事項 10. 代議員制ならびに働き方改革に関する事項 11. 海外協力団体との交流事業に関する事項 12. 関連学協会に関する事項
法人運営を統括する委員会 阿部 靖則	1	1. 学会運営に関する継続的な課題の検討を行った。 2. 事務局体制に関する課題を整理し進め方の協議を行った。 なお、本年度を持って委員会を終了する。
選挙管理委員会 加藤 信介	3	下記の事項について審議、決定した。 1. 第93期役員候補者選挙日程 2. 第93期役員候補者選挙の公示内容 3. 第93期役員候補者選挙の立候補、被推薦の確認 4. 第93期役員候補者選挙名簿の作成 5. 第93期役員候補者選挙開票
役員候補者選挙推薦委員会 富田 弘明	3	下記の事項について審議、決定した。 1. 第93期役員候補者選挙日程を確認した。 2. 第93期役員候補者選挙の被推薦者を選考し、選挙管理委員会へ推薦した。
代議員制検討委員会 阿部 靖則	6	下記の事項について検討し理事会に提案した。 1. 代議員制に関する質問への回答 2. 代議員制移行に関するご案内 3. 定款改定（案） 4. 代議員選挙規程（案） 5. 役員候補者選考規程（案） 6. 役員選考方法について提案 7. 代議員選出方法（案） 8. 代議員の選出と旅費 9. 代議員制検討委員会 議決権集票について 10. 業種別会員リスト 11. 移行スケジュール（案）
代議員選挙委員会 奥宮 正哉	3	下記の事項について審議、決定した。 1. 代議員選挙日程 2. 代議員選挙の公示内容 3. 代議員立候補者、被推薦者の確認 4. 代議員候補者選挙名簿の作成 5. 代議員選挙実施と開票

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
代議員候補者推薦委員会 千田 公男	3	下記の事項について審議、決定した。 1. 代議員選挙日程を確認した。 2. 代議員選挙の被推薦者を選考し、代議員選挙委員会へ推薦した。
働き方改革委員会 大塚 雅之	2	下記の事項について検討し理事会に提案した。 1. 基本方針 2. 運営方針 3. 検討課題の整理 4. 面談内容を整理
北海道胆振東部 地震被害調査 濱田 靖弘	3	1. 調査内容の検討 2. 現地調査 3. 被害調査報告の作成
省エネシミュレーション ツール評価法作成委員会 吉田 治典	6	第1回委員会：平成30年5月16日(水)、第2回委員会：平成30年7月2日(月) 1. テスト結果診断フローおよび理解度チェックリストの作成方針について議論した。 2. 空調システムテストの追加ケースの拡充内容について議論した。 第3回委員会：平成30年9月20日(木) 1. 空調システムテストのトライアル結果の詳細分析を行い、課題を抽出した。 2. 理解度チェックリストに関するアンケートを行い、目的・スコープ等について議論した。 3. 海外の参考文献としてCIBSEマニュアル Building Performance Modelling 2015の要約を行った。 第4回委員会：平成30年11月12日(月) 1. テスト結果の診断を行い易くするための空調システムテストのケース構成について議論した。 第5回委員会：平成31年1月28日(月)、第6回委員会：平成31年3月19日(火) 予定 1. 空調システムテストの定常ケースの構成と計算条件案を作成した。 2. シミュレーションツールの入力時チェックリストの素案を作成した。 3. ASHRAE SSPC140の活動状況を確認した。 4. Building Simulation 2019の投稿論文の内容を確認した。
次世代空調ビジョン 検討委員会 野部 達夫	4	建築設備エンジニアが目指すべき次世代空調のビジョンを描くべく、委員会を4回開催し、最新の空調設備を備える建物の視察や意見交換を行った。 <主要活動概要> 1. 委員会での討議内容 1) フラッグシップ型ZEBと普及型ZEBの必要性 2) 普及型ZEBをビジネスとするために必要な取り組みについて 3) 海外の建設事情について 2. 最新設備の視察 1) 地中熱採熱、躯体蓄熱を利用したZEB建物の視察 2) エネルギーサービスプロバイダ契約で運用されている建物の視察 3) 在室者の高精度センシングを取り入れたテナントビルで初のZEBを達成した建物の視察 4) 個別分散型空調システムでLEED-NCプラチナ認証を取得した建物の視察 委員会開催日：7月2日、10月30日、12月21日、3月19日

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
省エネ基準評価 技術提案委員会 倉淵 隆	3	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本特別委員会の設置目的と位置づけを共有した上で、優先的に提案すべき未評価技術の抽出と今後の進め方について検討した。 2. 本委員会の指導のもと、空気調和設備委員会ZEB計画指針検討小委員会で実施したアンケート調査結果を取りまとめ、学会ホームページにて「エネルギー消費性能計算プログラム（非住宅版）における未評価技術について」を公表した。 3. 国のZEBロードマップ検討委員会の動向、省エネ基準改正案の検討に係る手続きなどについて情報を共有した。 4. SWGの中心メンバー候補に挙げられた富樫英介先生（工学院大学）、山本佳嗣先生（東京工芸大学）、笹本太郎氏（東京ガス）にオブザーバーとして参加してもらい、次年度のSWG体制について検討した。
SHASE-REHVA nZEB 共同研究特別委員会 丹羽 英治	7	<ol style="list-style-type: none"> 1. 異なる気候と国におけるnZEBのエネルギー性能の比較 REHVA側で提案しているヨーロッパ各国でのnZEBのエネルギー性能比較手法の日本への適用方法について検討を行った。この手法はヨーロッパ各国で共通のレファレンスビルを設定し、様々な外壁条件、使用条件等を想定することでnZEBの要求性能値を比較している。SHASEでも同じレファレンスビル（オフィスビル）を設定し、WEBPROを用い、札幌の気候条件下で日本でのnZEB要求性能値を算出した。これによりヨーロッパ各国（フランス、ベルギー、フィンランド、エストニア）との要求性能値と日本の要求性能値の比較が可能となった。 2. 再生可能エネルギーの供給方法によるZEBの分類 再生可能エネルギーの供給方法によるZEBの分類方法について検討を行った。供給方法分類Ⅰ～ⅢによるZEBを「オンサイトZEB」、分類ⅣによるZEBを「オフサイトZEB」、分類ⅤによるZEBを「オフサイト・サプライZEB」とした。なお、ここで、分類Ⅳは、再生可能エネルギーの供給者と消費者が等しい場合、分類Ⅴは再生可能エネルギーの供給者と消費者が異なる場合とする。 3. バイオマス発電、グリーン電力の評価方法の検討 バイオマス発電、グリーン電力の評価方法について検討を行った。バイオマス発電は、再生可能エネルギー供給方法の分類Ⅲ～Ⅴとして扱い、系統電力利用時の一次エネルギー量とバイオマス発電システムの非再生可能一次エネルギー量との差分を再生可能エネルギー量とした。グリーン電力は、再生可能エネルギー供給方法の分類ⅣまたはⅤとして扱い、系統電力利用時とグリーン電力利用時の一次エネルギー量の差分を再生可能エネルギー量とした。 4. ヒートポンプ等による再生可能エネルギー熱利用の評価方法の検討 ヒートポンプや太陽熱利用等における再生可能エネルギー熱利用の評価方法についての検討を行った。

(2) 会員情報管理

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
技術フェロー 選考委員会 井上 純一	2	以下を協議し実施した。 1. 年次報告書、計画書、委員候補者、予算に関する事項 2. SHASE技術フェロー授与式に関する事項 3. 技術フェロー制度のお知らせ、募集案内に関する事項 4. 理事会に提案する認定者の定数に関する事項 5. SHASE技術フェロー認定者に関する事項
情報委員会 久保田 克己	2	下記につき審議、検討、管理を行った。 1. ホームページの運用管理全般 2. ホームページの利用状況の分析とフィードバック 3. バナー広告の管理（広告代理店(株)中外との連携） 4. 会員拡大のための各種情報提供ツールの検討 5. その他情報管理、会員拡大に関する事項の検討

(3) 北海道支部

1) 報告会 (第54期)

開催年月日	場 所	主 要 議 題
30.5.17	かでの 2・7	1. 来賓挨拶 2. 支部長挨拶 3. 会員の異動報告 4. 議 事 1) 平成29年度事業報告 2) 平成29年度決算報告 3) 運営委員の件 4) 平成30年度事業計画 5) 平成30年度収支予算 6) その他

社員総数 518名 当日出席28名

2) 各賞授与式および表彰式

開催年月日	場 所	内 容	参加者
30.5.17	かでの 2・7	第32回技術賞技術振興賞 平成29年度北海道支部学術講演会優秀発表奨励賞受賞者	48名

3) 特別講演会

開催年月日	場 所	内 容	参加者
30.5.17	かでの 2・7	共 催：(一社)建築設備技術者協会北海道支部 共 催：(一社)電気設備学会北海道支部 講 師：石井 勝氏 (電気設備学会 会長) 題 目：電気設備への雷害と対策	75名

4) 地区講演会

開催年月日	場 所	件 数	参加者
30.12.4	北海道大学工学部	担当幹事：菊田 弘輝、本間 康雄、宮本 一英、林 達也 内 容：基調講演 野部 達夫 (工学院大学建築学部 教授) 題 目：「ZEB (ネット・ゼロ・エネルギー・ビル) の最前線」	114名

5) 見学会

開催年月日	場 所	内 容	参加者
30.6.14、15 (後援)	北斗市、函館市	主 催：(一社)電気設備学会北海道支部 電気設備学会北海道支部設立20周年記念行事	30名
30.7.27	札幌市	担当幹事：山本 進、白土 博康、武田 清賢、甲斐 至 内 容 札幌市中央区北1条西1丁目 公共施設「さっぽろ創世スクエア」 見学箇所：施設全般 (ホール、放送局、オフィス、DHCなど)	48名

6) セミナー

開催年月日	場 所	内 容	参加者
31. 1. 28	札幌市立大学サテライト キャンパス	幹 事：斎藤 雅也、佐藤 秀紀、野川 貴史、水野 恭一 末松 辰朗 1. 開会挨拶 2. 基調講演 宿谷 昌則（東京都市大学） バイオクライマトロジーとエクセルギー 3. 講 演 I 村上 公哉（芝浦工業大学） 都市環境から考えるこれからのまちづくり 4. 講 演 II 小柳 秀光（北海学園大学） スマートコミュニティ～環境にやさしい安全・安心なま ちづくり～ 5. パネルディスカッション コーディネーター 斎藤 雅也 6. 閉会挨拶	54名

7) 運営委員会

開催年月日	場 所	主 要 議 題	出席者
30. 5. 10	北海道大学工学部	1. 理事会報告 2. 議 題 2.1 平成29年度事業報告 2.2 平成29年度決算報告 2.3 平成30年度事業計画 2.4 平成30年度収支予算案 2.5 支部総会について 3. その他	11名
30. 7. 24	北海道大学工学部	1. 報告事項（理事会報告） 支部からの理事会への報告内容 2. 本年度の幹事 本年度幹事紹介 3. 本年度の行事予定 4. 設備技術研究会 5. 技術振興賞 6. その他	23名

8) 有識者会議

開催年月日	場 所	主 要 議 題	出席者
30. 7. 24	北海道大学工学部	1. 本年度の幹事 2. 本年度の行事内容 3. 設備技術研究会 4. その他	8名

9) 学術講演会

開催年月日	場 所	件 数	参加者
30. 5. 18 (後援)	北海道大学学術交流会館	日本マンション学会2018北海道大会 (市民シンポジウム&学術大会) 参加者：シンポジウム75名 大会143名	218名
30. 11. 16 (共催)	北海道大学フロンティア応 用 科学研究棟	建設廃棄物のリサイクルに関する講演会 基調講演：道内建設廃棄物実態調査について 建設廃棄物の中間処理の現状 東京大学大学院 清家 剛准教授	60名
31. 3. 15 (協賛)	北海道大学 学術交流会館小講堂	テーマ：「SDGSの概要と金沢工業大学の取組み」 講 師：北川 達也氏（金沢工業大学地方創生研究所 SDGS推進センター講師 公認会計士） 聴講料：無料 主 催：日本機械学会北海道支部	29名
31. 3. 20 (主催)	北海道大学 学術交流会館講堂	担当幹事：阪田 義隆、小原 伸哉、小柳 秀光、李 相逸 発表演題：一般講演60題、特別講演1題 研究論文58題、技術報告0題（口頭34題、ポスター24題） 資料研究論文5題（官公庁：3名、民間：17名、大学等：71名）	91名
31. 3. 26 (共催)	北海道大学フロンティア応 用科学研究棟	主 催：HUとUBCの交流本事業 講演会題名 「再生可能エネルギー利用による分散型地域エネルギー供給」	49名

10) 幹事会

開催年月日	場 所	件 数	参加者
30. 10. 23	北海道大学工学部	1. 報告事項 理事会報告 支部から理事会への活動報告（実績、予定） 2. 本年度の行事について セミナー 地区講演会 見学会 学術講演会 3. 技術賞技術振興賞・住宅環境設備賞について 4. その他	13名
30. 12. 20	北海道大学工学部	1. 報告事項 理事会報告 支部から理事会への活動報告（実績、予定） 2. 本年度の行事について セミナー 地区講演会 見学会 学術講演会 3. 技術賞技術振興賞・住宅環境設備賞について 4. 第93期（平成31年度）予算申請書について 5. その他	20名
31. 3. 22	北海道大学工学部	1. 報告事項 1.1 理事会報告 1.2 支部から理事会への活動報告（実績、予定） 2. 本年度の実施内容報告 2.1 学術講演会 3. その他	10名

11) 講習会

開催年月日	場 所	主 要 議 題	出席者
30. 10. 26	かでの2.7	「建築設備の凍結・雪対策・計画設計施工の実務の知識」 講習会	49名
30. 11. 20 (後援)	北海道大学 学术交流会館第4会議室	第7回BSCA CxTE講習会 司会進行：上谷勝洋（東洋熱工業） 講習 1：計測技術演習 上谷 勝洋（東洋熱工業） 性能検証事例と演習1（水系性能検証） 三浦 克弘（鹿島建設） 性能検証事例と演習2（空気系性能検証） 田上 賢一（新菱冷熱工業） 講習 2：TE-A, Bの定義 Cx業務過程全般について 上谷 勝洋（東洋熱工業） 講習 3：TE-B業務フロー概要 田上 賢一（新菱冷熱工業） データ整理・可視化分析演習 山田 樹（日建設計総合研究所） シュミレーション技術演習 小野 永吉（鹿島建設）	40名

12) 研修会

開催年月日	場 所	主 要 議 題	出席者
31. 2. 4 (後援)	北海道設備会館	「建築設備士の日」平成30年度記念事業 「地震に強い建築設備」 ① 阪神・淡路大震災及び東日本大震災の建築設備被害 ② 地震に強い建築設備 講 師：(株)エイト設計技術部長 小山 俊幸氏	39名

13) 設備技術研究会

申請年月日	内 容	構成員
29. 10. 01	熱駆動ヒートポンプ 最新技術の調査と教育用デモ機作製 園田隆小委員長	7名

14) 設備士資格検定試験

開催年月日	場 所	件 数	受験者
30. 11. 24～25	北海道大学工学部	平成30年度（第63次）設備士資格検定試験 空調部門（申込者）41名 衛生部門（申込者）36名	29名 27名

(4) 東北支部

1) 報告会 (第45期)

開催年月日	場 所	主 要 議 題	参加者
30. 05. 21	仙台戦災復興記念館	1. 平成29年度 事業報告及び収支決算報告 2. 平成29年度 監査報告及び承認 3. 平成30年度 事業計画案・収支予算案の審議、承認	29名

2) 記念講演会

開催年月日	場 所	内 容	参加者
30. 05. 21	仙台戦災復興記念館	演題：「実在大学施設を教材とした建築・環境設備教育の 実践」 講師：大塚雅之氏 (空気調和・衛生工学会 副会長) 共催：(一社)建築設備技術者協会東北支部	31名

3) 研修会

開催年月日	場 所	内 容	参加者
30. 11. 21	仙台市戦災復興記念館	「建築設備の凍結・雪対策 計画設計施工の実務の知識」 研修会 (仙台) 開会あいさつ 須藤諭 (東北文化学園大学) 講演1 総論、寒冷地建物の建築計画 講師：赤井仁志 (福島大学) 講演2 給排水衛生設備の凍結事例と対策① 給排水衛生設備の凍結事例と対策② 講師：高橋秀一 (山形県設備技術協議会/㈱高橋設備設計) 講演3 空調・換気設備の凍結防止と雪対策 講師：村井裕康 (㈱山下設計 北海道支社) 講演3 電気設備の凍結事例と対策 講師：田原 誠 (㈱竹中工務店 東北支店)	46名

4) 東北支部第8回学術・技術報告会

開催年月日	場 所	内 容	参加者
31. 03. 13	東北大学 川内北キャンパス	1. 開会 2. 学術・技術報告 [口頭発表] 3. 特別セッション 「再生可能エネルギー先駆けの地・福島の実状と展望」 講師：服部 靖弘 (福島県産業振興センター エネルギー・エージェンシーふくしま) 4. 技術展示 5. 優秀発表奨励賞授与式 6. 閉会 7. 交流会	論文 41件 技術展示 5件 来場者 122名

5) 見学会

開催年月日	場 所	内 容	参加者
30.08.22	釜石市上中島復興公営住宅Ⅱ期 釜石市民ホール(TETTOテット) 釜石鶴住居復興スタジオ	平成30年度第1回見学会 第32回振興賞技術振興賞を受賞した釜石市上中島復興公営住宅Ⅱ期。 東日本大震災で壊滅的な被害のあった岩手県釜石市での復興公営住宅建設において、省エネルギー、自立エネルギーのシステムを取り入れスマートコミュニティに取り組んだプロジェクトと、2017年にオープンした838席の大ホールを有する釜石市民ホール(TETTOテット)の見学	26名

6) 後援行事

開催年月日	場 所	内 容	参加者
30.06.15	(株)ユアテック 本社 3階会議室	研修会『再エネ・環境アセスと駅トイレ整備』 主催：日本技術士会 東北本部 衛生工学・環境・上下水道部会	26名
30.06.19～23 30.06.26～30	郡山市民交流プラザ 第3会議室	平成30年度 再エネ・地域フロンティア人材養成事業計画 地中熱・未利用熱活用事業人材養成コース Aコース：地中熱・未利用熱採放熱技術習得コース Bコース：建築・環境・システム技術習得コース 主催：アカデミア・コンソーシアムふくしま	A延べ79名 B延べ78名
30.11.11～14	ホテル ハマツ	第45回日本技術士全国大会（福島） 主催：日本技術士会（主管：日本技術士会東北支部）	695名
31.03.11	東北電力(株)1F 1D会議室	東北技術セミナー 「ZEB化技術の最新動向と導入事例について」 主催 日本冷凍空調学東北地区事業推進委員会	27名

7) 平成30年度初級技術者研修会

①前期・入門編

開催年月日	場 所	内 容	参加者
30.04.23～27	宮城県管工事会館 9階大会議室	地球環境時代における建築設備と技術者の役割、熱の性質 講師：須藤 諭（東北文化学園大学大学院）	累計 77名
		都市設備・建築環境と建築設備との関わり、空気と水の性質 講師：須藤 諭（東北文化学園大学大学院）	
		建築設備に関わる建築と計画の入門 講師：渡邊 浩文（東北工業大学）	
		空気調和設備の概要、空気・熱・湿気と空気線図 空気の操作と空気の状態変化、空調熱負荷計算 講師：小林 光（東北大学）	
		熱源設備、空調配管と設計、換気設備・排煙設備 空調ダクトと設計 講師：小林 光（東北大学）	
		給排水衛生設備の概要、給水設備、給湯設備 講師：赤井 仁志（福島大学）	
		排水通気設備、衛生器具設備、再生可能エネルギー熱 特殊設備（浴場・プール設備、ディスプレイ等） 講師：赤井 仁志（福島大学）	

②後期・実務基礎編

開催年月日	場 所	内 容	参加者
30.05.07～11	宮城県管工事会館 空衛学会東北支部事務局	負荷計算、一次エネルギー計算、空気線図、空調全般 講師：小林 光（東北大学）	累計 47名
		ダクト、排煙設備、配管、防音、設計、耐震設計 講師：金田 清満（新菱冷熱工業株）	
		ポンプ・送風機 講師：吉富 利治（日立産機システム株）	
		給水設備、給湯設備①②、特殊設備 講師：赤井 仁志（福島大学）	
		排水通気設備、節水・節湯・湯水の有効利用、地震被害・凍結防策 講師：赤井 仁志（福島大学）	
		消火設備 講師：宮崎 謙介（ホーチキ株）	
		電気設備 講師：田原 誠（株竹中工務店東北支店）	
		自動制御 講師：佐伯 亮輔（ジョンソン・コントロールズ株 東北支店）	
		シーケンス制御・動力盤 講師：鈴木 正幸（古川電気工業株東北支社）	
		ヒートポンプ 講師：谷藤 浩二（ゼネラルヒートポンプ工業株）	

8) 設備士資格検定試験

開催年月日	場 所	内 容	参加者
30.11.24, 25	宮城県管工事会館 9階大会議室	平成30年度（第63次）設備士資格検定試験 受験申込者 空調部門：131名 衛生部門：121名	110名 96名

9) 第33回振興賞技術振興賞（応募数0件）/第16回住宅環境設備賞（応募数1件）

開催年月日	内 容
30.10.01 (第1回)	1. 推薦小委員会設置と審査スケジュールの概略調整 2. 事前に配布した資料を基に質疑項目を検討・作成 3. 質疑の洗い出しと質疑のまとめ
30.11.20 (第2回)	1. 岩手県花巻市にて現場調査・質問回答書の審査
30.11.21 (第3回)	1. 秋田県秋田市にて現場調査・質問回答書の審査
30.12.03 (第4回)	1. 現場調査内容の報告と審議 2. 推薦の可否の決定と推薦文作成担当者の選定 3. 審査結果の報告書作成（12月28日に本部へ報告）

10) 支部運営委員会

開催年月日	場 所	主 要 協 議 事 項	出席者
30.04.09 (第1回)	宮城県管工事会館 9階会議室	1. 平成30年度の会議等日程確認 2. 各行事等実施報告 3. 支部報告会の運営要領等協議 4. 今後の行事について	22名
30.07.02 (第2回)	宮城県管工事会館 9階会議室	1. 各行事等実施報告（支部報告会・講演会等） 2. 第46期東北支部運営委員会の担当について 3. 第33回振興賞技術振興賞、第16回住宅環境設備賞等各募集	20名
30.10.01 (第3回)	宮城県管工事会館 9階会議室	1. 各行事等実施報告（本部理事会報告等） 2. 第33回振興賞技術振興賞、第16回住宅環境設備賞募集結果 3. 今年度の行事について協議（第8回学術・技術報告会等）	20名
30.12.03 (第4回)	宮城県管工事会館 8階会議室	1. 各行事等実施報告 2. 今年度の行事について協議（第8回学術・技術報告会等）	18名
31.02.04 (第5回)	宮城県管工事会館 8階会議室	1. 各行事等実施報告 2. 今年度の行事について協議（第8回学術・技術報告会） 3. 来年度の行事について協議（初級技術者研修会等）	21名

11) 委員会・ワーキンググループ（随時開催）

- ①総務委員会
- ②会計委員会
- ③支部長・副支部長・事業幹事会議
- ④東北支部学術・技術報告会組織委員会／実行委員会
- ⑤技術研修委員会
- ⑥事業企画委員会
- ⑦東北地方建築設備研究委員会／専門委員WG
- ⑧振興賞審査委員会（応募があった場合設置）

(5) 中部支部

1) 中部支部報告会

開催年月日	場 所	主 要 議 題	参加者
30. 6. 11	中部大学名古屋キャンパス	1. 代表理事及び支部長挨拶 2. 支部活動報告 ・平成29年度事業報告、平成30年度事業計画 ・平成29年度決算、平成30年度予算 3. 第32回振興賞技術振興賞表彰式	54名

2) 報告会記念講演

開催年月日	場 所	題 目	参加者
30. 6. 11	中部大学名古屋キャンパス	「空気調和・衛生工学のこれからの役割—SDGsへの貢献」 田辺 新一（早稲田大学）	148名

3) 講演会

開催年月日	場 所	題 目	参加者
30. 10. 11	栄ガスビル	第32回中部支部振興賞技術振興賞及び第56回技術賞受賞作品紹介 1. 「中部大学スマートエコキャンパス～スマートコミュニティの実証モデルを目指して～」 河村 貢（清水建設） 2. 「雲南市役所新庁舎におけるZEBの実現」 竹部 友久（日本設計）	44名
31. 2. 27	東桜会館	最適化研究会 講演会 1. 「安全確保と省エネを同時に実現する研究所向け給排気管理システム i-Fume(アイ・ヒューム) の概要」 青山 剛士（高砂熱学工業） 2. 「多機能画像センサを活用したビル・施設の新しい価値創造」 野田 肇（東芝インフラシステムズ）	24名
31. 3. 6	東桜会館	第56回空気調和・衛生工学会技術賞受賞作品の紹介 1. 「YKKビルにおける環境・設備計画と実施」 水出喜太郎（日建設計） 2. 「竹中工務店東関東支店改修の環境・設備計画と実施」 田中 宏治（竹中工務店）	40名

4) 地区講演会

開催年月日	場 所	題 目	参加者
31. 2. 15	栄ガスビル	環境に配慮した災害に強いまちづくりに向けて～将来の地球温暖化対応と災害を未然に防ぐまちづくりの取り組み～ 1. 「将来の地球温暖化時代のまちづくり・都市づくりの提案と課題」 飯塚 悟（名古屋大学） 2. 「災害に強い安全・安心な街～都市再生安全確保計画の推進」 丹羽 克昭（名古屋市住宅都市局） 今枝 政人（名古屋市防災危機管理局）	71名

5) 第63次設備士資格検定試験

開催年月日	場 所	部 門	参加者
30. 11. 24	愛知学院大学名城公園キャンパス	空調部門	121名
30. 11. 25	愛知学院大学名城公園キャンパス	衛生部門	117名

6) 見学会

開催年月日	見 学 先	参加者
30. 8. 30	名城大学 ナゴヤドーム前キャンパス	36名
31. 1. 30	広小路クロスタワー、旧名古屋銀行本店ビル	28名

7) 講習会・シンポジウム

開催年月日	場 所	題 目	参加者
30. 11. 7 30. 11. 14 30. 11. 21	栄ガスビル	「空気調和・衛生設備の基礎知識技術研修会」 1. 地球環境と建築設備 横江 彩 (中部大学) 2. 空気調和の概要と設備計画 大野 剛志 (新日本空調) 3. 省エネルギーとマネジメント 石原 式真 (大林組) 4. 空気調和設備の方式 原 豊 (高砂熱学工業) 5. 空気調和の方式 (熱源方式) 小島 富也 (朝日工業社) 6. 自動制御と中央監視 若林 涼 (ジョンソンコントロールズ) 7. 給排水設備の概要、給水・給湯設備 平尾 昭文 (トーエネック) 8. 排水・通気設備、衛生器具設備 奥田 広志 (LIXIL) 9. 消火設備 宮崎 謙介 (ホーチキ)	30. 11. 7 (46名) 30. 11. 14 (48名) 30. 11. 21 (46名)

8) 中部支部学術研究発表会 (第20回)

開催年月日	場 所	内 容	参加者
31. 3. 13	東桜会館	空気調和・衛生・環境工学全般に関する研究及び事例・論文発表。ポスター発表及び優秀ポスター賞の表彰。	発表会: 75名 交流会: 53名

9) 中部支部 賛助会員会

開催年月日	場 所	内 容	参加者
30. 10. 23	東桜会館	演 題「名古屋大学付属病院における管理一体ESCO事業の事例紹介」 高井 裕紀 (三機工業)	講演会: 50名 交流会: 45名

10) 建築設備研究会

開催年月日	場 所	内 容	参加者
30.6.25	名城大学 ナゴヤドーム前キャンパス	公開研究会「たばこと喫煙環境に関する最新事情と建築的課題」 1. 「加熱式たばこの現状－紙巻たばこの違いについて－」 浅井 琢也 (日本たばこ産業) 2. 「室内環境における紙巻きたばこのにおい評価」 棚村 壽三 (大同大学) 3. 「喫煙室・喫煙スペースの設計事例」 宮治 裕之 (石本建築事務所)	65名
30.12.7	名城大学 ナゴヤドーム前キャンパス	公開座談会「公共建築の設計プロポーザルにおける環境設備について考える」 1. 「いなべ市庁舎」 山口 智三 (日建設計) 2. 「小諸市新庁舎」 関根 能文 (石本建築事務所) 3. 「名古屋城展示収蔵施設」 原 正二郎 (安井建築設計事務所)	93名

11) 委員会・その他

①支部運営委員会

開催日	開催場所	内 容	
30.4.24	TOTO名古屋 コラボレーションルーム	本部理事会報告、事業報告、今後の事業 他	13名
30.5.15	TOTO名古屋 コラボレーションルーム	本部理事会報告、事業報告、今後の事業 他	16名
30.6.26	TOTO名古屋 コラボレーションルーム	本部理事会報告、事業報告、今後の事業 他	14名
30.7.24	TOTO名古屋 コラボレーションルーム	本部理事会報告、事業報告、今後の事業 他	13名
30.8.28	TOTO名古屋 コラボレーションルーム	本部理事会報告、事業報告、今後の事業 他	18名
30.9.25	TOTO名古屋 コラボレーションルーム	本部理事会報告、事業報告、今後の事業 他	14名
30.10.23	東桜会館	本部理事会報告、事業報告、今後の事業 他	13名
30.11.27	TOTO名古屋 コラボレーションルーム	本部理事会報告、事業報告、今後の事業 他	15名
31.1.22	TOTO名古屋 コラボレーションルーム	本部理事会報告、事業報告、今後の事業 他	13名
31.2.26	TOTO名古屋 コラボレーションルーム	本部理事会報告、事業報告、今後の事業 他	12名
31.3.26	TOTO名古屋 コラボレーションルーム	本部理事会報告、事業報告、今後の事業 他	14名

②最適化研究会

開催年月日	場 所	内 容	出席者
30. 5. 24 (第179回)	中部大学名古屋キャンパス	講 演:「k平均法を用いた大学施設のエネルギー消費の年度変化パターンの分析」 山羽 基、ネパール ビシュヌ (中部大学) 話題提供: datanaviとナノイーXの製品紹介 尾崎 信也、鳶岡 健太 (パナソニック)	13名
30. 7. 26 (第180回)	中部大学名古屋キャンパス	講 演:「MieruTime 4Dの開発」 牧野 裕介 (中部電力) 話題提供:「省力化・効率化の取組みについて」 中井 一夫 (トーエネック)	16名
30. 9. 27 (第181回)	中部大学名古屋キャンパス	講 演:「高齢者施設における空調計画の留意点」 村上 栄造 (朝日工業社) 話題提供:『2050年の展望』 水原 一樹 (清水建設)	12名
30. 11. 26 (第182回)	中部大学名古屋キャンパス	講 演:「全外気空調向け直膨システムの開発 ～シームレス直膨空調機～」 村上 裕紀 (大気社) 話題提供:「クラウドBEMS」 小林 哲哉 (三菱地所設計)	11名
31. 2. 4 (第183回)	中部大学名古屋キャンパス	講 演:「高密度蓄熱材の適用温度範囲拡大に関する研究開発状況」 谷口 順一 (東邦ガス) 話題提供:「アルミンジャー工法」 河村 英之 (三機工業)	12名
31. 2. 27 (第184回)	東桜会館	講演会として記載	24名

③学術事業企画委員会

開催年月日	場 所	内 容	出席者
30. 9. 28	中部大学名古屋キャンパス	平成30年度(第20回)学術研究発表会論文投稿日程 分担調整	7名
31. 2. 21	中部大学名古屋キャンパス	平成30年度(第20回)学術研究発表会のプログラム 及び当日の役割分担の決定	7名

④振興賞推薦委員会

開催年月日	場 所	内 容	出席者
30. 9. 7	名古屋大学	応募状況の確認・役割分担の検討・今後の進め方	3名
30. 10. 18	名古屋大学	応募状況の確認・住宅環境設備賞の審査について	7名
30. 11. 29	名古屋大学	応募状況の検討・今後の進め方・日程の検討	6名

(6) 北信越支部

1) 支部報告会（第49回）

開催年月日	場 所	報 告 事 項
30. 6. 1	富山市 オークスカナル パークホテル富山	1. 平成29年度事業報告 2. 平成29年度収支決算報告 3. 平成30年度事業計画 4. 平成30年度収支予算 5. 平成30年度支部運営委員 6. その他 ・第32回 振興賞 技術振興賞 授与式

2) 活動・運営委員会

①支部

開催年月日	場 所	内容・主要議題	出席者
30. 6. 1	富山市 オークスカナル パークホテル富山	1. 支部運営委員会	18名
30. 6. 1	富山市 オークスカナル パークホテル富山	1. 講演会 「建築・環境教育を实践する大学施設の計画・設計と性能検証」	67名
30. 6. 2	富山県美術館、中島閘門	1. 見学会	42名
30. 7. 25	Web会議	1. 支部運営委員会 今後の支部運営について 他	9名
30. 8. 27	富山市 富山第一ホテル	1. 支部運営委員会 今後の支部運営について 他	12名
30. 8. 27	富山市 富山第一ホテル	1. 学術委員会 学術委員会の活動について	5名
30. 11. 26	Web会議	1. 支部運営委員会 今後の支部運営について 他	8名
31. 3. 26	富山市 富山第一ホテル	1. 支部運営委員会 今後の支部運営について 他	15名
31. 3. 26	富山市 富山第一ホテル	1. 学術委員会 学術委員会の活動について	5名

②福井県

開催年月日	場 所	内容・主要議題	出席者
30. 6. 1	富山市 オークスカナル パークホテル富山	1. 支部運営委員会	4名
30. 6. 1	富山市 オークスカナル パークホテル富山	1. 講演会 「建築・環境教育を实践する大学施設の計画・設計と性能検証」	5名
30. 6. 2	富山県美術館、中島閘門	1. 見学会	4名
30. 8. 27	富山市 富山第一ホテル	1. 支部運営委員会 今後の支部運営について 他	1名
30. 8. 27	富山市 富山第一ホテル	1. 学術委員会 学術委員会の活動について	1名
30. 11. 12	福井県 福井県年縞博物館、 若狭三方縄文博物館	1. 見学会	21名
30. 11. 26	Web会議	1. 支部運営委員会 今後の支部運営について 他	1名

31.3.6	福井市 福井県国際交流会館	1. 技術講習会 「デシカント空調機の数値解析モデルとシステムシミュレーション」 他	34名
31.3.26	富山市 富山第一ホテル	1. 支部運営委員会 今後の支部運営について 他	3名
31.3.26	富山市 富山第一ホテル	1. 学術委員会 学術委員会の活動について	1名

③石川県

開催年月日	場 所	内容・主要議題	出席者
30.6.1	富山市 オークスカナル パークホテル富山	1. 支部運営委員会	5名
30.6.1	富山市 オークスカナル パークホテル富山	1. 講演会 「建築・環境教育を実践する大学施設の計画・設計と性能検証」	15名
30.6.2	富山県美術館、中島閘門	1. 見学会	8名
30.6.12	金沢市 石川県地場産業振興センター	1. 技術講習会 「直流配電ネットワークシステム」 他	72名
30.7.25	Web会議	1. 支部運営委員会 今後の支部運営について 他	4名
30.8.21	金沢市 石川県地場産業振興センター	1. 技術講習会 「LED照明ソフト技術の進化 実例による最新の照明設計手法」 他	39名
30.8.27	富山市 富山第一ホテル	1. 支部運営委員会 今後の支部運営について 他	5名
30.8.27	富山市 富山第一ホテル	1. 学術委員会 学術委員会の活動について	1名
30.10.16	金沢市 金沢市企業局、末浄水場	1. 見学会 「浄水場施設紹介及び見学」 他	55名
30.11.14	金沢市 石川県地場産業振興センター	1. 研修会 「地下水利用・天井放射空調における執務者冷感とクールスポット設定」 他	110名
30.11.26	Web会議	1. 支部運営委員会 今後の支部運営について 他	4名
31.2.15	金沢市 北陸電力 「キッチンスタジオ匠」	1. 設備女子会 「最新電化厨房機器の調理方法について」	17名
31.2.19	金沢市 石川県地場産業振興センター	1. 技術講習会 「最新の消防法の改正及び電気設備に於ける防災設備について」 他	50名
31.3.26	富山市 富山第一ホテル	1. 支部運営委員会 今後の支部運営について 他	5名
31.3.26	富山市 富山第一ホテル	1. 学術委員会 学術委員会の活動について	1名

④富山県

開催年月日	場 所	内容・主要議題	出席者
30.6.1	富山市 オークスカナル パークホテル富山	1. 支部運営委員会	3名

30.6.1	富山市 オークスカナル パークホテル富山	1. 講演会 「建築・環境教育を実践する大学施設の計画・設計と性能検証」	9名
30.6.2	富山県美術館、中島開門	1. 見学会	7名
30.7.25	Web会議	1. 支部運営委員会 今後の支部運営について 他	1名
30.8.27	富山市 富山第一ホテル	1. 支部運営委員会 今後の支部運営について 他	3名
30.8.27	富山市 富山第一ホテル	1. 学術委員会 学術委員会の活動について	1名
30.11.16	富山市 富山電気ビル	1. 設備フォーラム 「空調器予兆診断機能について」 他	78名
30.11.26	Web会議	1. 支部運営委員会 今後の支部運営について 他	1名
31.3.8	富山市 高志会館	1. 講習会 「富山市SDGs未来都市について」 他	65名
31.3.26	富山市 富山第一ホテル	1. 支部運営委員会 今後の支部運営について 他	3名
31.3.26	富山市 富山第一ホテル	1. 学術委員会 学術委員会の活動について	1名

⑤新潟県

開催年月日	場 所	内容・主要議題	出席者
30.5.24	新潟市 新潟卸センターnocプラザ	1. 講習会 「換気設備について」	68名
30.6.1	富山市 オークスカナル パークホテル富山	1. 支部運営委員会	3名
30.6.1	富山市 オークスカナル パークホテル富山	1. 講演会 「建築・環境教育を実践する大学施設の計画・設計と性能検証」	18名
30.6.2	富山県美術館、中島開門	1. 見学会	15名
30.7.25	Web会議	1. 支部運営委員会 今後の支部運営について 他	2名
30.7.26	新潟市 新潟卸センターnocプラザ	1. 講習会 「特殊空調機について」 (直膨エアハン、デシカント空調機)	57名
30.8.27	富山市 富山第一ホテル	1. 支部運営委員会 今後の支部運営について 他	2名
30.8.27	富山市 富山第一ホテル	1. 学術委員会 学術委員会の活動について	1名
30.9.13	新潟市 新潟卸センターnocプラザ	1. 講習会 「消雪・融雪設備について」	55名
30.11.9	上越市、富山市 上越市立水族博物館(愛称：うみがたり)、富山県美術館、富山市ガラス美術館	1. 見学会	41名
30.11.15	新潟市 新潟卸センターnocプラザ	1. 講習会 「給排水設備について」	56名

31.3.8	新潟市 新潟テルサ	1. 技術講演会 「コンピューター気流解析の最新動向」 他	71名
31.3.26	富山市 富山第一ホテル	1. 支部運営委員会 今後の支部運営について 他	2名
31.3.26	富山市 富山第一ホテル	1. 学術委員会 学術委員会の活動について	1名

⑥長野県

開催年月日	場 所	内容・主要議題	出席者
30.6.1	富山市 オークスカナル パークホテル富山	1. 支部運営委員会	2名
30.6.1	富山市 オークスカナル パークホテル富山	1. 講演会 「建築・環境教育を实践する大学施設の計画・設計と性能検証」	6名
30.6.2	富山県美術館、中島閘門	1. 見学会	6名
30.7.18	長野市 信州大学工学部	1. 講演会 「全空気式放射整流空調システム」	116名
30.7.25	Web会議	1. 支部運営委員会 今後の支部運営について 他	2名
30.8.27	富山市 富山第一ホテル	1. 支部運営委員会 今後の支部運営について 他	1名
30.8.27	富山市 富山第一ホテル	1. 学術委員会 学術委員会の活動について	1名
30.11.15	長野市 サンマリーンながの	1. 見学会	55名
30.11.26	Web会議	1. 支部運営委員会 今後の支部運営について 他	2名
31.3.26	富山市 富山第一ホテル	1. 支部運営委員会 今後の支部運営について 他	2名
31.3.26	富山市 富山第一ホテル	1. 学術委員会 学術委員会の活動について	1名

3) 設備士資格検定試験

開催年月日	場 所	内容・主要議題	出席者
30.11.24	新潟テルサ	空調部門	29名
30.11.25		衛生部門	29名

4) 見学会・講演会・講習会・フォーラム

開催年月日	場 所	内容・主要議題	出席者
30.5.24	新潟市 新潟卸センターnocプラザ	1. 講習会 「換気設備について」	68名
30.6.1	富山市 オークスカナル パークホテル富山	1. 講演会 「建築・環境教育を实践する大学施設の計画・設計と性能検証」	67名
30.6.2	富山県美術館、中島閘門	1. 見学会	42名
30.6.12	金沢市 石川県地場産業振興センター	1. 技術講習会 「直流配電ネットワークシステム」 他	72名

30. 7. 18	長野市 信州大学工学部	1. 講演会 「全空気式放射整流空調システム」	116名
30. 7. 26	新潟市 新潟卸センターnocプラザ	1. 講習会 「特殊空調機について」(直膨エアハン、デシカント空調機)	57名
30. 8. 21	金沢市 石川県地場産業振興センター	1. 技術講習会 「LED照明ソフト技術の進化 実例による最新の照明設計手法」 他	39名
30. 9. 13	新潟市 新潟卸センターnocプラザ	1. 講習会 「消雪・融雪設備について」	55名
30. 10. 16	金沢市 金沢市企業局、末浄水場	1. 見学会 「浄水場施設紹介及び見学」 他	55名
30. 11. 9	上越市、富山市 上越市立水族博物館(愛称：うみがたり)、富山県美術館、富山市ガラス美術館	1. 見学会	41名
30. 11. 12	福井県 福井県年縞博物館、若狭三方縄文博物館	1. 見学会	21名
30. 11. 14	金沢市 石川県地場産業振興センター	1. 研修会 「地下水利用・天井放射空調における執務者冷感とクールスポット設定」 他	110名
30. 11. 15	長野市 サンマリーンながの	1. 見学会	55名
30. 11. 15	新潟市 新潟卸センターnocプラザ	1. 講習会 「給排水設備について」	56名
30. 11. 16	富山市 富山電気ビル	1. 設備フォーラム 「空調器予兆診断機能について」 他	78名
31. 2. 15	金沢市 北陸電力 「キッチンスタジオ匠」	1. 設備女子会 「最新電化厨房機器の調理方法について」	17名
31. 2. 19	金沢市 石川県地場産業振興センター	1. 技術講習会 「最新の消防法の改正及び電気設備に於ける防災設備について」 他	50名
31. 3. 6	福井市 福井県国際交流会館	1. 技術講習会 「デシカント空調機の数値解析モデルとシステムシミュレーション」 他	34名
31. 3. 8	富山市 高志会館	1. 講習会 「富山市SDGs未来都市について」 他	65名
31. 3. 8	新潟市 新潟テルサ	1. 技術講演会 「コンピューター気流解析の最新動向」 他	71名

(7) 近畿支部

I. 事務報告

1) 支部報告会並びに関連行事

① 支部報告会 (第55期)

開催年月日	場 所	主 要 議 題
30. 5. 18	ガーデンシティ クラブ大阪	1. 平成29年度 事業実績報告の件 2. 平成29年度 収支決算報告の件 3. 平成30年度 事業計画案報告の件 4. 平成30年度 収支予算案報告の件 5. 平成30年度 委員選任の件 以上各報告

参加者 47人

② 記念講演会

開催年月日	場 所	題 目・講 師
30. 5. 18	ガーデンシティ クラブ大阪	「成熟型社会においてランドスケープの視点からアプローチした植物、緑の 展開論」 講師：増田 昇 大阪府立大学名誉教授

参加者 61人

2) 運営委員会

開催年月日	場 所	主 要 議 題
30. 4. 27	エル・おおさか	1. 本部理事会報告の件 2. 各委員会の報告事項及び審議事項に関する件 3. 支部報告会開催に関する件 4. 会計報告(収支報告・予算案)に関する件
30. 5. 18 (拡大)	ハービスPLAZA 会議室	1. 本部理事会報告の件 2. 支部長からの連絡事項 3. 委員等の交代に関する件 4. 第55期支部報告会・関連行事等に関する件 5. 各委員会の報告事項及び審議事項に関する件
30. 6. 19 (拡大)	ドーンセンター	1. 本部理事会報告の件 2. 支部長からの連絡事項 3. 平成30年度各委員会の役割に関する件 4. 各委員会の報告事項及び審議事項に関する件 5. 平成30年度年間予定表(各委員会別)に関する件
30. 7. 27	エル・おおさか	1. 本部理事会報告の件 2. 支部長からの連絡事項 3. 各委員会の報告事項及び審議事項に関する件 4. 平成30年度年間予定表(各委員会別)に関する件
30. 10. 22 (拡大)	エル・おおさか	1. 本部理事会報告の件 2. 支部長からの連絡事項 3. 各委員会の報告事項及び審議事項に関する件 4. 平成30年度年間予定表(各委員会別)に関する件
30. 12. 17	エル・おおさか	1. 支部長からの連絡事項 2. 各委員会の報告事項及び審議事項に関する件 3. 新年交礼会開催に関する件 4. 支部組織図に関する件

31. 1. 11 (拡大)	ハービスPLAZA 会議室	1. 本部理事会報告の件 2. 支部長からの連絡事項 3. 各委員会の報告事項及び審議事項に関する件 4. 会計報告(収支報告・予算案)に関する件 5. 平成31年度委員会開催日程の件
31. 3. 18 (拡大)	エル・おおさか	1. 本部理事会報告の件 2. 各委員会の委員長交代の件 3. 各委員会の報告事項及び審議事項に関する件 4. 平成31年度年間予定(各委員会別)に関する件

II. 事業報告

1) 第33回振興賞技術振興賞に関する業務実施

技術振興賞推薦小委員会にて審査資料を検討の上、現地調査を行い審査

2) 平成30年度(第63次)設備士資格検定試験(大阪)に伴う業務実施

試験日 平成30年11月24日(土) 空調部門 受験申込者 176名

平成30年11月25日(日) 衛生部門 受験申込者 179名

試験場 大阪大学

3) 能力開発委員会

①研修会(1)

開催年月日	場 所	内 容	受講者
30. 5. 7~11	エル・おおさか	初級技術者のための基礎知識研修会 研修科目 16科目	全 講 座 62名 パート別 12名

プログラム

区分	日程	時 間	題 目	講 師	所 属
共 通	5. 7	9:30~11:00	建築設備の知識	弓崎 幸治	㈱東畑建築事務所
		11:10~12:30	電気の知識	北野 勝也	㈱きんでん
		13:30~15:30	設備図面の知識	梅村 俊輔	㈱日建設計
		15:40~17:40	施工と安全管理	平 俊樹	ダイダン(株)
給排水	5. 8	9:30~12:30	給水・給湯設備	竹原 貴子	須賀工業(株)
		13:30~15:30	衛生器具設備	小出啓次郎	TOTO(株)
		15:40~17:40	消火設備	渡具知善治	元(株)城口研究所
5. 9	9:30~12:30	排水・通気設備	森嶋 章浩	㈱西原衛生工業所	
	13:30~15:30	排水処理設備	大屋 雅英	㈱西原ネオ	
	15:40~17:40	配管と材料	森下隆一郎	㈱三晃空調	
空 調	5. 10	9:30~11:00	室内環境	小林 知広	大阪大学
		11:10~12:30	空調負荷	千原 崇	三機工業(株)
		13:30~15:00	空調・換気設備	辻 晴亮	三機工業(株)
	5. 11	9:30~12:30	湿り空気線図	谷口 勝則	㈱昭和設計
13:30~16:00		熱源設備	門脇 宏和	新日本空調(株)	
16:10~17:40		排煙設備	新保東輝彦	㈱朝日工業社	

②研修会(2)

開催年月日	場 所	内 容	受講者
30. 6. 5~ 6 30. 6. 12~13	エル・おおさか	中堅技術者のための研修会(パート1~8)	全 講 座 17名 パート別 32名

プログラム

開催年月日	時 間	題 目・講 師		
30. 6. 5	10:00～13:00	設備設計の重要性と魅力	田中 宏昌	(株)日建設計
	14:00～17:00	建物を長生きさせるために	坂元 永和	(株)大気社
30. 6. 6	10:00～13:00	多様化する空調熱源に対応する	吉田 岳	新日本空調(株)
	14:00～17:00	ZEBを支えるビル管理システム	福田 裕行	(株)大林組
30. 6.12	10:00～13:00	未経験の物件用途を担当するために	野口 照二	高砂熱学工業(株)
	14:00～17:00	クリーンルーム空調のノウハウがここに	中村 浩二	新菱冷熱工業(株)
30. 6.13	10:00～13:00	給排水衛生設備技術者としてのステップアップ	加川 一郎	須賀工業(株)
	14:00～17:00	現場代理人初心者に向けて・トラブル事例は必見	平 裕二	ダイダン(株)

③一般講習会

開催年月日	場 所	内 容	受講者
31. 2.22	大阪産業創造館	～建築物の健康、知的生産性に関する環境設計～（知的生産性向上に向けたウェルネスの動向） 1. オフィスの健康性、知的生産性に関する評価方法の概要 林 立也（千葉大学） 2. ABW オフィスにおけるワークスタイルの研究 徳村朋子（竹中工務店）	62名

4) 見学会委員会

開催年月日	見 学 場 所	参加者
30.11.29	京都駅ビル（熱源・空調更新工事コミッションングプロジェクト）	59名
31. 2.26	大阪梅田ツインタワーズ・サウス	21名

5) 学術研究発表委員会

①第48回学術研究発表会

申込締切 平成31年1月9日（水）
原稿締切 平成31年2月22日（金）
開催日時 平成31年3月11日（月）
会 場 大阪大学中之島センター

一般講演 86件、技術報告講演 9件、参加 156名
奨励賞審査員 16名、司会者 18名
奨励賞受賞者 8名

6) 広報・情報委員会

①支部ホームページの運用・維持管理

研究会・講習会の資料をホームページよりダウンロードするシステム運営中
研修会・講習会の申し込みをホームページ上で行うシステム運営中

②ホームページの活用法等に関する検討と提案

環境工学研究会の会員申し込みをホームページ上で行うシステム運営中

③技術資料収集および支部広報活動の検討

④その他

学術研究発表会論文集のPDF化
支部パンフレットの配布

7) 国際交流委員会

①国際技術動向報告会

実施日 平成31年1月11日（金）

場 所 ハービスPLAZA

演 題 「2018年ASHRAE冬季大会(シカゴ)視察報告と米国のZEB(ゼロ・エネルギー・ビル)の最新技術の探訪視察報告」

講 師 大岡 龍三（東京大学）

熊谷 雅彦（日本ファシリティソリューション）

田中 拓也（大成建設）

白石 晃平（竹中工務店）

参加者 45名

②第9回国際学生交流会

留学生を対象に研究交流・見学会・交流会を実施

実施日 平成30年10月26日（金）

場 所 hu+gMUSEUM

参加者 34名

③国際学術交流講演会

実施日 平成31年1月11日（金）

場 所 ハービスPLAZA

演 題 「韓国南部の住宅改修手法について（省エネ項目の特定手法他）」

講 師 Prof. Kee Han Kim, Ulsan University（蔚山大学）

参加者 31名

④空気調和・衛生工学会近畿支部国際交流事業

8) 総務企画委員会

①運営委員会、運営委員会（拡大）、支部報告会に関する検討

②運営委員会、運営委員会（拡大）の議事次第、議事録作成並びに年間予定表（各委員会別）の随時更新

9) 環境工学研究会運営委員会

①登録数 個人登録：72名 団体登録：38社

②プログラム

開催年月日	場 所	題 目・講 師	参加者
30. 6. 15 (第333号)	ドーンセンター	「ウェルネスオフィスと環境設備」 報告者：水出喜太郎 (日建設計エンジニアリング部門設備設計グループ設備設計部長) 田中 宏治 (竹中工務店東京本店設計部設備部門 グループ長)	57名
30. 7. 20 (第334号)	ドーンセンター	振興賞技術振興賞、支部学術研究発表会奨励賞の成果報告	39名
30. 9. 21 (第335号)	ドーンセンター	「快適な建築・地域・コミュニティの未来を実現するために」 報告者：岡田 泰典（日建設計 設計部長） 飯塚 悟（名古屋大学 准教授）	29名

30. 10. 19 (第336号)	ドーンセンター	「湿度コントロールと省エネルギー」 報告者：佐藤 友紀 (大建工業) 桃井 良尚 (福井大学)	26名
30. 11. 16 (第337号)	ドーンセンター	「まだみんなよく知らないー新しい技術・新しい認証制度・新しい工法」 報告者：中曾 康壽 (大阪市立大学複合先端機構 特別研究員) 柳瀬 真紀 (ウィリディスMEPエンジニアリング) 内山 聖士 (三機工業 技術研究所 主任研究員)	39名
30. 12. 12 (第338号)	ドーンセンター	「持続可能な開発目標 (SDGs) を実現するために」 報告者：川久保 俊 (法政大学 准教授) 前田 淳 (近畿経済産業局 通商部国際事業課 課長) 切田 澄礼 (立命館大学 Sustainable Week実行委員長)	49名
31. 1. 25 (第339号)	ドーンセンター	「衛生消火設備、ユーティリティー設備の自動制御」 報告者：新津 正浩 (アズビル) 吉川 昭光 (ヤマトプロテック)	22名

10) 会員委員会

①会員数増加に関する方策検討

(8) 中国・四国支部

1) 報告会

開催年月日	場 所	主 要 議 題	参加者
30.6.1	広島ガーデンパレス	1. 平成29年度事業報告に関する件 2. 平成29年度収支決算報告に関する件 3. 平成30年度事業計画報告に関する件 4. 平成30年度収支予算報告に関する件	31名

2) 地区講演会（総会付帯）

開催年月日	場 所	題 目	参加者
30.6.1	広島ガーデンパレス	「建築設備システムのコミッショニングと運用管理」 講 師：東京大学大学院工学系研究科建築学専攻 教授 赤司 泰義	79名

3) 支部運営委員会

開催年月日	場 所	主 要 議 題	出席者
30.7.26	広島管工事会館	1. 平成30年度事業計画案に関する件 2. 平成30年度設備士試験の実施に関する件 3. 次年度支部報告会の日取りに関する件 4. 情報運営委員会の活動に関する件 5. 学術研究委員会の活動に関する件 6. 振興賞スケジュールに関する件	6名
30.9.18	広島管工事会館	1. 技術発表会、スチューデントフォーラムの開催に関する件 2. 施設見学会の開催に関する件 3. 本部・支部打合せの報告に関する件	10名
30.12.20	広島管工事会館	1. 平成30年度事業報告・事業計画案に関する件 2. 施設見学会の開催に関する件 3. 次年度予算案に関する件	7名

4) 学術研究委員会

開催年月日	場 所	主 要 議 題	出席者
30.5.2	広島管工事会館	1. 委員会の活動に関する件	5名
30.6.23	広島大学東千田キャンパス	1. 委員会の活動に関する件	10名

5) 情報運営委員会

開催年月日	場 所	主 要 議 題	出席者
30.5.24	広島管工事会館	1. 支部ホームページの更新に関する件	7名
30.8.27	広島管工事会館	1. 支部ホームページの更新に関する件	6名
30.11.29	広島管工事会館	1. 支部ホームページの更新に関する件	6名
31.3.7	広島管工事会館	1. 支部ホームページの更新に関する件	6名

6) 委員会合同会議

開催年月日	場 所	主 要 議 題	出席者
30.5.2	広島管工事会館	1. 報告会当日のスケジュールに関する件 2. 報告会報告事項に関する件	16名
30.6.1	広島ガーデンパレス	1. 報告会並びに関連行事運営の細目に関する件	20名

7) 振興賞技術振興賞推薦小委員会

開催年月日	場 所	主 要 議 題	出席者
30.11.9	広島管工事会館	1. 応募業績のヒアリングに関する件 2. 今後の審査予定に関する件	6名

30.12.3		1. 現地調査に関する件	4名
30.12.7		1. 現地調査に関する件	4名
30.12.20	広島管工事会館	1. 応募業績現地調査報告に関する件 2. 推薦業績の決定に関する件	8名

8) 技術発表会・スチューデントフォーラム

開催年月日	場 所	題 目	参加者
30.12.1	広島大学 東千田未来創生センター	○第12回技術発表会 「最近の現場業務効率化とICTの活用事例」 (㈱中電工 吉武 大樹) 「MR技術を活用したインサート墨出し工事の効率化について」 (東洋熱工業㈱ 松崎 真章) ○第1回スチューデントフォーラム ・学術発表 (15題) ・特別講演「環境建築への取り組みと最新の空調システム (調湿・放射パーソナル空調)」 (㈱竹中工務店 粕谷 敦)	72名 うち 学生 45名

9) 設備士資格検定試験

実施年月日	場 所	受験申込者内訳
30.11. 24・25	広島情報専門学校	「平成30年度(第63次)設備士資格検定試験」 空調部門：53名 衛生部門：58名

10) 技術セミナー

開催年月日	場 所	題 目	参加者
31.3.11	RCC文化センター	(第1部)「平成30年7月西日本豪雨災害による被災状況と大 学による復旧支援のためのGIS活用」 (広島大学大学院工学研究科 建築学専攻 都市・建築計画学研究室 教授 田中 貴宏) (第2部)「雲南市役所新庁舎におけるZEBの実現」 〔JABMEE第6回カーボンニュートラル大賞 受賞〕 (㈱日本設計 環境・設備設計群 竹部 友久) (第3部)「新居浜市あかがねミュージアム ～人が集う文化施設における温熱環境と空気質 の提案と評価～」 〔SHASE第32回振興賞技術振興賞 受賞〕 (㈱日建設計 エンジニアリング部門 設備設計グループ 水出 喜太郎)	56名

11) 見学会

開催年月日	見 学 場 所	参加者
31.2.22	山口大学医学部附属病院 診療棟・病棟	28名

12) その他〔共催〕

開催年月日	場 所	題 目	参加者
31.3.1	㈱中電工本店	講演会「電気設備工事の施工・検査の留意点」 ー施工に起因する事故やトラブル事例から学ぶー 主 催：電気設備学会中国支部	53名

13) その他〔後援〕

開催年月日	場 所	題 目	参加者
30.11.16	広島市文化交流会館	次世代技術者のための講演会 ～期待される若手技術者たち～ 主 催：建築設備技術者協会中国・四国支部	186名

(9) 九州支部

1) 支部報告会 (第53期)

開催年月日	場 所	主 要 題 目	参加者
30.5.18	福岡商工会議所ビル (407号室)	・第53期事業報告、会務報告、会計報告 ・第54期支部事業計画ならびに予算について ・第32回振興賞技術振興賞表彰式	38名

2) 講演会 (報告会附帯)

開催年月日	場 所	題 目・講 師	参加者
30.5.18	福岡商工会議所ビル (407号室)	「High-End オフィスの最前線」 講 師：堀川 晋 氏 本会副会長・株式会社日建設計	103名

3) 振興賞技術振興賞報告会 (報告会附帯)

開催年月日	場 所	題 目・講 師	参加者
30.5.18	福岡商工会議所ビル (407号室)	受賞件名 「ホテルオリオンモトブにおける水と空気のトータル エネルギーシステムの計画と検証」 報告者：村松 宏 氏 (株式会社日建設計)	87名

4) 市民公開シンポジウム

開催年月日	場 所	題 目・講 師	参加者
30.10.19	TERASO I ビル 5階 (蘇芳・連翹・雪柳)	大都市での災害に備え、自助・共助・公助でできること 1. 「東日本大震災での帰宅困難者対応とその後の取り組み」 講 師：前田 憲造 氏 (川崎市総務企画局危機管理室) 2. 「天神・博多駅周辺地区 都市再生安全確保計画について」 講 師：西田 博則 氏 (福岡市市民局防災・危機管理部) 3. 「帰宅困難者の滞在時の環境について」 講 師：堀 英祐 氏 (近畿大学)	103名

5) 見学会

開催年月日	場 所	参加者
30.11.2	長崎新県庁舎	26名

6) 国際学生交流会 (施設見学)

開催年月日	場 所	参加者
31.2.19	(福岡市) シーサイドももち熱源センターおよび天神地区	55名

7) 講習会

開催年月日	場 所	題 目・講 師	参加者
31. 2. 28	天神ビル (10号会議室)	<p>“CASBEE-ウェルネスオフィス関連ツールの最新動向”</p> <p>1. 「ESG不動産投資の国内外の動向」 講 師：田辺 新一 氏（早稲田大学）</p> <p>2. 「CASBEE-ウェルネスオフィス（客観評価ツール）の概要とその活用」 講 師：林 立也 氏（千葉大学）</p> <p>3. 「CASBEE-オフィス健康チェックリスト（主観評価ツール）の概要とその活用」 講 師：伊香賀 俊治 氏（慶應義塾大学）</p>	84名

8) 学術・技術交流会（第1回）

開催年月日	場 所	題 目	参加者
30. 10. 19	TERASO I ビル 5階 (蘇芳・連翹・雪柳)	・研究発表（口頭発表：5題，ポスター発表：22題）	30名

9) 試験関係

開催年月日	場 所	題 目	受験者
30. 11. 24 30. 11. 25	JR博多シティ	・平成30年度（第63次）設備士資格検定試験	空調 58名 衛生 61名

10) 支部運営委員会・幹事会

開催年月日	場 所	題 目	参加者
30. 4. 24	博多駅南Rビル会議室	<p>1. 本部理事会報告</p> <p>2. 第54期年間行事予定</p> <p>3. 第53期九州支部報告会および附帯行事について</p> <p>4. 第54期委員名簿について</p>	23名
30. 5. 18	福岡商工会議所ビル (406号室)	<p>1. 本部理事会・通常総会報告</p> <p>2. 第54期年間行事予定</p> <p>3. 第53期九州支部報告および附帯行事の最終確認</p>	30名
30. 7. 25	博多駅南Rビル会議室	<p>1. 本部理事会報告</p> <p>2. 第54期年間行事予定</p> <p>3. 平成30年度(第33回)技術振興賞応募状況について</p> <p>4. 市民公開シンポジウムについて</p> <p>5. 九州支部学術・技術交流会について</p> <p>6. 施設見学会について</p>	22名
30. 9. 25	博多駅南Rビル会議室	<p>1. 第54期年間行事予定</p> <p>2. 第2回九州支部学術・技術交流会について</p> <p>3. 市民公開シンポジウムについて</p> <p>4. 施設見学会について</p> <p>5. その他</p>	27名
30. 10. 19	TERASO I ビル 5階 (蘇芳・連翹・雪柳)	<p>1. 第54期年間行事計画予定</p> <p>2. 市民公開シンポジウムの最終確認</p>	21名

30.10.23	博多駅南Rビル会議室	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本部理事会報告 2. 43期年間行事予定 3. 第2回九州支部学術・技術交流会の報告 4. 市民公開シンポジウムの報告 5. 施設見学会について 6. 支部講習会について 	23名
30.12.18	博多駅南Rビル会議室	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本部理事会報告 2. 第54期年間行事予定 3. 施設見学会報告 4. 支部講習会について 5. 国際交流について 6. その他 	22名
31.3.20	博多駅南Rビル会議室	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本部理事会報告 2. 第54期年間行事予定 3. 支部講習会報告 4. 国際学生交流会報告 5. 第54期支部報告会について 6. その他 	19名

11) 賛助委員会

開催年月日	場 所	題 目	参加者
30.4.16	(株)産研設計会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回および第2回支部運営委員会・幹事会準備打合せ ・第53期支部報告会準備打合せ 	幹事 7名
30.6.25	(株)産研設計会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回支部運営委員会・幹事会準備打合せ ・市民公開シンポジウム、支部学術・技術交流会、施設見学会打合せ 	幹事 7名
30.8.23	(株)産研設計会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・第4回支部運営委員会・幹事会準備打合せ ・市民公開シンポジウム、支部学術・技術交流会、施設見学会打合せ 	幹事 7名
30.10.9	(株)産研設計会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・第5回支部運営委員会・幹事会準備打合せ ・市民公開シンポジウム、支部学術・技術交流会、施設見学会打合せ 	幹事 7名
30.11.19	(株)産研設計会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・第6回支部運営委員会・幹事会準備打合せ ・支部講習会打合せ 	幹事 6名
31.2.18	(株)産研設計会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・第7回支部運営委員会・幹事会準備打合せ ・第54期支部報告会準備打合せ 	幹事 7名
31.3.20	(株)産研設計会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回支部運営委員会・幹事会準備打合せ ・第54期支部報告会準備打合せ 	幹事 6名

3. 資格付与の実施に関する事項

(1) 設備士資格検定委員会

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
設備士資格検定委員会 阿部 靖則	38	平成30年度（第63次）設備士資格検定試験の実施にあたり、試験問題の作成および試験運営について審議、決定した。 受験申込者実数は1,842名で、受験資格審査の結果、有資格者実数は1,819名（空調部門1,459名、衛生部門1,401名）であった。 試験日は空調部門11月24日（土）、衛生部門11月25日（日）であり、全国9都市（東京・大阪・名古屋・札幌・仙台・新潟・広島・福岡・那覇）において実施した。

(2) 平成30年度（第63次）設備士資格検定試験

受験申込期間	平成30年8月1日（水）～8月31日（金）
試験実施日	空調部門 平成30年11月24日（土） 衛生部門 平成30年11月25日（日）
試験実施地	全国9都市 （東京・大阪・名古屋・札幌・仙台・新潟・広島・福岡・那覇）

	延人数	内訳（人）		実人数
受験申込者	2,893	空調 1,477	衛生 1,416	1,842
有資格者	2,860	空調 1,459	衛生 1,401	1,819
出席者	2,144	空調 1,135	衛生 1,009	
合格者	875	空調 459	衛生 416	
不合格者	1,269	空調 676	衛生 593	

4. 技術開発・研究開発の実施に関する事項

(1) 規格制定事業

委員会名 (委員長・主査)	開催回数	事業内容
<p>標準化委員会 倉田 雅史 (代理：堀川 晋)</p>	4	<p>1. 学会規格(SHASE-S)の改定について理事会に提案した。 【SHASE-S 106-2019】減圧弁</p> <p>2. 学会規格(SHASE-S)の5年見直し(改定・確認・廃止)について協議した。</p> <p>3. 平成31年度学会規格(SHASE-S)改定小委員会の設置を 審議・決定した。 【SHASE-S 009】建築設備用インサート改定小委員会 対象規格：建築設備用インサート (2004) 【SHASE-S 014】建築設備用ステンレス鋼鋼管のプレハブユニット改定小委員会 対象規格：建築設備用ステンレス鋼鋼管のプレハブユニット (2014) 【SHASE-S 218】集合住宅の排水立て管システムの排水能力試験法改定小委員会 対象規格：集合住宅の排水立て管システムの排水能力試験法 (2014)</p> <p>4. 第16回功績賞受賞候補業績について審議・決定し、功績賞選考委員会に推薦した。 <業績名> SHASE-S 119-2017 空気調和設備室内騒音の測定方法</p> <p>5. 他団体規格等に関する委員会委員について選任した。 ◇一般財団法人 建築保全センター (給排水管更生技術専門委員会) ◇公益社団法人 日本下水道協会 (ディスポーザ排水処理システム規格化委員会)</p>
<p>空気調和・衛生設備工事標準仕様書改定小委員会 井澤 知</p>	5	<p>小委員会発足初年度であるため、調査検討を主体とした活動を実施した。 小委員会を2回開催し、改定方針およびスケジュールの検討、改定の要点抽出などを実施した。 改定原稿作成作業を効率的に行うため、3ワーキンググループ(共通WG、空調WG、衛生WG)に分かれて活動することとし、各委員の役割分担も明確にした。 今年度、各ワーキンググループで各1回会議を実施し、仕様書改定内容に関する具体的検討を開始している。</p>
<p>建築設備用あと施工アンカー改定小委員会 戸邊 勉</p>	8	<p>2年間でSHASE-S012の改定規格案を作成するとの方針で、初年度は委員からの意見・情報をベースに改定すべき項目の調査検討を行った。</p> <p>1. 前回改定後の設備系あと施工アンカーに関する新たな論文等の情報収集と内容確認</p> <p>2. あと施工アンカーに関する各種設計指針改定内容に関する情報収集 (主に接着系アンカー吊り下げ禁止事項の現状確認と海外規格情報含む)</p> <p>3. あと施工アンカーの種類別の使用状況の調査</p> <p>4. 新製品(コーンナット式・ねじ固定式・拡底式の各種メーカー製品の仕様・基本性能)の調査を実施</p> <p>5. 現行規格の打込み式(内部コーン式・スリーブ打込み式)タイプの機械施工に関するツール類の市場製品把握</p> <p>6. コーンナット式の規格化に向けた評価実験の実施</p> <p>次年度は、平成31年度は9月を目標に、調査結果に基づき規格の改定作業を実施する。またコーンナット式の規格化検討は、評価実験結果を踏まえて反映可否を判断する予定。</p>
<p>オイル阻集器改定小委員会 小南 和也</p>	10	<p>1. 規格の改定について、委員からの意見を求め、規格改定案を作成した。</p> <p>2. オイル阻集器設置現場の状況を把握するため、2回の見学会を実施した。</p> <p>3. 洗車流量について、手洗い及び小型洗車機では実測により、また門型洗車機では洗車機メーカーの技術資料により、計算に用いる基礎数値を現状に即した値に改定した。</p> <p>4. オイル阻集器に関する関連法令の調査を行い、最新版と整合した。</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事 業 内 容
金属製変位吸収管継手 改定小委員会 山崎 祐二	0	<ol style="list-style-type: none"> 1. 改定原案 「解説」の作成（メールなどで各委員に連絡・確認）提出 4月11日提出済 2. 改定原案確認・回答実施（メールにて各委員に連絡・回答案作成実施） 第一回回答 12月14日回答 第二回回答 12月21日回答 3. 改定最終案の提出 上記第二回回答を持って修正版提出済
メカニカル形変位吸収管 継手改定小委員会 倉田 雅史	4	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現在の製品供給状況への整合の向上させた。 2. 関連規格との整合を行った。 3. 「作成のための手引」への準拠を見直した 4. 規格本文の改定文章の作成。 5. 付属書および解説等の改定・作成。 6. 原案確認に対する対応。
ゴム製変位吸収管継手 改定小委員会 松島 俊久	8	<ol style="list-style-type: none"> 1. 製品製造業者の製品調査（10社） 2. 規格改定の対比表作成 3. 性能試験の追加内容の確認（負圧性能・破壊性能） 4. 不具合事例の集積調査、確認 5. 他規格の現状の確認 6. 本体、付属書、解説の改定対比表による整合性の確認
換気規準・同解説 改定小委員会 山中 俊夫	3	<p>「SHASE-S 102 換気規準・同解説」の狙いは、室内の良好な空気環境を達成し、これを保持するための換気設備の技術的基準を示すものである。従って、本規格は、換気計画や換気設計を行う際の最も拠り所となる基準で、換気関連規格の中でも根幹をなすものである。本規格は1972年に制定されたHASS102換気（案）を基に、2003年に新たに制定されて以来、WHOで変更された新たな換気負荷への対応、あるいは住宅の厨房の換気計画に必要なデータの整備などを目的に2011年に改定が加えられて現在に至る。その後も外気の二酸化炭素濃度の大幅な上昇に基づく換気量の見直しや、換気効率のさらなる正確な情報が求められており、これに応えるため本規格の改定の必要性が高まってきている。</p> <p>そこで本年度は、下記の項目について審議を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 改定すべき項目として、空気質小委員会、換気効率小委員会、及び建築学会規準（臭気）の活用の検討。 2. 現状の喫煙環境と加熱式たばこの取り扱いに関する議論。 3. 二酸化炭素発生量については、最新情報を追加。 4. 具体的な適用範囲とする室の検討。 5. 改定項目の分担を決定し、順次改定を行った。 6. 査読を実施し、回答、修正を行った。
送風機の音響パワー レベル測定方法改定 小委員会 高木 正尚	6	<p>送風機の音響パワーレベル測定方法改定小委員会は、SHASE-S 110 送風機の音響パワーレベル測定方法の改定原案の作成を目的とする委員会である。</p> <p>設置2年目の今年度は、解説を含む規格改定原案を完成し、提出した。</p> <p>改定原案を作成・提出し、今年度で小委員会を終了する。</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
トレーサガスをを用いた 単室の換気量測定法 改定小委員会 倉渕 隆	4	<p>本規格「SHASE-S 116」は、「SHASE-S 102 換気基準・同解説」を支える規格の一つであり、トレーサガスを利用した数種類の測定法の要領を規定したものである。今回の改定では、用語の定義や使用するトレーサガスの見直し、実例・応用例の更新、ISO 12569への対応などを改定の主目的としている。</p> <p>29年度末からISO 12569の翻訳に着手しているが、30年度は翻訳の精度を高め、現行S116と比較し、修正内容を小委員会で確認した。具体的な作業としては、現行S116をISO化した時点で反映された部分や用語について吟味した。また、現行S116とISOでは目次構成が異なるため修正した。</p> <p>しかしながら諸般の事情により、原案の比較対象であるISOの翻訳が一部ずれ込み、翻訳が全て出揃ったのは2018年の10月中旬となった。</p> <p>現在の状況は、翻訳を終了し、原案の草稿は完成したが、用語統一や誤字脱字の確認などの修正作業が残っている。今後は修正作業を進め、年度内に最終小委員会を開催し、読み合わせを行い、2019年3月中の提出を目指す。</p>
給排水衛生設備規準・ 同解説改定小委員会 中島 一義	7	<ol style="list-style-type: none"> 1. 改定案のとりまとめ及び提出 2. 標準化委員会の原案確認に対する回答及び修正原案作成（3回程度） 3. 最終改定案の提出

5. 講座・セミナーの実施に関する事項

(1) 教育普及事業

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
教育普及事業委員会 古閑 幸雄	5	<ol style="list-style-type: none">1. 委員会が管掌する本部事業の企画ならびに運営について検討した。2. 初級技術者のための研修会、技術講演会、セミナー 初級技術者のためのステップアップ研修会、中堅技術者のための研修会、見学会、出前講座の企画・実施を行なった。3. 平成30、31年度の本委員会が管掌する事業について大要を検討した。

(2) 学術事業

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
学術事業委員会 柳 宇	6	<p>1. 平成30年度大会(名古屋)の実施 会 期：平成30年9月12日(水)～14日(金) 会 場：大同大学 滝春キャンパス 参加者：1,355名 講演論文 一般644編(うちInternational Session11編)、オー ガナイズドセッション37編 委員会中間報告 設置2年目の8調査研究小委員会 第56回学会賞論文賞受賞論文発表 第56回学会賞技術賞受賞物件発表 特別賞第6回「リニューアル賞」受賞物件発表 スチューデントフォーラム テクニカルツアー International Session Special Lecture (国際セッション 特別 講演) 日 時：9月12日(水)13:00～14:00 会 場：大同大学 滝春キャンパス B棟B410教室 参加者：約80名</p> <p>展示会 期 間：9月12日(水)午後～14日(金)午前 規 模：企業・団体：13社14コマ、研究機関：11大学研究室17コマ</p> <p>交流会 日 時：9月12日(水) 会 場：一 般：ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋 (18:30～20:30) 学 生：大同大学A棟14階ラウンジ (17:30～19:30) 出席者：一般：153名、学生：86名</p> <p>公開講演会 日 時：9月12日(水) 16:00～17:30 会 場：大同大学 滝春キャンパス C棟ゴビーホール 参加者：約300名</p> <p>優秀講演奨励賞 受賞者：17名</p> <p>大会学術講演論文集の発行 発行日：平成30年8月29日(水)</p> <p>2. スチューデントフォーラムの活動 スポーツ大会 種 目：卓球 日 時：8月24日(金)18時～20時</p> <p>見学会 見学先：すみだ水族館、東京スカイツリー 日 時：3月27日(水)15時～17時</p> <p>会誌の発行</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
<p>学術事業委員会 (続き)</p>		<p>3. 第52回空気調和・冷凍連合講演会(東京)の共催 共催：当学会、日本冷凍空調学会(幹事学会)、日本機械学会 会期：平成30年4月18日(水)～20日(金) 会場：東京海洋大学 海洋工学部 85周年記念会館 講演件数：一般講演 45件 特別講演 1件 基調講演 3件 技術賞講演 8件 参加登録：153名</p> <p>4. 2019年度大会(札幌)の開催計画 会期：平成31年9月18日(水)～20日(金) 会場：北海道科学大学 関連企画(予定) 第57回学会賞“論文賞”“技術賞”受賞物件の 講演、技術展示会、テクニカルツアーその他</p> <p>5. 2020年度大会の開催予定 会期：平成32年9月 会場：北信越支部管轄の大学</p> <p>6. シンポジウム 開催申請、終了報告を承認</p> <p>7. 第31回環境工学連合講演会の運営協力(主催：日本学術会議) 会期：平成30年5月22日(火) 会場：日本学術会議講堂</p>

(3) CPD事業

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
CPD事業委員会 柳原 茂	3	CPD制度の課題を整理し以下の検討を行った。 1. 履歴登録内容の審査ならびに履歴審査担当者の調整 2. 協議が必要な履歴内容の審査 3. 証明書発行業務の実施 4. 所属する協議会等の運営に関する報告 5. 年次報告書、計画書、委員候補者名簿、予算の検討

(4) 各種学会

管掌	名 称	開催年月日	場 所	参加者数	発表件数・テーマ	会誌掲載号	
学 術 理 事	空気調和・冷凍連合講演会*	30. 4. 18～20	東京海洋大学85周年記念会館	153	一般講演：45編、特別講演：1件、基調講演：3件、技術賞講演：8件	30. 3	
	年次大会**	30. 9. 12～14	大同大学 滝春キヤンパス	1, 355	一般講演：607編、オーガナイズドセッション：37編	30. 7	
	公開講演会	30. 9. 12	大同大学 滝春キヤンパス	300	無重力閉鎖空間 “宇宙ステーションと宇宙船” 人はどこまで耐えられるか	30. 7	
	シンポジウム	30. 6. 28	NSRIホール	70	超低炭素建築に寄与する空調システムと設計・制御の課題	30. 5	
	シンポジウム	30. 8. 2	空気調和・衛生工学会会議室	40	災害時の建物の機能維持を支援するためのビル管理システム -BCP対応型BEMSの検討	30. 7	
	社員総会特別講演会	30. 5. 11	明治記念館	150	成長の限界、フアクター4からSDGs まで ～ロマリアの思想を都市の計画とスマートユリカに受け継ぐ～	30. 4	
教 育 普 及 理 事	技術講演会	30. 7. 13	空気調和・衛生工学会会議室	80	健康で生産性の高いオフィスの環境設計 -働き方改革の実現に向けて-	30. 6	
	セミナー	31. 2. 13	空気調和・衛生工学会会議室	64	環境に寄り添う建築	30. 12	
	初級技術者のための研修会	30. 4. 16～ 30. 4. 20	石垣記念ホール	136	初級技術者のための研修会	30. 3	
	初級技術者のための ステップアップ研修会	30. 7. 5～ 30. 7. 6	空気調和・衛生工学会会議室	35	初級技術者のためのステップアップ研修会	30. 6	
	中堅技術者のための研修会	通年	空気調和・衛生工学会会議室	523	中堅技術者のための研修会	30. 4	
	見学会	30. 7. 18	_____	30	大手町2丁目地区市街地再開発計画A棟	30. 6	
	見学会	30. 10. 22	_____	31	msb Tamachi 田町スマートエネルギーセンター第二プラント	30. 9	

* 第52回：当学会・日本冷凍空調学会（幹事学会）・日本機械学会共催 ** 優秀講演奨励賞受賞者：17名

6. 調査資料収集の実施に関する事項

(1) 学術調査研究事業

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
学術委員会 柳 宇	2	以下について協議を行った。 1. 学術事業の統括に関する事項 2. 委員会年次報告、計画、予算、委員候補者に関する事項 3. 学術調査研究事業運営要領改定に関する事項 4. 国際交流事業（ASHRAE、CIBW062、CLIMA2019）に関する事項 5. 所掌する委員会運営に関する事項 6. 関連学協会の委員派遣および行事等に関する事項
研究委員会 柳 宇		1. 管掌委員会に関する事項 1) 常設委員会、傘下小委員会の構成について審議し承認した 2) 平成30年度年次報告書および平成31年度計画書、予算、委員候補の審議、承認を行った 3) 委員会終了報告書（8件）、新規設置申請書（8件）の審議、承認を行った 4) 委員会成果報告書の提出の調整およびレポート番号付番を行った 5) 各表彰の推薦を行った（功績賞、篠原記念賞、篠原記念奨励賞） 2. 研究助成候補者等の推薦に関する事項 1) 財団法人鹿島学術振興財団：2件 2) 財団法人とうきゅう環境浄化財団：申請なし 3) 財団法人給水工事技術振興財団：申請なし 4) 独立行政法人日本学術振興会：申請なし 5) 関係団体からの研究助成推薦依頼に関する検討：申請なし 3. 国際交流に関する事項 1) 国際交流視察団の派遣 ①第23回国際建築設備調査団 第CIB W062国際シンポジウム（ポルトガル・サンミゲル島） 期 間：2018年8月26日（日）～9月2日（日） 団 長：西川 豊宏君 工学院大学 副団長：中野 民雄君 静岡文化芸術大学 参加者：15名 ②第28回国際交流視察団 ASHRAE冬季大会（アトランタ、ポートランド） 期 間：2019年1月12日（土）～1月20日（日） 団 長：赤司 泰義君 東京大学 副団長：竹部 友久君 日本設計 参加者：35名 2) 学術交流を目的とする海外渡航に対する補助金支給に関する件（会員情報理事付託事業） 国際会議参加補助金：0件 3) 国際名誉員に関する件（会員情報理事付託事業） 1名を理事会へ推薦、承認された。 4) その他、関連の海外受信文書を適宜処理した。

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
空気調和設備委員会 村上 公哉	4	<p>本委員会は、以下の5つの小委員会にて構成されている。本年度は、委員会を4回開催した。そして、毎回以下の点について、情報共有、審議および検討を行っている。</p> <p>【小委員会構成】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 次世代型地域エネルギーシステム検討小委員会 (吉田 聡主査) 2. 環境建築における室内環境検討小委員会 (高田 暁主査) 3. 空調システムの設計・評価検討小委員会 (田中英紀主査) 4. 熱環境システム動的設計法検討小委員会 (富樫英介主査) 5. パーソナル空調適用条件検討小委員会 (佐々木真人主査) 6. ZEB計画指針検討小委員会 (丹羽英治主査) <p>【委員会検討事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究委員会からの伝達事項の報告および付託事項の協議 2. 各小委員会の活動内容の報告と意見交換 3. 各小委員会の平成30年度事業計画・予算の検討 4. 空気調和設備の設計に関わる話題提供と意見交換 5. 拡大委員会の企画・計画
次世代型地域エネルギーシステム検討小委員会 吉田 聡	5	<p>平成28年4月、電力の小売りが完全自由化、熱供給事業は許可制から登録制へと変更された。平成29年度には、ガス事業においても自由化が進められる。このような社会的背景の中で熱供給事業を主体とした地域エネルギーシステムから地域の電力融通、需要家ビルを含めた統合マネジメント、地域の災害時機能継続など新たな動向が進展すると考えられる。そこで本小委員会では、これらの状況を踏まえた、今後の地域エネルギーシステムの役割やあり方を整理、検討する。</p> <p>本小委員会は3年間の期間のうち今年度は最終年度であり、合計4回の小委員会を開催した(残り1回は3月末に開催予定)。活動の内容としては、主に成果報告書とりまとめに関する議論を行った。</p> <p>[第1回] 平成30年6月1日</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 目次案について 2. 既存地域冷暖房地区における自立分散電源導入形態の類型化とメリット・デメリット 3. 電力系統需給調整への蓄熱槽の活用 4. 大阪咲洲サーマルグリッド実証 <p>[第2回] 平成30年8月30日</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ヒアリング結果 (西新宿1丁目地区、岩崎地区) 2. 事例調査 (東京スカイツリー地区、大阪イオンモール、新川地区) 3. 建物のZEB化と地域熱供給 <p>[第3回] 平成30年11月5日</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 次期小委員会について 2. 報告書(案)の小委員会内チェックおよびレビューについて <p>[第4回] 平成31年1月31日</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 報告書レビューに対する対応について <p>[第5回] 平成31年3月下旬(予定)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小委員会最終の取り纏め(次期小委員会に向けて)
ZEB計画指針検討小委員会 丹羽 英治	7	<p>今年度は、2年の活動期間の2年目にあたり、主に、以下の項目について審議を行い、報告書としてとりまとめた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ZEB実現のための要素技術の抽出と評価方法の検討 ZEB実現のための要素技術を抽出、建築物省エネ法に基づくWEBプログラム計算での評価の可否について整理を行った。さらに、今後

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
ZEB計画指針検討 小委員会 丹羽 英治 (続き)		<p>評価が必要な未評価技術についてのアンケート調査を実施し、調査結果を学会HPに公開した。</p> <p>2. ZEB先進事例集の発刊 ZEBの先進事例（14例）について調査を行い、学会の100周年記念事業に合わせてパンフレット「ZEB先進事例集 ZEB in Japan」を発刊し、学会にHPに公開した。</p> <p>3. ZEBの計画指針検討 ZEB実現のためのデザインメソッドを整理し、体系的にとりまとめた。とりまとめ内容は、「(仮称) ZEBのデザインメソッド」として出版予定である。</p>
環境建築における 室内環境検討小委員会 高田 暁	3	<p>建物の低炭素・省エネルギー化、節電などの社会的要求を背景としたZEB (Zero Energy Building)化のなかで、いわゆる環境建築が急増している。環境建築においては、LED 照明化、ペリメータレス空調、ファサードの工夫、自然換気の導入等々、急激に新技術が導入されている。これら技術に対して、省エネルギー評価を目的とした測定手法の検討や、BEMSを中心としたコミショニング技術は種々導入され、エネルギーベースの議論は行える状況にある。しかしながら、本来担保されなくてはならない空気質、温熱環境、光環境などの室内環境の議論が後手に回っている可能性があり、一歩立ち止まって室内環境の担保手法を考える必要がある。</p> <p>本小委員会では、この問題意識と、前身委員会で取り組んだセンシング技術などの継続的な調査の必要性に鑑み、室内環境を担保する空調機器やセンサなどの関連メーカーが数多く存在する関西地方を中心に活動し、各企業の関連技術開発状況のヒアリング、最近竣工した環境建築の室内環境に関する動向調査、設計者・専門研究者へのヒアリングなどを通じて、環境建築における室内環境の実態を明らかにするとともに、室内環境を担保するための技術に関してとりまとめることを目的とする。</p> <p>第2年度となる本年度は、以下の項目について議論を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 照明の制御規格を利用した個別分散空調システムの発停制御およびブラインド制御により快適性・生産性に配慮した研究施設の事例 2. 中高層オフィスビルを対象とした自然換気量の予測に関する研究 3. 放射冷暖房・パーソナル空調システムを導入した大学施設における空調計画の取り組み 4. 省エネルギー配慮型庁舎のエネルギーマネジメントと室内環境改善に向けた取り組み 5. 研究施設における環境配慮技術の導入事例 <p>次年度も、引き続きこれらの調査・検討を継続し、室内環境の担保方法や先進事例に関する研究を行い、取りまとめる予定である。</p>
空調システムの設計・ 評価検討小委員会 田中 英紀	5	<p>本小委員会では、建物の新築・改築や既存建物の機能改修におけるZEB指向の建築ストック移行に伴い変貌が予想される空調負荷形態や実現温熱環境の変化に対応すべく、近年提案されている先進的な空調システムについて、その設計・制御法のあり方および今後の性能向上のための課題整理を行い、この成果をシンポジウムを開催して広く情報発信するとともに、聴講者から新たな課題や注力すべき視点について意見収集を行った。</p> <p>今年度は、これまでに整理した近年の内部発熱等の実態をもとに、ZEB指向建物の最大熱負荷、期間熱負荷を複数の熱負荷計算手法を用いて試算した。</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
空調システムの設計・ 評価検討小委員会 田中 英紀 (続き)		また、次世代型空調システム事例調査から潜顕分離空調の要素である中温冷水利用空調・デシカント空調・放射冷暖房空調を今後のデファクトスタンダードとなり得るシステムとして選出した。さらに、ペリメータ負荷処理や新たな空調機制御システム、IoT・AI利用空調、空調システムのダウンサイジング、NEB経済評価の可能性についても、実装事例や評価事例を調査し、課題を整理した。第3回では、結露型放射空調システムに関する現地調査を実施した。
熱環境システム動的 設計法検討小委員会 富樫 英介	4	<p>3回の委員会を開催し、以下の内容について議論を進めた。</p> <p>第四回 (2018/6/18 開催)</p> <p>エミュレータによる世界選手権の参加者に配布する参加手引書の案が提示され、その内容について議論を行った。特に、参加の間口を広くするために、技術的には学生などでも参加可能、情報技術をあまり持たない人でも参加可能、業務が忙しい実務者でも参加可能となるように選手権の参加方法とスケジュールを再考した。形式的には選手権は、SHASE会議室で集合して1日で終了することにし、希望者はその後、一ヶ月間、制御ファイルのアップロードによる成績更新が可能な仕組みにする方針となった。また、選手権の広報のためのパンフレット案が示され、内容について議論が行われた。</p> <p>第五回 (2018/9/19 開催)</p> <p>選手権の学術的な位置づけを整理するために、エミュレータの歴史について既往研究調査を行った結果が示された。特に米国NISTにおけるVCBT (Virtual Cybernetic Building Testbed) の開発については、BACnet通信に対応しており、本選手権で開発するエミュレータとも似たインターフェースであるため、調査を進める必要がある。</p> <p>アルファ版のエミュレータについて、各委員が所有するPCで動作試験が行われ、改良すべき点やバグなどについて意見が示された。アルファ版のエミュレータについては、選手権の広報を兼ねてWebサイトを通じて事前に公開する方針とされた。</p> <p>第六回 (2018/1/17 開催)</p> <p>予定されている参加チームが確認された。情報系の参加者を増やすための方策について検討が行われた。選手権当日のおおよその進行や、情報開示方法などを議論した。</p>
パーソナル空調適用 条件検討小委員会 佐々木真人	4	<p>パーソナル空調に関する設計ガイドラインとして活用できることを目的に、最新の事例における設計ポイントの情報収集、国際会議からの海外動向の把握、IoTなど関連技術の最新情報を共有する活動を行なった。</p> <p>1. 最新事例視察</p> <p>1) 都内にたつクリエイティブスタジオに導入されたパーソナル&アンビエント空調システムの視察を行った。発熱密度が非常に高いスタジオに全面床吹き出し空調に加え、調湿された外気をミキシングし別系統で執務者背部から吹出すパーソナル環境制御システムである。執務者と吹き出し口1対1で温度、風量を制御が可能となっている。発熱負荷、業務形態が特殊な用途に適したシステムで快適性と環境性の両立が図られていた。</p> <p>2) 次に、関西にたつコールセンターが主体のテナントオフィスビルで、天井をチャンバー化し、空気式天井放射方式に天井パーソナル吹き出し口を組み合わせた事例を視察予定である。</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
パーソナル空調適用 条件検討小委員会 佐々木真人 (続き)		2. 各種関連情報の共有 1) Roomvent2018の紹介がされた。PCS (personal control system) という名称で、家電製品に関する発表が多く、パーソナル換気の発表も数件あったが、タスク空調ユニットの発表は少なかった。PCSのように例年と比較し、研究機関よりも工場換気を主体とする産業からの発表が目立った。 2) 研究成果発表として、OA発熱、建物外皮負荷など時代の流れで顕熱負荷が変化し、それにあわせ、人からの放射・対流・潜熱を別々に処理する視点にたち、放射空調にパーソナル空調を組み合わせた一連の研究紹介をうけた。「放射」「パーソナル(対流)」「調湿(潜熱)」「熱源」「制御」といった多様なキーワードをとらえ、大系的にまとめた研究は、パーソナル空調の立ち位置を認識するに非常に有益な知見が得られた。 以上をはじめ、次年度の報告書まとめにむけ、全体的な構成を議論した。
給排水衛生設備委員会 小瀬 博之	4	1. 給排水衛生設備委員会が管掌する各小委員会の研究テーマと調査の運営方法について、審議検討した。 2. 各小委員会の平成31年度の計画と予算について、検討して管掌した。 3. 小委員会の成果報告書をレビューした。 4. 小委員会の成果が、本学会の各種出版物等の内容に影響する部分を明らかにするとともに、関連する委員会に報告した。 5. 本学会の功績賞・篠原記念賞の候補者を推薦した。 6. その他、研究委員会、事務局からの審議依頼事項に対応した。 7. 給排水衛生設備分野の課題や今後の研究テーマについて討議した。
最適給水システム 小委員会 村川 三郎	8	本小委員会は設置期間の最終年度であり、これまでの2年間で進めてきた以下の①～⑤の内容について、担当委員から説明を受け審議を行い、報告書のとりまとめを行った。 ①実測データ、DECCデータなどによる給水負荷原単位の検討、②給水給湯負荷算定要因となる衛生器具の使われ方等のデータ収集、③給水給湯負荷算定法として開発されているMSWCプログラムの精度検証、④BEMSデータ等を用いたMSWCプログラムへ適用する算定モデルの構築、⑤実測と負荷算定法によった瞬時最大流量の予測に基づく最適給水システムの検討 これより、成果報告書として「各建物用途における水使用分析と給水負荷算定法および給水システム設計の検討」と題して、第1章～第6章の構成でとりまとめた。各章は概略以下のとおりである。 第1章 委員会活動、第2章 研究目的と研究計画、第3章 給水・給湯負荷データの収集と分析(事務所ビル、複合用途ビル、集合住宅、社員寮、ビジネスホテル、病院、商業施設)、第4章 衛生器具利用・水使用行為データの収集と分析(社員寮のシャワー利用、小規模事務所のトイレ利用、大学のトイレ利用、高速道路サービスエリアのトイレ利用、第5章 シミュレーションによる動的給水負荷算定法の活用(シミュレーションによる算定法とその意義、MSWCプログラムによる算定と精度検証：事務所ビル・集合住宅・ビジネスホテル・病院、BEMSデータを活用したMSWCプログラムへの応用、第6章 給水システムの最適化に向けた考え方および検討課題(給水負荷と最適システム設計の意義、瞬時最大流量がポンプ能力を超えた場合の検討、ポンプ直送方式と設計流量、給水システムの方式による省電力性)

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
給排水衛生設備 設計手法検討小委員会 小原 直人	10	<p>昨年度 設計実務において給排水負荷算定に用いられる規準の実態を調査し、その結果を踏まえて見直し検討の方向性を見出していくために、設計事務所、施工会社などにアンケート調査を行ったが、今年度は そのアンケートの整理と分析を行った。結果としては、器具給水負荷単位法・排水負荷単位法が比較的良好に使用されていること、節水器具や建物用途ごとの算定を設計規準に反映が不十分であるとの指摘が多いとの結果となった。</p> <p>また、前年度に引き続き、海外規準の動向を調査するため、IPC(International Plumbing Code) とUPC (Uniform Plumbing Code) の給排水負荷算定法に関する部分の翻訳とSHASEとの比較を行った。</p> <p>これらの結果を受けて、新しい設計規準の方向の一つとして、器具負荷単位法をベースにした場合の改善案の審議を継続しているところである。</p>
再生可能エネルギーと 多熱源利用調査小委員会 赤井 仁志	8	<p>委員会活動として、つぎのことを行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 再生可能エネルギー熱に関わる政府の事業、導入に関わる補助制度、研究開発等の情報収集を行った。 2. 再生可能エネルギー熱に関わる地方自治体の助成制度の情報収集を行った。 3. 再生可能エネルギー熱に関わる閣議決定の状況の情報収集を行った。 4. 特定非営利活動法人地中熱利用促進協会と関係する地方の協議会等の活動の情報収集を行った。 5. 地中熱のオープンループ方式とクローズドループ方式のメリットとデメリット等を検討した。 6. 給湯設備、浴場・プール設備と空調設備、融雪設備の再生可能エネルギー熱利用の関係を検討した。 7. 排水からの排熱回収装置の付着物除去等の技術検討を行った。 8. 空気調和・衛生工学会大会（名古屋）に合わせて、ゼネラルヒートポンプ工業(株)の工場と情報センターの視察を行った。
節水型衛生器具普及の あり方提言小委員会 豊貞 佳奈子	5	<p>国内外での衛生器具の節水化動向と関連政策、および各国での家庭用水使用量内訳を調査・検討し、我が国における節水型器具普及のあり方を提言するために、2年目にあたる平成30年度は次の研究活動を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自治体アンケート調査 <p>国内の節水化動向と家庭用水使用量調査を目的に、昨年度企画した「節水政策と水使用実態に関するアンケート調査」を実施した。全ての政令指定都市、中核市、施行時特例市を含む616自治体の水道局宛に、4月上旬に郵送にてアンケート調査票を配布し、EメールまたはFAXによる回収を行った。回答自治体数は178、回収率は29%であった。首都圏、中部圏の比率がやや高いが、全ての地域からの回答を得られた。節水機器導入に対する補助・支援を現在行っているのは1自治体のみで、洗浄水量6.5L以下の節水型トイレへの改修助成が行われている。一方、住宅を対象に雨水利用に補助・支援を行っている自治体は約3割と、節水と比較して雨水の取組が活発に行われていることがわかった。便器洗浄水量規制を行っているのは2自治体のみであった。本アンケート調査結果は、次年度の空気調和・衛生工学会大会および小委員会報告書にて報告予定である。</p> 2. 自治体訪問調査 <p>上記アンケート調査にて、家庭用水量内訳（トイレ/風呂/台所/洗</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
節水型衛生器具普及の あり方提言小委員会 豊貞 佳奈子 (続き)		濯等の内訳) 調査を実施している自治体を抽出し、小委員会メンバーにて分担し訪問または電話調査を実施した。数十～200世帯程度のモニター家庭の給水管に流量計を設置して定期的に調査している自治体があり、調査結果の詳細を当委員会に開示してもらった。次年度、内容を整理し、委員会報告書等にまとめる予定である。
建物における雨水対策 検討小委員会 金津 文夫	6	<p>今年度は、報告書の目次構成を作成し、前年度の結果を含めた内容として追加検討事項も加えた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 集中豪雨における排水管、利用施設等の設備側の不具合の検討（アンケート調査の解析と解決策） アンケート調査結果をいくつかのカテゴリー分けで区分して、事象の整理を行った。 2. 敷地内における雨水浸透貯留施設の全国の都市の技術の動向調査（学会として統一的な技術規準の把握） 貯留施設と雨水利用施設の構造について行政協議での内容等を含めた整理を行った。 追加検討事項で現在施工中の建物として新国立競技場の実施例についても調査を行った。 3. 雨水利用施設の処理工程の問題点とその対策（ろ過、セラミック、膜等の物理的な処理の提案） 昨年引続き、問題点と対策について対応をまとめた。 なお、追加事項として、以下の項目を検討した。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 雨水利用施設のCO2排出量 2) 雨水利用施設に関する調査（新国立競技場等） 3) 雨水の水質に関する調査
排水通気システム設計 基礎検討小委員会 本郷 智大	7	<p>現状の設計手法や性能評価手法を拡充することを目的に、以下の昨年度抽出した検討を要する事項について協議、検討を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 排水通気設計法アンケート 現排水通気設計法の問題抽出のために実施したアンケートを基に集計を行い、集計結果より検討事項の協議を行った。 2. 排水管決定法に関する国外規格調査 SHASE-S206の排水負荷単位等について、海外規格IPCとUPCの内容把握を行い、現設計法との差異を協議した。 3. 技術要項規定改定に向けた大会論文の整理 技術要項規定への反映できる内容を検討するために、過去10年の大会論文を集約し、内容の要約やその分類の整理を行った。
ビル管理システム委員会 栢川 依士夫	5	<p>今年度は、「BCP対応型BEMS検討小委員会」の活動を継続し、新たに「AI活用による建物システムの運用最適化検討小委員会」および「在室者情報活用BEMS検討小委員会」を立ち上げ、合計3小委員会で活動を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 親委員会の活動概要 <ol style="list-style-type: none"> 1) 3小委員会の活動に対し、意見交換し、方向性の調整を行った。 2) BEMSに関する技術・課題・検討の動向について情報交換を継続して実施した。 3) BCP対応型BEMS検討小委員会が今年度で終了するに当たり、次年度の計画について検討し「BEMSの活用によるBCPのあり方検討小委員会」を新たに立ち上げることにした。 2. 小委員会の活動概要 <ol style="list-style-type: none"> 1) BCP対応型BEMS検討小委員会（主査：増田 幸宏）

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
ビル管理システム委員会 枘川 依士夫 (続き)		<p>既存のBEMS機能でのBCP対応方策、災害対応型ビル管理システム機能案、発災後の電力マネジメント支援の考え方等について検討を行い、これらをまとめてシンポジウムを開催、報告書を作成した。</p> <p>2) AI活用による建物システムの運用最適化検討小委員会（主査：大岡龍三） AIを含む最適制御の実用化、導入を目的として、委員紹介による事例研究を通じて、建物システム制御の実態と最適化技術の導入状況、計測ポイントや収集データ、ネットワークセキュリティ等について情報共有した。</p> <p>3) 在室者情報活用BEMS検討小委員会（主査：原 英嗣） 在室者の位置情報の取得や属性データの計測、およびその空調・照明制御等への活用により、省エネや快適性の向上を図ることを目的に、センシング技術動向や位置情報の最新活用事例等に関する調査、情報共有を行った。</p>
BCP対応型BEMS検討 小委員会 増田 幸宏	5	<p>重要な拠点として位置付けられる建物においては、災害時にも建物の機能を適切に維持する必要がある。BCP（Business Continuity Plan：事業継続計画）を策定することで、災害時等の危機事象に対して備えることが求められている。災害対応力を強化するための「BCP対応型BEMS」は新しい概念であり、その標準的な方法論を共有することは、学術分野に貢献するだけでなく実務上も大変有意義であると考えている。</p> <p>このような背景のもと、BCP対応型BEMS検討小委員会では、BCPの観点からビル管理システムがどうあるべきか、災害時の対応力と建物管理機能を強化するためにはどのようなデータを取得し、いつどのような形で活用することが有効であるのかについて議論を行ってきた。3年目となる本年度の活動においては、災害時の事業継続の取り組みへのビル管理システムの寄与方策、施設を取り巻く各種リスクと「BCP対応型BEMS」の対応可能性、既存のBEMS機能でのBCP対応、災害対応型ビル管理システム機能案と発災後の電力マネジメント支援方策のイメージ検討、モデルビルへの適応等について検討を行った。議論の成果をもとに、8月にシンポジウムを開催し、その内容をまとめた報告書を作成した。</p>
在室者情報活用BEMS 検討小委員会 原 英嗣	5	<p>本小委員会は、建物の省エネルギーと建物使用者の快適性と健康性という観点から、“人”に着目し、在室者の人数、所在などの人の“位置”データと、着衣、体質（バイタル）、代謝、心理、ストレスなどの人の“属性”データについて、それらを計測するセンシング技術に関する動向と、それらの情報をBEMSに取込み、空調、照明などの制御へ活用することにより、建物全体の省エネルギーと建物使用者の快適性向上、健康維持・増進に資する可能性について検討することを目的としている。</p> <p>初年度である平成30年度は、小委員会を5回開催した（予定含む）。第1回（5/21）では、本小委員会の目的等について議論し、カメラや人感センサーによる人数把握の事例紹介があった。第2回（7/30）は、人の“位置”データに関する情報として、所在情報を元に気流を制御する事例、RFIDタグを利用した「在室者の“位置”情報」を管理し、空調、照明制御に応用する事例、人感センサーを用いてエリア内の人数把握を行い、それを照明、空調制御に応用する事例の紹介があり、人の“属性”データとして、カメラ画像から在室者のまぶたの開度情報を算出し「覚醒度」を算出する技術、IoT・AI（ビーコン・スマホ）による「WellnessBOX」の紹介が行われた。第3回（10/23）では、赤外線アレキセンサシステムの紹介があり、その情報の空調制御への応用事例、フィードフ</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
在室者情報活用BEMS 検討小委員会 原 英嗣 (続き)		<p>ワード制御の可能性についての説明、人や備品にビーコンを取り付けて所在場所を自動管理できる所在管理ソリューションの説明と応用事例の紹介があった。在室者が好みの室温を設定する代わりに「暑い」「寒い」といった今の温冷感をシステムに伝えてその申告に対応した設定室温を決定するシステムの紹介、人の”属性”情報の具体項目についての、計測手法並びに収集データ項目についての紹介があった。第4回(1/10)では、所在管理ソリューションの具体事例の視察を実施した。第5回は3/19に開催する予定である。</p>
AI活用による建物 システムの運用最適化 検討小委員会 大岡 龍三	6	<p>本小委員会では、人工知能(AI)の一部である数理計画手法やメタヒューリスティック的手法等の最適化手法と深層学習を空調システム・建物エネルギーシステムへの展開を図り、実用化することを目的とする。</p> <p>具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 最適化手法を実装するために必要となる各種方針・計測データ・制御プロトコルを整備する。従来のBEMS、BACS等を参照し、最適化手法に基づく制御システムを導入するあたり情報価値の判断をおこなう。 2. 最適化手法を実装するためには各機器や建物特性のモデル化が必要であり、ここでは深層学習を活用したモデル化についてその実用性の検討を行う。 <p>本小委員会の初年度となる本年度は、当初の予定通り委員による研究紹介および事例紹介を中心に情報収集をおこなった。</p> <p>第1回は2018年5月18日に開催され、委員会の設立趣旨および今後の活動方針について主査より説明が行われたのち、建築設備でのAI利用について委員同士のフリーディスカッションをおこない、問題点や将来性について認識を共有した。</p> <p>第2回は2018年7月13日に開催され、浅利委員により大規模建物におけるBEMS活用事例および計測データの分析事例が紹介された。笹倉委員からはデータセンターにおける機械学習および状態空間モデルを用いた最適制御事例が紹介された。</p> <p>第3回は2018年9月19日に開催され、総田委員により産業用プラントおよび建物等における最適熱源制御事例が紹介された。</p> <p>第4回は2018年11月12日に開催され、大岡主査によりリアルタイム予測制御のシミュレーションをおこなった最新研究事例が紹介された。脇野委員からは建物情報通信設備におけるセキュリティ問題について事例が紹介された。IoT化が進む現代において、建物システムが有すべきセキュリティ対応および実務におけるIoT化の問題点について認識を共有した。</p> <p>第5回は2019年1月22日に開催され、松田委員による機械学習を用いた制御に関する研究事例が紹介された。</p> <p>平成31年度は、上記事例をまとめるとともに、AIによる最適制御の実現可能性や問題点を検証し、技術の普及に向けて実務上必要とされる要素を把握する。また、最適制御の理解促進のために現地見学等の機会を検討する。</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
コミッショニング委員会 赤司 泰義	5	<p>1. 小委員会の進捗管理</p> <p>各小委員会における以下の活動1)～4)の進捗を管理するとともに、全小委員会の情報共有と議論を充実させ、各小委員会における研究活動の進展を図った。</p> <p>1) 建物所有者にCxの有効性を提示するために、Cxの導入効果を根拠を持って定量的に説明できるようにすること。(Cx導入効果調査検討小委員会)</p> <p>2) CC法を活用した個別分散空調システムの機能性能試験方法を整備し、本空調システムの導入が進む中小規模建物でもCxを確実に実施できるようにすること。(EHP式個別分散空調システムのFPT検討小委員会)</p> <p>3) Cx業務遂行上の難点となっているデータ整理・分析業務の省力化のための手法・ツール開発を行い、本業務を効率化すること。(Cxデータマネジメント手法活用小委員会)</p> <p>4) ZEBを目指した建物で導入されることの多い自然・再生可能エネルギーシステムのCx手法を整備・開発し、ZEBの実質化に寄与すること。(ZEBシステムに関するCx手法検討小委員会)</p> <p>2. 本委員会独自の主体的活動</p> <p>1) 海外のCx動向調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人建築設備コミッショニング協会 (BSCA) が主催の米国のCxの事業者や研究機関を訪ねてCx事情についてヒアリングを行う調査ツアーに、本委員会から委員長・幹事ほか、委員3名が参加した。 また、この調査結果について報告を行うシンポジウム (BSCA主催、東京・大阪) に協賛するとともに、当委員会からも講師を出した。
CC法を活用したEHP式 個別分散空調システムの 機能性能試験検討 小委員会 三浦 克弘		<p>1. 当初の計画</p> <p>本小委員会は中小規模の建物で多く採用されている個別分散空調システムの機能性能試験方法を確立し、コミッショニングの普及を促進することを意図している。</p> <p>初年度の調査内容に基づき、本年度は試験方法の具体化を予定した。</p> <p>1) EHP式個別分散空調システムの機能性能試験における空調機メーカーと設計・施工者との分担を明らかにして、試験要領書案を作成する。</p> <p>2) 作成した要領書案を用いて試験を試行し、試験手法としての妥当性を確認する。</p> <p>2. 実施内容</p> <p>1) コミッショニングプロセスで求められる機能性能試験項目例の抽出と具体的なシステムの選定</p> <p>①昨年度に整理をした、設計・企画要件書 (OPR) に基づき、コミッショニングにおける一連のプロセスの中で求められる機能性能試験を検討し、試験項目の例として室内環境とエネルギー性能を抽出した。</p> <p>②試験方法を具体化するために、システムの例として、建築研究所オフィス実験室を選定した。</p> <p>2) 機能試験要領書案の作成</p> <p>①小委員会内部に室内環境とエネルギー性能それぞれの試験方法を検討するチームを設置して、試験要領書を作成した。</p> <p>3) 要領書案に基づく機能性能試験の試行</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
CC法を活用したEHP式 個別分散空調システムの 機能性能試験検討 小委員会 (続き)		<p>①上記実験室で測定した室内環境と個別分散空調システムの運転記録を元に、機能性能試験を試行した。</p> <p>②運転データの解析にメーカーの協力を得れば試験の実施が可能となる事が確認できた。</p> <p>③実験室と実建物では利用できるデータに違いがあるため、試験方法の修正が必要であると考えられた。</p>
コミッションング導入 効果調査検討小委員会 高草 智	5	<p>第1回 (2018/4/24開催)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 年次活動計画の確認を行った。 2. サブワーキング毎に作成したヒアリングシート (オーナー向け/設計者向け/施工者向け/ESCO/BCP) の横並び比較を行い、修正必要事項の洗い出しを行った。 <p>第2回 (2018/7/25開催)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ヒアリングシート改訂状況の確認を行い、標準版として運用開始することとした。 2. 調査予定先及び担当者の振り分け更新を行った。 <p>第3回 (2018/9/4開催)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アンケート調査の回収状況を確認した。 2. 遠隔地訪問調査案件の抽出、相互調整の確認を行った。 →調査活動：10月に近郊の訪問調査2件 (自治体、事務所ビルオーナー) を実施した。 <p>第4回 (2018/12/5開催)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ESCO事業とCxの関係性に関する訪問調査結果、アンケート結果 (各1件) の報告・検討を行った。 2. オーナーメリットに関する訪問調査結果、アンケート結果 (各1件) の報告・検討を行った。 3. 設計者メリットに関するアンケート結果 (1件) の報告・検討を行った。 4. 名古屋大Cx事例の概要報告を行った。 →調査活動：1月に名古屋・京都・大阪の訪問調査 (大学2件、DHC、事務所ビル設計者) を実施した。 <p>第5回 (2019/3/6開催予定)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 訪問調査結果3件の報告・検討 2. アンケート回収状況・結果整理状況の報告・検討 3. シンポジウム (6月) に向けた準備
データマネジメント 手法活用小委員会 住吉 大輔	3	<p>コミッションング (Cx) におけるデータマネジメントは、データが膨大化していること、BEMSやロガー装置の出力ファイルのフォーマットが不統一であること、抽出・処理方法が一般化されていないことなどから、ますます煩雑化し、Cxプロセスが非効率となる要因の一つとなっている。この問題を解消するため、前身のデータマネジメント手法検討小委員会において、データフォーマットの標準化を行うツールが作成され、データ処理の一元化に近づいた。</p> <p>本小委員会は、次なる課題として標準フォーマットに変換されたデータについて効率よくエラーチェックし、計測データの不具合やポイント名称の付け間違いなどを発見し、素早く解析作業に着手するためのデータクレンジング手法について検討し、コミッションングのデータ解析作業を効率化するためのツールの作成、および具体的なシステムの構成機器 (熱源機器、ポンプ、冷却塔、蓄熱槽、など) の性能チェックのための分析シートの開発を行うものである。</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
データマネジメント 手法活用小委員会 住吉 大輔 (続き)		<p>今年度は以下の内容に取り組んだ。</p> <p>1. データクレンジングソフトウェアの開発： データクレンジングを行うためのソフトウェアの開発に着手し、前身の委員会で開発されたツールとの関わりや具体的な処理の内容を決定した。エラーを検索し、修正していく手順を議論した上で、それを実現するためのソフトウェアの画面配置 (GUI) を決定し、具体的なコーディング作業を進めた。また、データ処理に関するデフォルトの設定について議論し、ポイント名称からポイント属性を抜き出すためのキーワード設定等について候補を絞り込む作業を行った。多数のファイルに共通した処理を適用できるソフトウェアとして開発を進めた。</p>
ZEBシステムに関する コミッシュニング手法 検討小委員会 高瀬 知章	4	<p>4回の委員会を開催し、以下の内容について議論を進めた。</p> <p>第一回 (2018/4/23 開催) 昨年度のZEB及び地中熱利用システムにおけるCxの調査・検討に基づき、今後の小委員会の進め方を議論した。①ZEBにおけるCx実態調査・課題の整理、②地中熱システムの機能性能試験標準仕様書の作成、③地中熱システムの事例による機能性能試験標準仕様書の試行の3WGを組織して活動を進めることとなった。</p> <p>第二回 (2018/8/2 開催) ZEBのCxにおけるアンケート調査結果をもとに、9月の学会大会での中間報告用にまとめた資料に基づき、ZEBのCxの課題について議論した。その中で、ZEB 化技術についての採用割合と性能確認を実施している割合をみると、地中熱ヒートポンプは採用数が多く、一定の性能確認が行われているが、試験方法や評価内容にばらつきが大きいことなどを確認した。</p> <p>第三回 (2018/11/6 開催) 親委員会より本小委員会の活動について、地中熱システムだけでなく、ZEB化技術全体のCx仕様書をまとめるべきとの意見があり、ZEBに多く導入されている技術についての概略の機能性能試験方法をまとめることを確認した (地中熱利用システムの仕様書は評価項目毎の具体的な試験方法をまとめ、試行を行う)。これに関して、ZEB化技術の機能性能試験の概要をまとめた表及び高性能窓システムの仕様書案をWG1より提示し、議論した。また、GSHP性能検証についてモデルを作成し、ダミーデータで作成した評価グラフについての提案があり、WG2の活動の参考にする事とした。</p> <p>第四回 (2018/1/24 開催) 床吹出しシステム及び太陽光発電システムの機能性能試験仕様書案が提案され、内容について議論した。昨年12月に行ったエネフィス九州の調査報告を行った。エネフィス九州では、WG1及び2にて作成した機能性能試験案に沿ってCxを試行した (今後試行のものもあり)。</p>
省エネルギー委員会 山羽 基	3	<p>第1回委員会 (平成30年7月4日 (木) 於中部大学三浦記念館・8C講義室)</p> <p>1. 前回議事録の確認</p> <p>2. 平成30年度 研究委員会報告</p> <p>1) 委員会開催時の出席簿作成の徹底、予算 (18万3千円) の決定等報告された。</p> <p>3. 平成30年度 活動内容について</p> <p>1) 住宅、非住宅ともに各対象について行った調査研究について報告があった。</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
省エネルギー委員会 山羽 基 (続き)		4. 各小委員会の活動について 1) 予算について 10月までに各小委員会で使用予定の予算、必要経費を除く16万程度の使用用途を考慮する。 2) 指針について 各小委員会、先進技術について随時纏めていく。 第2回委員会（平成30年11月9日（金）於関西電力株式会社 京都支社103会議室） 1. 前回議事録の確認 2. 研究委員会報告 1) アルバイト等臨時雇用既定の変更について、執行予定の研究費は1月末迄、予定額以上（住宅：計測機器等）であれば追加予算（12/8迄）として申請のこと。 3. 次年度申請関係（年次計画書、新規設置申請書等）の確認 4. 平成30年度 活動内容について 1) 住宅：一般ユーザーを対象に情報提供を実施、沖縄視察にて先進技術を視察、今後纏めていく予定である。 2) 非住宅：ZEB事例の中の調査対象ビルマル、外気処理、ポンプWTFについて30年度中に取り纏める予定である。 第3回委員会（メール審議） 1. 省エネルギー委員会および住宅/非住宅省エネルギー研究小委員会年次報告書について 2. 住宅/非住宅省エネルギー研究小委員会委員の所属変更等の有無について
住宅省エネルギー研究 小委員会 小椋 大輔	4	第1回委員会：平成30年7月10日（火） 1. 今年度の活動方針について意見交換を行った 2. 原委員より、照明に関する省エネ技術についての情報提供を行って頂いた 第2回委員会：平成30年9月17日（月）沖縄視察 1. 小委員会における調査研究内容についての取りまとめ方法について意見交換を行った 2. 沖縄視察の内容について意見交換を行った。 第3回委員会：平成30年12月4日（月） 1. 沖縄視察の報告を行った 2. 光野委員、大阪ガス富尾様より、アフターFITに関する情報と、V2Hに関する情報提供を行って頂いた。 第4回委員会：平成30年3月1日（金）（予定）
非住宅省エネルギー研究 小委員会 河路 友也	6	第1回 小委員会 平成30年5月18日（金） 各委員のZEB事例調査の結果より、今年度は「ビルマル、外気処理方式、デシカント空調、ポンプWTF」を対象に「設計方法、効果試算、検証方法」を纏めることになった。 第2回 小委員会 平成30年7月13日（金） 各委員が、調査対象技術（ビルマル、外気処理方式、デシカント空調、ポンプWTF）について、論文や学会等で発表されている内容や、会社内で纏めたノウハウを発表した。 第3回 小委員会 平成30年8月23日（木） 成果物の構成案について議論し、①基本的な設計手法/省エネに留意する点、②効果試算方法、③効果検証方法/運用改善手法、④事例紹介、で纏めることとした。各調査対象技術毎に3名ずつ担当者を決定。

委員会名 (委員長・主査)	開催回数	事業内容
非住宅省エネルギー研究 小委員会 河路 友也 (続き)		<p>第4回 小委員会 平成30年11月2日(金) 各担当者から、成果物に関する関連論文などの調査結果、とりまとめ状況、今後の方針が示され、各内容について議論した。次回委員会までに、調査対象技術毎にまとめ方の構想を固めることとした。</p> <p>第5回 小委員会 平成30年12月7日(金) 各担当者から、調査対象技術毎のまとめ方の構想について説明があり、内容について議論し、ほぼ構想を固めることができた。次年度の大まかな方針についても確認した。</p> <p>第6回 小委員会 平成31年3月8日(金) 各技術の報告書初版の確認とH30年度実施予定のシンポジウムの内容確認を行う予定。</p>
住宅設備委員会 高村 秀紀	3	<p>住宅設備委員会は、住宅設備に関連する多くの諸問題を調査・研究し、会員は基よりエンドユーザーである一般の住まい手に対しても設備に関連する情報を提供する事を目的としている。</p> <p>本年度は4小委員会が活発に研究活動を行った。4小委員会とも次年度継続する。</p> <p>各小委員会の活動内容は以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者・生活弱者に優しい住宅設備小委員会(川本聖一主査 継続) 住宅設備を使用したり設計する際に、高齢者や生活弱者に対して配慮すべきことがらを整理するため、現状市販されている機器やそれを使用しての現行設計手法の問題点を検討した。 2. 木質バイオマス活用によるエコタウン設備検討小委員会(浅野良晴主査 継続) 木質バイオマスを使った地域熱供給により、暖房・給湯の熱源とした事例に対して内容を検討した。 3. 集合住宅の在宅避難のためのトイレ使用方法検討小委員会(木村洋主査 継続) 実際にオンプロで集合住宅管理組合の協力を得て、当該マンションにおけるマニュアルを作成した。 断水時のバケツ洗浄により必要水量の把握を目的に委員の協力を得てバケツ洗浄データを収集した。 4. 住宅設備のBIM活用検討小委員会(柿沼整三主査 継続) 住宅設備のBIM活用として、委員会内で3種類のソフトを対象に住宅設備での操作性を確認した。
高齢者・生活弱者に 優しい住宅設備小委員会 川本 聖一	5	<ol style="list-style-type: none"> 1. 活動の目的 住宅設備を使用したり設計したりする際に、高齢者や生活弱者に対して配慮すべきことがらを整理し、現状市販されている機器やそれを使用しての現行設計手法の問題点を検証する。また、結果を踏まえて、生産者や消費者に対して提言を行う。 2. 委員 委員14名、特別委員3名、合計17名で活動 3. 活動の詳細 第7回小委員会(2018年05月18日) ①車いす対応ホームエレベーターについての資料が提供された。出入口幅800mmの省スペース大型タイプが対応品で、施工上の制約など詳細は次回確認する事とした。②下水道への紙オムツ受入検討に関連した国交省提案募集(補助事業)について紹介された。③H30年度高齢者住宅に関連した政府事業について説明がなされた。介護報

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
<p>高齢者・生活弱者に 優しい住宅設備小委員会 川本 聖一 (続き)</p>		<p>酬改定で、ADL(日常生活動作)指標としてBathel Indexが導入される。セーフティネット住宅の整備が始り、2020年までに17.5万戸整備が目標となっている。空き家の高齢者施設(非住宅)への転用に緩和措置がとられ、200m²未満の場合、安全措置を設けて耐火構造不要となる。アメリカの高齢者コミュニティ(CCRC)の日本版設置促進の取組みがある。④在宅介護にIoT技術を活かした最近の試みについて紹介された。見守りセンサーから得られた情報から行動パターンの把握を行い、それをケアプラン作成にまで役立てる取組みなどの情報提供があった。</p> <p>第8回小委員会 (2018年07月27日)</p> <p>①在宅医療機器関連の情報収集に関して報告があった。構造躯体(RC造、木造)による電磁環境への影響差異に関して質問があり、継続調査を行うことになった。②紙オムツ下水受入れ検討の関連情報が紹介された。固形物分離タイプの技術検証が進行している。③国交省スマートウェルネス住宅委員会情報、東大・UR・積水ハウスによる在宅介護対応インフィル「楽隠居」開発研究、「水回り設計用温熱環境暫定水準案」の既往研究の紹介がなされた。④高齢者ニーズに応えた多様な居住の場を選択可能とする東京都の施策に関する情報提供がなされた。</p> <p>小委員会中間報告 (2018年09月12日)</p> <p>空気衛生調和工学会大会において、小委員会中間報告を行った。住宅設備を設計・使用する際に、高齢者や生活弱者に対して配慮すべきポイントを整理し、生産者や消費者に対しての提言を行うことを目的としていることを述べた。1年半の委員会活動で情報収集された内容(日本の超高齢化社会の進展予測、高齢者等に配慮した建築設計標準、高齢者の温熱環境適応能力、在宅医療機器に関する規格・規制など)を説明し、今後の取りまとめの方針を説明した。</p> <p>第9回小委員会 (2018年10月05日)</p> <p>①国交省次世代プロジェクト2018が紹介された。紙オムツを破碎装置により分離回収するLIXILの提案の先導性が認められ採択となっている。②本小委員会報告書目次案が提示され意見交換を行った。章ごとのリーダーを決め、チームで進めることとなった。今後まとめていく設備の範囲、弱者の定義を詰めていく必要がある。③「次世代型温熱環境システムOMX」が紹介された。自然エネルギー利用冷暖房を主とし、ヒートポンプで補助している。個別エアコン間欠空調に比較し、25%省エネの全館空調換気システムである。標準装備一式で約350万円であった。</p> <p>第10回小委員会 (2018年12月14日)</p> <p>①本小委員会報告書目次案が提示され、議論及び調整を行った。②平均寿命、健康寿命、介護前段階(フレイル)を想定した近未来の老後のイメージについての資料説明があった。③ADL指標、FIN評価法を用いての住宅設備の問題点抽出の検討について説明があった。④在宅医療の主な内容と情報収集状況について報告があった。</p> <p>第11回小委員会 (2019年02月18日予定)</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
集合住宅の在宅避難の ためのトイレ使用方法 検討小委員会 木村 洋	9	<p>今年度は、実際に集合住宅（南千住アクロシティ）管理組合の協力を得て、当該マンションにおけるマニュアルを作成することを目的に活動し、マニュアル案を作成・提出した。</p> <p>また、バケツ洗浄による必要水量の把握を目的に、各委員の協力を得てバケツ洗浄実験データを収集した。</p> <p>小委員会は9回、管理組合との打ち合わせは、現場調査を含め3回実施した。</p> <p>次年度は、最終年度になり、今年の南千住アクロシティ管理組合でのマニュアル作成の経緯を踏まえ、学会としてのマニュアル作成のためのガイドライン（手引書）を作成する。</p>
住宅設備のBIM活用 検討小委員会 柿沼 整三	15	<p>住宅設備のBIM活用として、委員会内で3種のソフトを使うことで、住宅設備での操作性を確認中としている。</p> <p>この内容については学会大会での委員会中間報告を行ない、多くの質問を受けた。</p> <p>一方、BIM活用でシミュレーションソフトとの関連活用やデータ入力として、LOD（詳細度）と図面レベル（基本、実施、施工、竣工図）との関係を調査・研究する。</p>
木質バイオマス活用 によるエコタウン設備 検討小委員会 浅野良晴	5	<p>1. 活動の目的</p> <p>木質バイオマスを使った地域熱供給により住宅の暖房・給湯の熱源とした事例に対して内容を検討し、技術課題を抽出する。</p> <p>2. 委員構成</p> <p>委員数13名で活動</p> <p>第1回(5月31日)</p> <p>小委員会の扱う地域熱供給は大規模な地域熱供給とどのような違いがあるか、また同じ扱いができる部分はどこか議論した。</p> <p>第2回(7月19日)</p> <p>山梨県道志村の地域熱供給導入計画について大野氏から講演していただいた。</p> <p>第3回(9月19日)</p> <p>山梨県道志村の地域熱供給検討地を視察した。薪ボイラーを熱源とした道志の湯の施設、薪収集方法及び乾燥方法を見学した。木材のサプライチェーン確立の重要性と熱需要の分散化の必要性について議論した。</p> <p>第4回(12月13日)</p> <p>奥飛騨温泉郷の地域振興計画としぶきの湯のペレットによるガス化発電設備及び他の再生可能エネルギーとの組み合わせの事例について浅野主査が説明した。</p> <p>第5回(2月26日予定)</p> <p>小山町湯船原地区視察（木質バイオマス発電所、原木流通センター、ペレット工場、サンファーム富士小山）、御殿場矢崎総業Yタウン視察を予定</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
施工・保全委員会 飯田 徹	4	<p>本委員会は、施工および保全業務における要素技術およびプロセスの研究を行い、併せて学会の施工・保全分野に従事する会員への還元・貢献を図る事を目的として、6小委員会の活動を承認した。</p> <p>また、平成30年中に2回、同30年に2回、合計4回の委員会を開催した(その内3月開催第4回は予定)。</p> <p>今年度は、次の小委員会の活動に対する支援・指導を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 次の小委員会 (H30年度終了) の成果報告書を受付けた。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 設備機器・配管の信頼性向上小委員会 (松川主査) 2. 次の小委員会の平成31年度継続を承認した <ol style="list-style-type: none"> 1) 安全性を重視した建築・設備のリスク及び回避手法の定量化に関する調査検討小委員会 (割石主査) 2) 施工図ガイドライン小委員会 (加藤主査) 3) 取扱説明書作成ガイドライン検討小委員会 (花房主査) 4) 施工・保全のトラブル事例共有化小委員会 5) 実践的な近未来都市・施設のSBCM (スマートな事業継続マネジメント) 検討小委員会 (田中主査) 3. 次の小委員会の次年度から新規活動開始を承認した。(H29年度～H31年度) <ol style="list-style-type: none"> 1) 空調用冷却水システムの設計・施工・保全方法検討小委員会 (松川主査) 4. 功績賞に次の小委員会の成果報告書を推薦した。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 未来都市・施設のためのSBCM小委員会 (藤井主査・平成29年度終了) 5. 平成31年度以降の委員長人事 <ol style="list-style-type: none"> 1) 現委員長の任期満了に伴い、新委員長候補を推薦した。
設備機器・配管の 信頼性向上小委員会 松川 安樹	12	<p>年次計画書に基づき、最終年度として成果報告書作成に関わる以下の活動を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 内容別にWGを構成し、成果報告書目次に沿って、担当する章の内容検討と執筆を行った。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 冷凍機銅チューブ (冷却水側) の腐食トラブル事例の収集結果から要因を抽出した。 2) 設計段階における冷却水の水処理計画の重要性及び「水処理計画書」として施工から維持管理段階へと引継ぐことの重要性を指摘し、ガイドライン化の必要性を提案した。 3) 設計・施工段階で決定する冷却水濃縮倍数の計算方法を記述した。 4) 3) に伴う薬注を中心とした水処理の適切な方法に関するガイドラインの原案を作成した。 5) 維持管理段階における日常管理としての水質管理状況をトレンドとして明確化できるツールとして、「維持管理シート」の作成の必要性を指摘し、記載すべき項目を網羅した原案を作成した。 6) 冷凍機納品時検収における熱交換器銅管の検査要領 (内視鏡による表面状態の確認) を示した。 7) 冷凍機の現場搬入から試運転に至る長期間の保管方法を提案した。 8) 冬季など冷凍機の運転停止時における保管方法を提案した。

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
<p>安全性を重視した建築・設備のリスク及び回避手法の定量化に関する調査検討小委員会 割石 浩幸</p>	9	<p>1. 平成30年度空気調和・衛生工学会大会(大同大学)に以下の3編の発表を行った。 建築設備の施工・保全における安全・品質向上手法に関する検討</p> <p>1) 第19報 施工現場の「熱中症アンケート」と「自覚症状しらべ」 (1) 調査概要と定性的な集計結果</p> <p>2) 第20報 施工現場の「熱中症アンケート」と「自覚症状しらべ」 (2) 作業者に着目した定性的な分析結果</p> <p>3) 第21報 施工現場の「熱中症アンケート」と「自覚症状しらべ」 (3) 現場管理者に着目した定性的な分析結果</p> <p>4) 第22報 施工現場の「熱中症アンケート」と「自覚症状しらべ」 (4) 作業者と管理者の分析結果の比較検討</p> <p>①上記の論文は、平成29年度「安全性を重視した建築・設備のリスク及び回避手法の定量化に関する調査検討小委員会」の検討内容の結果をもとに内容の検討を加え作成された。</p> <p>②発表に関する評価を行った。</p> <p>2. 設備維持管理会社の施工現場における熱中症に関するアンケート調査及び自覚症状調べ 某設備維持管理会社の日本各地の施工現場の作業員約563人に対して、熱中症に対する意識・理解と対策及び作業前後における自覚症状調べのアンケート調査を行なった。 そしてデータの集約、結果分析を行い、来年度の空気調和・衛生工学会大会論文にまとめることとなった。</p> <p>3. 微生物簡易測定法 微生物の簡易測定法の確認を通して、室内における実測を行った。</p>
<p>施工図ガイドライン検討小委員会 加藤 健一郎</p>	9	<p>建築設備の運用段階において、適切な運用、維持・保全を行うことで、設備に関わる消費エネルギーの低減、設備の長寿命化、設備の不具合防止が期待できる。本小委員会では、設計の意図、設備の取扱い方法、維持・保全に関わる情報等が、建築設備引渡し時に施主ならびに建物管理者に適切に伝達される取扱説明書の望ましいあり方を提唱することを目的に検討を進めている。</p> <p>2年目にあたる平成30年度は合計9回の小委員会を開催した。活動の主な内容は以下の通りである。</p> <p>1. 取扱説明書の事例の調査研究</p> <p>2. 取扱説明書の望ましい構成・記載内容の検討</p> <p>3. 取扱説明書の望ましい作成プロセスの検討</p> <p>これまでの検討を通じて、取扱説明書は「使用上の注意事項（してはいけない事項、しなければならない事項）」、「災害発生時等の対応」、「災害復旧時等の対応」の項目が必要であること、運転操作は通常時の運転操作と点検時等の個別運転操作に分けて明記すること、また維持保全が不十分な場合に起こりうる不具合を明記すること等々が重要であることが分かった。また、これらの検討結果を踏まえて二つのモデル建物（中央式設備の建物、個別式設備の建物）に対して取扱説明書作成例の製作を進めてきた。</p> <p>平成31年度は最終年度となるため、これまでの小委員会の成果を「取扱説明書作成ガイドライン（案）」に取りまとめる予定である。</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
取扱説明書作成ガイド ライン検討小委員会 花房 俊治	9	<p>年次計画書に則り、以下の活動を行った。</p> <p>取扱説明書作成ガイドライン案の検討</p> <ol style="list-style-type: none"> 取扱説明書の事例研究 某ホテル、某公共施設（庁舎）、某病院、某生徒寮、某工場、某マンション・複合商業施設など 取扱説明書の構成案ならびに記載事項の検討 委員会成果報告書の構成（案）の検討 成果報告書に記載する取扱説明書作成例の検討 中央式の設備が採用された建物の取扱説明書作成例、個別式の設備が採用された建物の取扱説明書作成例 なお、平成30年度空気調和・衛生工学会大会（名古屋）にて委員会中間報告を行った。
施工・保全のトラブル 事例共有化小委員会 前田 幸輝	10	<p>トラブル防止を目的として、建設現場においても品質管理体制の確立が求められ、ISOなどの活動が一般的となって久しい。しかし、単純なミスや検討不足を原因としたトラブルは依然として発生しており、件数も少ないとは言えない状況が続いている。</p> <p>これは現場で蓄積されてきた技術や知識（暗黙知のようなノウハウも含む）がベテラン技術者から若手技術者へ伝承されていないことが一因と考えられ、今後ベテラン技術者の減少が続くとさらに深刻な問題に発展するのではないかと懸念される。</p> <p>これらの問題に対し、本小委員会では、頻繁に起きる恐れのあるトラブルや設計・施工上の盲点となるようなトラブル事例に解説を加え、初級および中級技術者に向けて情報として発信する活動を行っている。この活動はこれまでの小委員会において継続的に取り組まれてきたものであり、ベテランと若手技術者の技術伝承の手助けとなることを期待している。</p> <p>H31年度は小委員会を9回開催した。具体的な活動は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> トラブル事例の収集および情報としての有益性を考慮し事例を選別 選別した事例を情報としてまとめ、トラブル情報シートを作成 作成したトラブル情報シートを学会誌や学会ホームページ公開 学会ホームページに公開されたトラブル情報シートの閲覧状況の確認 学会ホームページに公開されたトラブル情報シートの閲覧状況の確認
実践的な近未来都市・施設 のSBCM（スマートな事業 継続マネジメント） 検討小委員会 田中 毅弘	5	<p>年次計画書をベースにして、小委員会活動の初年度として、以下の活動を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 小委員会の方向付けについて、各委員の研究テーマに関する議論を行い、ベクトル合わせを行った。 リスク対策の抽出とカテゴリー化：近未来都市・施設のSBCMのあるべき姿を展望するため、約20年の範囲に限定した社会ニーズ、リスク対策に関連するスマートな技術とその活用策の整理を行い、さらに検討する必要がある内容を議論した。 近未来都市・施設のSBCMへのBEMSの活用方法について議論した。

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
地球環境委員会 西村 英樹	5	<p>今年度は以下の事項に関して検討した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地球環境委員会の活動方針について <ol style="list-style-type: none"> 1) 地球環境委員会および各種小委員会の活動方針の確認 2) 研究委員会の報告および関連事項の審議 2. 環境配慮建築小委員会の活動に関する意見交換 <ol style="list-style-type: none"> 1) 3年間の活動内容は次の通り。(初年度となる今年は、低炭素社会推進会議の提言原案の検討、シミュレーションの設定要件の整理を実施) <ol style="list-style-type: none"> ①環境配慮建築アクションプラン小委の成果を踏まえ、標準的な規模の事務所建築等を対象とした年間シミュレーションを基本的な方法とし、外気冷房、CO2濃度による外気量制御等の要素技術の効果に関する知見を反映。 ②低炭素社会推進会議、AIJ低炭素社会推進・技術分野WG、建築設備技術者協会などと情報交換 3. 建築物の地球温暖化対策小委員会の活動に関する意見交換 <ol style="list-style-type: none"> 1) 3年間の活動内容は次の通り。(初年度となる今年は、主に①を実施) <ol style="list-style-type: none"> ①建築物に採用されている地球温暖化対策技術の洗い出し ②地球温暖化対策技術に関するアンケート調査の実施 ③地球温暖化対策技術の導入効果の定量評価 ④地球温暖化対策に有効な建築物のモニタリング手法の動向調査
環境配慮建築小委員会 岩本 静男	3	<p>本小委員会の目的は、省エネルギー・環境配慮技術の進展を予想し、2050年を想定した建築設備を探り、2030年に向けたカーボンニュートラルビル、ゼロエネルギービルの普及に寄与することである。</p> <p>本小委員会の活動計画は、前年度の環境配慮建築アクションプラン小委の成果を踏まえて、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 標準的な規模の事務所建築等を対象とした年間シミュレーションを基本的な方法とする 2. 前年度の小委員会では扱えなかった外気冷房、CO2濃度による外気量制御などの要素技術の効果に関する知見を集める 3. 低炭素社会推進会議、AIJ低炭素社会推進・技術分野WG、建築設備技術者協会などと情報交換の3つを基本方針とする。平成30年度では、低炭素社会推進会議の提言原案について検討すること、シミュレーションの設定要件の整理を行う。 <p>2018年7月26日には趙旺熙 先生、永野秀明 先生と幹事会を開催し、環境配慮建築小委の基本方針として、勉強会を中心に活動し、低炭素推進会議からの作業があれば適宜対応する、という基本方針を確認した。具体的な勉強会の日程やテーマについて、次回予定の小委員会で検討する予定である。</p> <p>また、2018年9月29日に酒井孝司先生と幹事会をメールで開催し、要素技術の効果を検討する際の基準となるケースの設定条件、更には使用するソフトを検討対象とし、シミュレーションを続けることにした。この設定条件については、小委員会で今後検討していくこととした。</p> <p>2019年2月開催予定の小委員会で、上記2点についてさらに検討する予定である。</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
建築物の地球温暖化 対策小委員会 村上 正吾	4	<p>地球温暖化対策において、パリ協定の採択により日本は2030年までに2013年比で26%の温室効果ガス削減を目標としている。事務所、商業、サービスなどの業務部門での温室効果ガスは総量では2013年をピークに減少に転じている。本小委員会は、建築物に実際に採用された地球温暖化対策技術について、その導入効果と関係者の意識を調査し、建物所有者、使用者、設計者にとっての技術導入の判断材料を提供する。</p> <p>本章委員会の活動計画は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 建築物に採用されている地球温暖化対策技術の洗い出し。 2. 地球温暖化対策技術に関するアンケート調査の実施。 3. 地球温暖化対策技術の導入効果の定量評価。 4. 地球温暖化対策に有効な建築物のモニタリング手法の動向調査 <p>以上の4つについて取り組む。</p> <p>初年度の平成30年度は、技術の洗い出しとアンケート調査方法について検討を行った。設計者を中心とした調査により、今後の環境配慮技術に求められる事項が情報収集され活用されていくことを念頭に活動を進めた。BELS認証などの普及に伴い建築物のZEB化は急速に広まっており、採用される技術のさらなる高度化と汎用化が求められている。このためアンケート調査用紙も今日の環境配慮技術の動向、情報を収集できるよう委員会で審議を重ねて作成した。次年度は、学会賞やサステナブル先導事業補助金の採択建物を対象に、今年度作成したアンケート調査用紙をもとに調査を進めていく予定である。</p>
安全・防災委員会 木村 剛	1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 設備耐震対策小委員会の活動内容の確認、作業進捗状況の確認と支援 【小委員会活動内容】 大阪北部地震における水槽類の被害情報収集と水槽のスロッシング・バルジング被害に関する実験見学を行った。 水槽被害について土木学会の専門家との情報交換を行った。 学会誌1月号「設備の耐震とリスク予測・機能継続対策」への記事掲載を行った。 2. 火災安全小委員会の活動内容の確認、作業進捗状況の確認と支援 【小委員会活動内容】 法適合に向けた既存建築物の排煙改修の手法として着目されている階段加圧システムについてシミュレーションモデルを作成した。 シミュレーション上での問題点や対応策を整理した。 3. 社外助成、功績賞、技術フェロー等の推薦 当該期間に該当なし
設備耐震対策小委員会 水谷 国男	8	<p>今年度は、2018年6月に発生した大阪北部地震における水槽類の被害について、情報収集を行うとともに、水槽のスロッシング・バルジング被害に関する実験の見学や、土木学会の専門家などとの情報交換を行った。</p> <p>また、本委員会の委員が中心となって、設備の耐震とリスク予測・機能継続対策というタイトルで、学会誌1月号に特集記事を掲載した。</p> <p>また、日本建築学会の災害委員会とも情報交換を行い、地震による設備被害調査のマニュアル作成に向けた検討を行った。</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
火災安全小委員会 金谷 靖	5	<p>1. 法適合に向けた既存建築物の排煙改修手法に関する課題の整理 既存不適格建築物は大改修も増築もできない状況のため、建築基準法第86条の8に規定された制度に基づき、既存不適格建築物の法適合に必要な段階的な改修を進めるための課題整理、ルールの具体化に向けた検討を行う動向がある。</p> <p>そこで本小委員会では、法適合に向けた既存建築物の排煙改修の手法として着目されている階段加圧システムについて、適用条件の整理を行うことにした。整理を行う上で階段加圧のシミュレーションモデルを作成したが、参考にした既存建物が分からないようにコア部分以外の形状はアレンジしてモデル化を行った。</p> <p>また、シミュレーションを行う上で、モデル建物に階段加圧システムを適用する場合の具体的な対応策や問題点を整理した。現在は、加圧用の給気ファンや空気抜き口などを既存建物に具体的に追加設置する場合の問題点の抽出や、それらを検討するための条件を盛り込んだ各種シミュレーションの準備を行っている。</p>
換気設備委員会 近藤 靖史	4	<p>換気設備全般に関する常設委員会として平成22年4月より活動を開始し、本年度が4期目の最終年度となる区切りの年である。平成28年度から3年間は以下の小委員会を運営してきた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高効率換気システム小委員会 2. 換気問題へのCFDの適用性検討小委員会 3. BIM・CFDパーツ開発応用小委員会 4. 空気質小委員会 <p>平成30年度で上記の1. から3. の3小委員会が終了するので、それらの成果の普及・応用を目指して、次年度に新たに以下の1. から3. の3小委員会を立ち上げる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 換気効率・性能小委員会 2. 環境・設備設計へのCFD応用小委員会 3. CFDパーツの環境シミュレーションへの適用性検討小委員会 <p>上記4. の空気質小委員会はH26年度から活動を開始しており、平成31年度は3年目の活動を行う。</p>
高効率換気システム 小委員会 吉野 一	4	<p>建物の換気設備の設計・施工、あるいは維持管理・運用を適切にするには、高効率な換気システムの導入や、換気経路、換気量、汚染質濃度を正確に予測・設計・測定・評価することが重要である。これまでSHASE-S換気関連規準が各種制定され、継続的に内容の見直しを行っており、最新の知見に基づき改定する必要や、新たに検討すべき内容が多く存在する。本小委員会は、これら規準へ反映させるための基礎的な知見を得るために、換気システムに関する種々の検討を行うことを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. REHVA Guide Book No. 19の全訳出 REHVA Guide Book No. 19 : Mixing Ventilationの全訳出を行い。会員へのサービスとして当委員会成果報告書の付録に掲載した。 2. SHASE-S102-2011の改定 SHASE-S102-2011の規準化居住域濃度に対して委員会で審議し、5パターンの給排気レイアウトにおける規準化居住域濃度を当小委員会の成果報告書に掲載すると共に、SHASE-S102改定小委員会と連携しこれを進めた。

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
高効率換気システム 小委員会 吉野 一 (続き)		<p>3. 付室における換気量の検討 SHASE-S102-2011の付室の換気量に関してASHRAEなどを参考に比較整理し、当小委員会の成果報告書に掲載すると共に、SHASE-S102改定小委員会と連携し規格改定を進めた。</p> <p>4. 産業換気における換気問題の検討 産業換気における各種換気問題の情報収集とこれをベースに換気の種類を進めた。また、換気分野におけるICT活用に関しても委員会で協議し、その内容を成果報告書に掲載した。 本小委員会の成果と課題について検討した結果、産業換気における換気問題に対して更に検討を進める必要が見えてきた。また、将来を見据えて換気分野へのICT活用についても検討する必要があると判断された。このような課題を検討すべく新たに小委員会を設置申請することとした。</p>
換気問題へのCFDの 適用性検討小委員会 酒井 孝司	4	<p>本小委員会は、初学者や実務者が室内環境予測や設備設計にCFD解析技術を適用する際に参考となるガイドブック発行に向けた情報整理を行うとともに、換気に関連する諸問題に対する国内外のCFD解析技術の適用例の調査を行い、新しいCFD解析技術の適用性などについて検討することを目的として、本年度4回の委員会を開催し、下記について議論・検討を行った。</p> <p>1. オフィス例題の整備 建築研究所で実施している実大オフィス実験とCFD解析を対象に、例題としての利用可能性を検討した。実測データに関しては小委員会などで活用することが可能であること、CFD解析条件を明確に示すことで例題として整備できる可能性が高いことが示された。</p> <p>2. シンポジウムによる情報発信 シンポジウムの対象者、内容について継続的に検討を行った。対象としては、学部4年生、社会人に分けて検討することとなった。内容については、ガイドブックを読み進めるための基礎項目講座、ガイドブックで開設されているノウハウのバックボーンとなる理論の解説が案として挙げられた。今年度末頃の開催を目指して、継続的に審議することとなった。</p> <p>3. 最終報告書の作成 本報告書の内容および執筆担当について検討を行った。ガイドブックの出版に関する諸作業、乱流モデルのベンチマークテスト、オフィス例題の検討を中心にまとめることとした。また、ガイドブックの第4章ベンチマークの実験データ等を収録することとした。</p> <p>4. 今後の課題 本小委員会の成果と課題について検討した結果、より詳細な例題やチュートリアル等の整備が不可欠であることがわかった。また、より品質の高いCFD解析技術を可能とする情報を整理・発展させ、社会に向けて発信すべく、環境・設備設計へのCFD解析技術の応用を検討する必要があることがわかった。これらの課題を検討・発展させるため、新たな小委員会の設置を申請することとした。</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
BIM・CFDパーツ 開発応用小委員会 大嶋 拓也	3	<p>数値流体解析（CFD）を用いて空調室内の気流解析を行う場合、解析結果に多大な影響を及ぼす各種吹き出し口の再現が常に大きな課題となっている。そこで、CFDにおける空調吹き出し口などの形状や吹き出し気流性状などの境界条件を、CFDソフトウェアベンダの枠を超えた共通規格でパーツ化し、CFDソフトウェア側ではパーツを配置するだけで吹き出し口を自動的に再現可能な「CFDパーツ」の研究開発を前身の「CFDパーツ化とBIM応用小委員会」（平成25～平成27年度）で行ってきた（第1世代CFDパーツ）。本小委委員会では、その活動を引き継ぐ形で、傘下のBIMシミュレーションWGにおいては建物モデリング・熱負荷計算・CFDの連携に必要なデータ仕様の検討などを、CFDパーツ化WGにおいては主としてモーメント法に基づくCFDパーツ（次世代CFDパーツ）の研究開発を行っている。平成30年度は、以下を行った。</p> <p>1. 次世代CFDパーツに関する検討</p> <p>季節によって吹き出し方向が変わる角アネモ型吹き出し口について、夏期と冬期それぞれにおけるパーツの作成方法を取りまとめた。運動量はメッシュに依存するため、学会パーツとしては理想的なメッシュ分割時のものを提供し、その他のケースはテスト計算によって定数を変更してもらうこととした。ライン型吹き出し口では、モーメント法によってある程度の精度を保ちながら、メッシュ数の削減の可能性が示された。ただし、試解析によるチューニングが必要である。4方向カセット型吹き出し口では、L字に流入条件を設定し、その隣接セルに対して運動量を設定することで詳細メッシュと同様の気流分布となることが示された。また、CFDパーツをCFDソフトウェアに実装する際の、異なるソフトウェア間の挙動の互換性改善を議論した。</p> <p>2. 次世代CFDパーツの適用</p> <p>オフィスビルの1フロア全体にわたる執務室を対象に、第1世代CFDパーツ使用、次世代CFDパーツ使用、CFDパーツ未使用（専任者による解析）のケースを比較した。メッシュ数は未使用に対し第一世代はほぼ同等、次世代は約25%減であった。解析結果としては、第一世代に対して次世代は局所的な風速の再現性が明確な向上が得られ、かつ専任者による解析と同等であった。</p> <p>3. 研究開発成果の取りまとめ</p> <p>3年間の研究開発の成果を取りまとめ、2018年度空気調和・衛生工学会大会におけるオーガナイズドセッション「次世代建築環境CFDパーツの研究開発とBIM連携環境シミュレーションへの応用」を主宰し発表した。</p>
空気質小委員会 柳 宇	3	<p>本小委員会は、国内・海外の関連文献を調査し、大気汚染による室内空気質の影響の実態を明らかにすることを目的として設置されたものである。これまで、2回の委員会を開催し、下記の活動を行った。</p> <p>第1回：2018年8月22日に開催。</p> <p>下記の文献紹介が紹介され、議論を交わした。</p> <p>1. 2013年空衛学会発表論文_アースチューブ内微生物汚染（柳）</p> <p>2. 2018空衛学会発表論文_クールトレンチ内細菌叢による室内への影響（柳）</p> <p>また、最終報告書作成に向けて、情報収集を行っていく。</p> <p>第2回：2018年12月11日に開催し、海外文献2点の紹介と今年度の活動について次の議論をお行った。</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
空気質小委員会 柳 宇 (続き)		<p>1. Characterizing the Indoor-Outdoor Relationship of Fine Particulate Matter in Non-Heating Season for Urban Residences in Beijing</p> <p>2. Indoor exposures are not the same as outdoor exposures!</p> <p>今年度では、2019年2～3月に北海道、東京、埼玉、福井、福岡の5地域の住宅について室内と屋外のPM2.5の同時測定を行い、換気時と非換気時の室内と屋外のPM2.5濃度の関係を調査する。なお、測定プロトコールと計測機器の準備を柳が担当する。</p> <p>第3回：冬期測定終了後開催し、測定結果の報告と次年度活動の確認を行う。</p>
国際交流空調分科会 前川 哲也	4	<p>1. 本小委員会で本年度活動する内容について議論した。</p> <p>1) ASHRAE冬季大会視察団派遣に関する総合調整 (旅行代理店選定、視察団幹部の構成、旅程など)</p> <p>2) ASHRAE冬季大会における Japan Seminarの企画・実施支援</p> <p>3) 交流団体幹部の名古屋大会への招聘 (ASHRAE会長が来訪)</p> <p>2. 国際交流視察団を派遣した。 (アトランタ+ポートランド 平成31年1月) (団長：東京大学 赤司教授、副団長：日本設計 竹部氏 参加者35名)</p> <p>3. ASHRAE冬季大会におけるJapan Seminarの開催を実現した。学会賞等受賞作品の中から下記の6件が応募し、そのすべてが採択された。出発前(11/30)には昨年度と同様に、発表に向けての予行練習を開催した。</p> <p>雲南市役所・竹中東関東 司会：田辺先生 YKK80・順天堂病院 司会：加藤先生 オアーゼ芝浦・中部大学 司会：赤司先生</p> <p>4. AASA (ASHRAE Associate Society Alliance) に出席した (@ASHRAE冬季大会会場)。 HVAC&R Global Allianceを設立することについて議論した。SHASEは賛成を表明した。</p> <p>5. 交流協的に基づいて、ASHRAE、REHVAとの会長会談を個別に実施した (@ASHRAE冬季大会会場)。</p> <p>6. 学会ホームページに、交流団体のイベント情報等を掲載した(年2回)。</p> <p>7. 学会を代表して派遣する海外出張規定案を作成した。</p>
国際交流衛生分科会 小瀬 博之	1	<p>1. CIB W062国際シンポジウム(2018年8～9月、ポルトガル・サンミゲル島)に国際建築設備調査団を派遣した。 (団長：西川 豊宏 工学院大学教授)</p> <p>2. 同上シンポジウム論文集を委員に配付した。</p> <p>3. 2019年度同シンポジウム(2019年9月、オーストラリア・メルボルン)への対応について協議した。</p> <p>4. 給排水衛生設備分野の国際名誉員を検討した。</p> <p>5. 給排水衛生設備の国際交流と国際貢献に関する情報を収集し、本会における活動を審議した。</p>

(2) 国際交流に関する事項

2.1 国際会議への当学会代表派遣 (2件)

2.2 国際会議参加補助金支給 (0件)

2.3 海外視察団派遣 (2件)

(1) 第23回国際建築設備調査団 CIB W062 シンポジウム (スロバキア/コシツェ)

団 長 西川 豊宏君 工学院大学 建築学部 教授
副 団 長 中野 民雄君 静岡文化芸術大学 デザイン学部 准教授
期 間 2018年8月26日(日)～9月2日(日)6泊8日(機中1泊)
参 加 者 15名
視 察 先 ①シンポジウム
開催場所:ポルトガル・サンミゲル島
期 間:8月28日(火)～30日(木)
②視察先
リスボン(ポルトガル)の水利施設

(2) 第28回国際交流視察団 ASHRAE 冬季大会 (米国/アトランタ)

団 長 赤司 泰義君 東京大学 教授 大学院工学系研究科建築学専攻
副 団 長 竹部 友久君 株式会社日本設計 環境・設備設計群 グループ長
期 間 2019年1月12日(土)～1月20日(日) 9日間
参 加 者 35名
視 察 先 ASHRAE 関連行事 (アトランタ) (1/12～1/16)
1. ASHRAE 冬季大会
・テクニカルセッション参加
(Japan Seminar (2回 計6報)での講演、聴講 含む)
・テクニカルツアー参加
2. AHR EXPO (空調設備機器展示会) 視察
関連先視察訪問 (1/14～1/19)
1. ジョージア州アトランタ
(1) NCR Headquarters
2. オレゴン州ポートランド
(1) Port of portland
(2) IOS Portland Showroom (Well 認証)
(3) Edith Green-Wendell Whatt Federal Building (Net-Zero ビル)
(4) OREGON ZOO & Portland Metro Sustainability 局

2.4 国際名誉員 (International Honorary Member) 候補者の選考について

平成31年1月 推薦締切り
平成31年2月 研究委員会にて候補者を選考し、候補者を決定
平成31年3月 理事会へ推薦

(3) 出版物発行に関する事業

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
出版委員会 永田 久子	5	<p>1.. 改定出版規格</p> <p>1) SHASE-S106-2019 減圧弁 (PDFデータ販売) 2019年3月20日発行</p> <p>2. 改訂出版図書</p> <p>1) 快適な温熱環境のしくみと実践 初版1刷1,300冊 2019年3月29日発行</p> <p>3. 増刷の報告</p> <p>1) G0022-2016 建築設備の試運転調整ガイドライン 3刷20部 2018年7月30日発行</p> <p>2) G1008-2016 建築エネルギーシミュレーションツールの評価方法に関するガイドライン 3刷10部 2018年7月30日発行</p> <p>3) M0010-2013 配管腐食・劣化事故調査の進め方マニュアル 4刷10部 2018年10月1日発行</p> <p>4) G0010-1-2011 建築・設備の省エネルギー技術指針 住宅編-指針の更新・追補、エネルギー消費実態調査、建物改修・機器更新の実績評価(第1章) 2刷5部 2018年10月29日発行</p> <p>5) G0018-2016 省エネルギー技術指針(非住宅編) ガイドライン 3刷20部 2018年10月29日発行</p> <p>6) G2006-2012 ディスポーザ排水配管設計・施工・維持管理法ガイドライン 4刷5部 2018年11月20日発行</p> <p>4. 委託出版図書増刷の報告</p> <p>1) 空気調和設備 計画設計の実務の知識 4版3刷1,500冊 2018年4月 (オーム社)</p> <p>2) 給排水衛生設備 計画設計の実務の知識 4版3刷1,500冊 2018年4月 (オーム社)</p> <p>3) イラストで見る空調・給排水 初版5刷100冊 2018年6月 (オーム社)</p> <p>4) 徹底マスター 空気線図の読み方・使い方 初版27刷800冊 2018年8月 (オーム社)</p> <p>5) 空気調和・衛生設備の知識 4版3刷1,000冊 2018年8月 (オーム社)</p> <p>6) 空気調和設備 計画設計の実務の知識 4版4刷2,000冊 2018年10月 (オーム社)</p> <p>7) 給排水衛生設備 計画設計の実務の知識 4版4刷1,000冊 2018年10月 (オーム社)</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
出版委員会 永田 久子 (続き)		5. 絶版報告 1) G0010-1-2011 建築・設備の省エネルギー技術指針 住宅編-指針の更新・追補、エネルギー消費実態調査、建物改修・機器更新の実績評価(第1章) 2) G0012-1-2012 建築・設備の省エネルギー技術指針 非住宅編-省エネルギー指針の追補、指針の効果推定および事例調査 3) G0013-2011 改修工事のトラブル・リスク回避のためのガイドライン 4) G1003-2011 空調兼用排煙設備計画ガイドライン 5) G1005-2011 既存建物の空調設備に対する性能検証過程(復性能検証過程)指針 6) G2006-2012 ディスポーザ排水配管設計・施工・維持管理法ガイドライン 7) G1001-1993 ダクトの新標準仕様・技術指針・同解説 8) G2001-1992 図解 異管種接合法 9) - 給排水衛生設備における騒音・振動低減設計・施工 上記1)～9) 2019年3月31日絶版 6. 今後の出版物 今後の出版物について協議をおこなった。 7. 引用転載許諾申請について 適宜処理した。
空調・衛生設備 アドバイス編集小委員会 荒井 義人	3	新日本法規出版(株)の委託出版「四訂版 空調・衛生設備advice」の出版に向けて、内容の審議を行った。
快適な温熱環境の メカニズム改訂小委員会 田辺 新一	5	「新版 快適な温熱環境のメカニズム」の改訂作業を行い、「快適な温熱環境のしくみと実践」を平成31年3月に出版した。
CASCADE-IV開発小委員会 秋澤 淳	2	「CASCADE-IV」の開発に向けて、内容の審議を行った。
ZEBのデザインメソッド 編集小委員会 丹羽 英治	4	技報堂出版(株)の委託出版「ZEBのデザインメソッド(仮)」の出版に向けて、内容の審議を行った。
空気線図の読み方・ 使い方改訂小委員会 水野 稔	3	(株)オーム社の委託出版「空気線図の読み方・使い方(仮)」の出版に向けて、内容の審議を行った。

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
学会誌委員会 高口 洋人	11	<ol style="list-style-type: none"> 学会誌「空気調和・衛生工学」を、平成30年4月号から平成31年3月号までを刊行した。 特集は10回、講座は1件の連載を終了、1件を新規開始した。 各小委員会企画・立案の特集および講座について検討し、掲載を決定した。 各小委員会企画・立案の単発原稿について検討し、執筆依頼を行い適宜掲載した。 各種投稿原稿について査読を行い、採否を決定し、適宜掲載した。 平成30年度に刊行した学会誌の掲載記事のうち、特集号として「IoTとAIの利用と現状」（平成30年6月）、「設備の耐震とリスク予測・機能継続対策」（平成31年1月）を企画し、内容確認のうえ掲載した。 支部特集号の企画を近畿支部に依頼し、「近畿支部特集 空気調和・衛生工学のフロンティア-今後100年の展望-」（平成30年11月）を掲載した。 その他、学会誌発行に関することについて協議し決定した。
熱源・設備原論 小委員会 高橋 幹雄	11	<ol style="list-style-type: none"> 平成30年度に刊行した学会誌の掲載記事のうち、特集号として「ニッポンのものづくり-歴史に残るイノベーション-」（平成30年8月）、「最先端の“食”設備」（平成31年2月）を企画し内容確認のうえ掲載した。 異見のページとして「30年後の空気調和・衛生設備と学会」（平成30年4月）を企画し、内容確認のうえ掲載した。 提出された「竣工設備調査用紙」から「竣工設備概要データシート」掲載のため依頼物件を抽出した。 その他学会誌刊行に伴う諸問題を検討した。
空調・空気環境 小委員会 酒本 晋太郎	11	<ol style="list-style-type: none"> 平成30年度に刊行した学会誌の掲載記事のうち、特集号として「保存と保管」（平成30年5月）、「国際化社会における建築設備-インバウンドと世界市場への対応」（平成30年11月）を企画し、内容確認のうえ掲載した。 講座として「建築物の環境認証制度」（平成30年3月～平成30年9月）を企画し、内容確認のうえ掲載した。 建築設備Q&Aとして平成30年6月掲載分を企画し、内容確認のうえ掲載した。 提出された「竣工設備調査用紙」から「竣工設備概要データシート」掲載のため依頼物件を抽出した。 その他学会誌刊行に伴う諸問題を検討した。
給排水衛生・水環境 小委員会 杉山 龍朗	11	<ol style="list-style-type: none"> 平成30年度に刊行した学会誌の掲載記事のうち、特集号として「配管の施工省力化と長寿命化-ステンレス鋼鋼管と合成樹脂管-」（平成30年4月）、「次世代を担う若手・中堅が考える給排水衛生設備の現在と未来-100周年記念シンポジウムより-」（平成30年9月）、「気になる最近の電気設備」（平成31年3月）を企画し、内容確認のうえ掲載した。 講座として「バルブの基礎」（平成30年10月～平成31年4月）を企画し、内容確認のうえ掲載した。 建築設備Q&Aとして平成30年10月掲載分を企画し、内容確認のうえ掲載した。 提出された「竣工設備調査用紙」から「竣工設備概要データシート」掲載のため依頼物件を抽出した。 その他学会誌刊行に伴う諸問題を検討した。

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
海外文献紹介小委員会 松下 隆	11	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学会誌「海外文献紹介」および「外国雑誌主要文献題目」欄の掲載記事を訳出し、学会誌に掲載した。 2. 「海外文献紹介」欄の投稿原稿を査読した。 3. 異見のページとして「海外から見た気になる日本の建築設備技術」(平成30年10月)を企画し、内容確認のうえ掲載した。 4. その他、学会誌刊行に伴う諸問題を検討した。
年鑑・年報検討 小委員会 木村 崇	4	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成30年年報特集号(平成30年12月)を企画し、学会誌委員会に立案、内容確認のうえ掲載した。 2. その他学会誌刊行に伴う諸問題を検討した。
論文集委員会 林立也	12	<ol style="list-style-type: none"> 1. 投稿された論文の審査を行い、採否ならびに論文集掲載号を決定し、以下のとおり刊行した。 No. 253(平成30年 4月、学術論文7編、技術論文2編、計 9編79頁) No. 254(平成30年 5月、学術論文5編、技術論文4編、計 9編71頁) No. 255(平成30年 6月、学術論文4編、技術論文4編、計 8編59頁) No. 256(平成30年 7月、学術論文2編、技術論文3編、計 5編37頁) No. 257(平成30年 8月、学術論文2編 技術論文2編 計 4編27頁) No. 258(平成30年 9月、学術論文3編、技術論文1編、計 4編29頁) No. 259(平成30年10月、学術論文4編、技術論文3編、計 7編55頁) No. 260(平成30年11月、学術論文3編 計 3編23頁) No. 261(平成30年12月、学術論文2編、技術論文2編 計 4編36頁) No. 262(平成31年 1月、学術論文1編、技術論文2編 計 3編23頁) No. 263(平成31年 2月、学術論文1編、技術論文2編 計 3編27頁) No. 264(平成31年 3月、学術論文5編、技術論文1編 計 6編61頁) ※計頁数：本文頁総数(刊行総頁数ではない。) 2. その他、論文審査および論文集刊行に伴う諸問題を検討した。 3. CiNii終了(平成28年3月)に伴い、論文公開データベースのJ-STAGE移行手続きを進めた。 4. 空気調和・衛生工学会 大会にて講演論文からの空気調和・衛生工学会論文集への投稿論文の推薦を募り、推薦結果に基づき投稿依頼を実施した。

(4) 刊行物に関する事項

1) 空気調和・衛生工学会論文集

下記12号を刊行した。

号数	発行年月	本文頁* (編数)	目次	広告	その他	合計頁	発行部数
No.253	平成30年 4月	79頁(9編)	2	0	0	81	1,000
No.254	平成30年 5月	75頁(9編)	2	0	1	78	1,000
No.255	平成30年 6月	62頁(8編)	2	0	0	64	1,000
No.256	平成30年 7月	42頁(5編)	2	0	0	44	1,000
No.257	平成30年 8月	33頁(4編)	2	0	0	35	1,000
No.258	平成30年 9月	34頁(4編)	2	0	0	36	1,000
No.259	平成30年 10月	61頁(7編)	2	0	0	63	1,000
No.260	平成30年 11月	30頁(3編)	2	0	0	32	1,000
No.261	平成30年 12月	33頁(4編)	2	0	27	62	1,000
No.262	平成31年 1月	21頁(3編)	2	0	0	23	1,000
No.263	平成31年 2月	25頁(3編)	2	0	0	27	1,000
No.264	平成31年 3月	59頁(6編)	2	0	0	61	1,000
合計		554頁(65編)	24	0	28	606	12,000

*：論文集の総頁数ではありません。

2) 空気調和・衛生工学

学会誌「空気調和・衛生工学」は、第92巻4号から第93号3号までの12号を刊行した。

内訳は、別表「(5)平成30年度学会誌掲載内容内訳」のとおりである。

3) 第14版空気調和・衛生工学便覧(平成22年2月、第1刷)、SHASE-S、SHASE-M、SHASE-G、 学会出版物の当期在庫数は、別表「(6)平成30年度出版物在庫部数 表1～5」のとおりである。

注：別表の改定・増刷に関する詳細は、出版委員会報告(Ⅲ.事業報告の6.調査・資料収集の実施に関する事項 (3)出版物発行に関する事項)に記載。

(5) 平成30年度学会誌掲載内容内訳

(5) 平成30年度学会誌掲載内容内訳

巻号	本文										本文外					広告			発行部数								
	特集		解説・技術報告・論文		委員会報告		講座		海外文献紹介		竣工設備データベース	主要文献題目	会報	①その他	a 頁小計	目次・内容紹介など	目次・内容紹介など	報告		b 頁小計	前付後付	目次裏 会告中 広告	2 (4) 色 対抗	記事 中 前付 後付以 外	記事 中 (1/2 頁以 下)	c 小計	② 総頁
	頁数	編数	頁数	編数	頁数	編数	頁数	編数	頁数	編数																	
4	46	1	8	1	10.5	7	1	5.5	1	5.5	1	5.5	0.5	9.50	92.50	3	28.5	31.5	3	4.5	3	8	3.5	22	146	15,750	
5	46	7	7	1	8	7	1	7.5	1	7.5	1	7.5	0.5	2.50	81.25	3	24.25	27.25	7	8.75	3	5	2.75	26.5	135	15,850	
6	30.5	4	7	1	11.5	6	1	10	1	10	1	10	0.5	16.25	101.00	2	23.75	25.75	6	2.25	3	5	4	20.25	147	15,750	
7	89.5	19	5	1	4.25	4.25	1	4.5	1	4.5	1	4.5	29.75	2.75	122.00	2	24.5	26.5	8	2	3	1	3	17	166	15,800	
8	51.75	10	5	1	11.5	8	1	6	1	6	1	6	0.5	2.75	99.25	3	17.5	20.5	9	3.5	5	3	3	29.5	129	15,800	
9	58	11	6	1	11.5	9	1	6	1	6	1	6	0.5	2.75	99.25	3	19	22	5	6	3	8	3.75	25.75	147	15,800	
10	39.25	6	10.75	9.5	1	5.5	1	5.5	1	5.5	1	5.5	1.5	15.25	89.75	3	16.75	19.75	6	4	3	4	4.25	21.25	131	15,800	
11	47.5	9	7	9	1	8.75	1	8.75	1	8.75	1	8.75	8.75	8.75	78.25	3	15	18	8	6	3	7	2.75	26.75	123	15,900	
12	106	24	11.50	11.50	1	14.5	1	14.5	1	14.5	1	14.5	11.50	11.50	117.50	1	14.5	15.5	10	4.5	3	1	2.5	21	154	15,700	
1	48.75	7	31	1	4.5	10	1	0.5	3.50	98.25	3	17.75	0.5	3.50	20.75	3	17.75	20.75	6	7.25	10	6	3.75	33	152	15,850	
2	36	6	13.25	9	1	5	1	4.5	0.5	28.50	101.75	3	21	24	101.75	3	21	24	10	4	3	12	4.25	33.25	159	15,750	
3	46.25	7	9.5	10.5	1	10.3	2	4.75	4.75	81.25	30.5	3	30.5	33.5	33.5	3	30.5	33.5	4	6.5	5	8	3	26.5	141	15,500	
年度計	646	118	51	4	87	80	10	54	9	51	26	34	112	1,141	32	253	285	82	59	51	70	41	303	1,729	189,250		
月平均	54	10	4	0	7	7	1	5	1	4	2	3	9	95	3	21	24	7	5	4	6	3	25	144	15,771		

注 ①竣工設備一覧、読者サロン、支部便り、私の回顧録、伝承、建築設備&A、異見のページ、技術情報、年間総目次、広告目次、新名譽・特別会員紹介、再辞などをいう。なお、本文「竣工設備一覧」の画面刷りは1枚4頁、片面刷りは1枚2頁として計算した。

②a本文頁小計+b本文外小計+c 広告頁小計

(6) 平成30年度出版物出庫数

表1 空気調和・衛生工学会便覧

商品名	前期 出庫部数	当期 出庫部数	当期 期末在庫数	増刷等
便覧第14版 1巻 基礎編	20	20	209	0
便覧第14版 2巻 機器・材料編	13	18	309	0
便覧第14版 3巻 空気調和設備編	50	38	205	0
便覧第14版 4巻 給排水衛生設備編	53	52	136	0
便覧第14版 5巻 計画・施工・維持管理編	18	13	312	0
便覧第14版セット	67	57	156	0

表2 空気調和・衛生工学会規格 (SHASE-S)

商品名	前期 出庫部数	当期 出庫部数	当期 期末在庫数	増刷等
SHASE-S 001-2005 図示記号	34	37	304	0
SHASE-S 003-2012 スリーブ形伸縮管継手	2	2	0	0
SHASE-S 006-2008 金属製変位吸収管継手	3	5	0	0
SHASE-S 007-2008 メカニカル形変位吸収管継手	2	1	0	0
SHASE-S 008-2008 ゴム製変位吸収管継手	4	3	0	0
SHASE-S 009-2004 建築設備用インサート	9	6	0	0
SHASE-S 010-2013 空気調和・衛生設備工事標準仕様書	273	246	972	0
SHASE-S 012-2013 建築設備用あと施工アンカー	25	26	0	0
SHASE-S 013-2014 建築設備用配管ねじ接合シール材	5	5	0	0
SHASE-S 014-2014 建築設備用ステンレス鋼鋼管のプレハブユニット	7	5	0	0
SHASE-S 102-2011 換気規準・同解説	19	16	0	0
SHASE-S 103-2000 鑄鉄ボイラの出力試験方法	1	0	0	0
SHASE-S 106-2005 減圧弁	6	3	0	0
SHASE-S 110-2007 送風機の音響パワーレベル測定方法	7	2	0	0
SHASE-S 111-2012 煙突計算基準	17	6	0	0
SHASE-S 112-2009 冷暖房熱負荷簡易計算法	31	38	0	0
SHASE-S 113-2012 個別空調機の音響パワーレベル測定法	8	2	0	0
SHASE-S 114-2011 空調機器騒音測定方法	8	3	0	0
SHASE-S 115-2010 室内換気効率の現場測定法・同解説	2	0	0	0
SHASE-S 116-2011 トレーサガスをを用いた単室の換気量測定法	6	5	0	0
SHASE-S 117-2010 換気・空調設備の現場風量測定法	16	0	0	0
SHASE-S 117-2017 換気・空調設備の現場風量測定法	5	36	0	0
SHASE-S 118-2010 冷凍機期間成績係数算定・表示法	3	0	0	0
SHASE-S 119-2017 空気調和設備室内騒音の測定方法	13	2	0	0
SHASE-S 203-2010 排水・通気用鉛管	1	0	0	0
SHASE-S 206-2009 給排水衛生設備規準・同解説	246	201	41	0
SHASE-S 209-2009 鑄鉄製マンホールふた	5	9	0	0
SHASE-S 211-2013 大気圧バキュームブレーカ	4	2	0	0
SHASE-S 212-2005 水撃防止装置の性能評価方法	1	1	0	0
SHASE-S 215-2013 圧力式バキュームブレーカ	3	2	0	0
SHASE-S 217-2016 グリース阻集器	38	16	0	0
SHASE-S 218-2014 集合住宅の排水立て管システムの排水能力試験法	15	6	0	0
SHASE-S 219-2016 循環式浴槽用砂式ろ過器の性能評価方法	5	3	0	0
SHASE-S 220-2017 器具排水特性試験法	9	4	0	0
SHASE-S 221-2012 オイル阻集器	11	7	0	0

*SHASE-S-001、010、206を除き、PDFデータ販売のため、期末在庫なし

表3 ガイドライン(G)

商品名	前期 出庫部数	当期 出庫部数	当期 期末在庫数	増刷等
G 0002-2012 新版 建築設備の耐震設計 施工法	103	110	22	0
G 0003-1999 SIの手引き	0	2	7	0
G 0009-2007 京都議定書目標達成に向けて建築・都市エネルギーシステムの新技术	1	3	170	0
G 0010-1-2011 建築・設備の省エネルギー技術指針 住宅編 -指針の更新・追補、エネルギー消費実態調査、建物改修・機器更新の実績(第1章)-	1	5	5	5
G 0012-1-2012 省エネルギー指針の追補、指針の効果推定および事例調査	2	1	15	0
G 0013-2011 改修工事のトラブル・リスク回避のためのガイドライン	1	4	7	0
G 0015-2013 BEMS活用のためのグラフ画面とデータエクスポートのガイドライン	5	4	6	0
G 0016-2013 建築設備配管に使用する管フランジ用ガスケットの選定ガイドライン	5	1	11	0
G 0017-2015 ZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)の定義と評価方法に関するガイドライン	11	20	9	0
G 0018-2016 省エネルギー技術指針(非住宅編)ガイドライン	8	10	20	20
G 0019-2016 BEMSポイント名称ガイドライン	4	4	14	0
G 0020-2016 災害時のBCP検証手法ガイドライン —空調・衛生設備を中心に—	11	6	10	0
G 0021-2016 BEMS ビル管理システムの計画・設計と運用の知識	59	59	99	0
G 0022-2016 建築設備の試運転調整ガイドライン	13	12	17	20
G 1001-2012 試して学ぶ熱負荷HASPEE～新最大熱負荷計算法～	51	80	139	0
G 1002-1993 夕刻の新標準仕様・技術指針・同解説	3	2	0	0
G 1003-2011 空調兼用排煙設備計画ガイドライン	9	9	8	0
G 1004-2011 セントラル空調システムの最適化機器相互の統合的最適設計と運転の手引き	18	29	284	0
G 1005-2011 既存建物の空調設備に対する性能検証過程(復性能検証過程)指針	4	2	6	0
G 1006-2013 ビル用マルチパッケージ型空調システム—計画・設計から性能評価まで—	57	41	121	0
G 1007-2014 換気システムの不具合対策に関するガイドライン	4	3	18	0
G 1008-2016 建物エネルギーシミュレーションツールの評価手法に関するガイドライン	8	7	7	10
G 1009-2016 集合住宅の機械換気設備による室内負圧に関するガイドライン	4	1	12	0
G 2001-1992 図解・異管種接合法	3	6	162	0
G 2006-2012 ディスポーザ排水配管設計・施工・維持管理法ガイドライン	0	7	2	5
G 2007-2015 排水管清掃方法ガイドライン	5	13	6	0
G 2008-2015 貯湯式給湯器転倒防止対策ガイドライン	4	3	4	0
G 2009-2016 トラップ性能試験法ガイドライン	0	0	17	0

表4 マニュアル(M)

商品名	前期 出庫部数	当期 出庫部数	当期 期末在庫数	増刷等
M 0001-1-2015 都市ガスコージェネレーションの計画・設計と運用	46	26	74	0
M 0001-2-2013 都市ガスによるコージェネレーション評価プログラム CASCADEⅢ	20	4	36	0
M 0001-2-2013 都市ガスによるコージェネレーション評価プログラム CASCADEⅢ交換価格	0	0	0	0
M 0003-2015 建築と設備の環境配慮技術のすべて—要素技術からスマートシティまで—	51	24	521	0
M 0005-2013 新版 災害時の水利用 飲める水・使える水	30	14	31	0
M 0010-2013 配管腐食・劣化事故調査の進め方マニュアル	3	7	11	10
M 0011-2018 建築設備の凍結・雪対策 計画設計施工の実務の知識	0	389	97	500
M 1001-2009 新版 工場換気	359	444	1038	0
M 1002-2017 蓄熱式空調システムが実現するエネルギーマネジメント～計画・設計から運用まで～	168	13	290	0
M 1003-2005 新版 快適な温熱環境のメカニズム	66	47	0	0
M 1003-2019 快適な温熱環境のしくみと実践	0	0	1300	1300
M 1004-2003 低温送風空調システムの計画と設計	2	8	239	0
M 1006-2005 空気調和・衛生工学会編 都市ガス空調のすべて	0	0	0	0
M 1006-2017 新版 都市ガス空調のすべて	298	10	519	0
M 2001-2011 雨水利用の実務の知識設計・施工・維持管理マニュアル	17	18	1026	0

表5 その他

商品名	前期 出庫部数	当期 出庫部数	当期 期末在庫数	増刷等
湿り空気線図h-x線図	51	75	78	0
給排水衛生設備における騒音・振動低減設計・施工	0	3	89	0
置換換気ガイドブック -基礎と応用- REHVA No.1	14	19	354	0
オフィスにおける室内気候と知的生産性 REHVA No.6知的生産性評価を組み込んだライフサイクルコスト分析	9	10	559	0
換気効率ガイドブック—理論と応用—REHVA No.2	14	10	708	0
換気設計のための数値流体力学CFD	18	0	120	0

7. 表彰の実施に関する事項

(1) 表彰事業

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
表賞運営委員会	2	各表彰の選考業績につき審議を行った。 各表彰に関する、規程、要領につき審議を行った。
学会賞・特別賞・ 振興賞選考委員会 田辺 新一	2	学会賞・特別賞・振興賞の審査・選考につき下記を理事会へ報告した。 1. 第57回学会賞論文賞 全5件 (学術論文部門3件、技術論文部門1件、論説・報文部門1件) 2. 第57回学会賞技術賞 全4件 (建築設備部門4件、技術開発部門0件) 3. 第19回特別賞十年賞 全2件 4. 第7回特別賞リニューアル賞 全1件 5. 第33回振興賞学生賞 登録88学部学科より82件 6. 第34回振興賞高校教育賞 全1件 7. 第33回振興賞技術振興賞 全11件 (第1区3件、北海道支部1件、東北支部0件、中部支部1件、北信越支部1件、近畿支部2件、中国四国支部2件、九州支部1件) 8. 第15回振興賞住宅環境設備賞 全1件 9. 第16回功績賞 全3件
論文賞審査小委員会 諏訪 好英	2	1. 学会賞論文賞(学術論文部門、技術論文部門、論説・報文部門)の審査にあたり、表彰規程第5条に定める審査対象業績につき審査を行い表彰候補業績(上記参照)を学会賞選考委員会へ報告した。
技術賞審査小委員会 村上 公哉	2	1. 学会賞技術賞(建築設備部門、技術開発部門)および振興賞技術振興賞第1区の審査にあたり、表彰規程第5条に定める応募対象業績の予備審査、資料調査および現場調査を行い表彰候補業績(上記参照)を学会賞選考委員会へ報告した。
特別賞審査小委員会 佐々木 邦治	2	1. 特別賞「十年賞」および特別賞「リニューアル賞」の審査にあたり表彰規程第6条に定める応募対象業績につき、予備審査、資料調査、および現場調査を行い、表彰候補業績(上記参照)を特別賞選考委員会へ報告した。
篠原記念賞推薦委員会 細谷 清	3	1. 篠原記念賞表彰業績の選定として、篠原記念賞推薦委員会推薦に加え、研究委員会、出版委員会、標準化委員会、学会誌委員会へ推薦を依頼し、応募のあった業績につき審査し、受賞候補業績を理事会へ報告した。 ・篠原記念賞 2件 ・篠原記念賞奨励賞 3件
井上宇市記念賞 推薦委員会 嶋村 和行	2	1. 井上宇市記念賞を公募し、下記の表彰候補者を理事会に報告した。 ・井上宇市賞 2件 ・アジア国際賞 1件

(2) 第 56 回空気調和・衛生工学会賞

学会賞論文賞は、表彰を行う年の前々年の 12 月 31 日からさかのぼって前 2 年間に論文集および学会誌に発表された業績とする。学会賞技術賞は、表彰を行う年の前々年の 12 月 31 日からさかのぼって前 3 年間に竣工または開発された業績とする。

1) 論文賞

① 学術論文部門

○印：主たる研究者

業績名	受賞者
節水形大便器の排水横管内における器具排水特性と搬送性能のシミュレーション手法に関する研究 第 1 報—器具排水特性のシミュレーション手法の提案と検証（論文集No.217） 第 2 報—供試代用汚物の搬送性能シミュレーション手法の提案と検証（論文集No.227） 第 3 報—トイレットペーパーの搬送性能シミュレーション手法の提案と検証（論文集No.237）	秋山 和也○ 大塚 雅之 重藤 博司 松尾 隆史
地域冷房に用いる氷水搬送技術の実用化に関する研究 —配管設計用データの拡充および計測・制御技術の提案—（論文集No.227）	稲田 雄大○ 射場本 忠彦 百田 真史 宮良 拓百 釦持 尚紀
業務用電化厨房の排気フード捕集性能に及ぼす排気フードの張り出し長さの影響に関する実験研究（論文集No.232）	岩松 俊哉○ 占部 亘
放冷冷水の冷却水化による蓄熱式空調システムの昼間電力消費削減に関する研究 第 1 報—基本システムの提案と基本性能（論文集No.188） 第 2 報—冷却水化並列運転の提案とその効果（論文集No.213） 第 3 報—空冷冷凍機システムへの適用（論文集No.227）	神谷 是行○ 宮城 聡 廣木 大

② 論説・報文部門

特集 給排水設備の災害時対応 災害時における水確保と排水対策	岡田 誠之
-----------------------------------	-------

2) 技術賞

① 建築設備部門

業績名称	受賞者
YKK 80ビルにおける環境・設備計画と実施	(株)日建設計 YKK不動産(株) YKK(株) YKK AP(株) 鹿島建設(株) 東洋熱工業(株) 一ノ瀬 雅之
雲南市役所新庁舎における ZEB の実現	(株)日本設計 島根県雲南市 (株)中林建築設計事務所 新和設備工業(株) 山陰クボタ水道用材(株) パナソニック(株)エコソリューションズ [®] 社 樋山 恭助
竹中工務店東関東支店改修の環境・設備計画と実施	(株)竹中工務店 (株)TAKイーヴァック 朝日機器(株) クボタ空調(株) 伊香賀 俊治 岩田 利枝 宿谷 昌則
順天堂 B 棟 ～ Metropolitan Medico-Arch Project 医療と建築の連携による都市型高層病院の創り込み	清水建設(株) (株)日本設計 新菱冷熱工業(株) (株)朝日工業社 堀 賢 長谷見 雄二 堤 仁美

②技術開発部門

無し

(3) 特別賞「第18回十年賞」、「第6回リニューアル賞」

1) 特別賞「十年賞」

「十年賞」は、表彰を行う年の前年の12月31日からさかのぼって前3年間に竣工後10年を経過し、審査時に使用中の設備または施設に関する業績で、この間継続的な調査・改善によって適切な維持管理が行われた業績とする。

無し

2) 特別賞「リニューアル賞」

「リニューアル賞」は、リニューアル賞は表彰を行う年の前年の12月31日からさかのぼって前3年間に改修工事を実施し、審査時に使用中の設備または施設に関する業績で、改修工事による機能回復や性能向上の状況が検証された業績、ならびに公表された業績のうち、審査時に使用中のリニューアルに関する業績とする。

業績名称	受賞者
東京文化会館空調設備改修における室内環境・エネルギー改修	(株)前川建築設計事務所 東京都 新日本空調(株) 丸光産業(株) (株)ネット

(4) 第32回空気調和・衛生工学会振興賞

1) 第33回学生賞

本学会振興賞選考委員会の承認を得て登録した86大学学部学科の学部卒業生のうち、学科主任教授の推薦を受けた79名を表彰した。

2) 第32回技術振興賞

振興賞は、表彰を行う年の前々年の12月31日からさかのぼって前3年間に竣工した設備または施設の計画・設計・施工に関する業績、ならびに公表された以下の業績のうち、審査時に使用中の業績で技術の振興と奨励にふさわしいと認められた業績を選出する。

支部	業績名称	受賞者
第1区	NF (Not use fire Foam) システムの開発－駐車場用閉鎖型水噴霧設備の開発－	(株)三菱地所設計 斎久工業(株) 能美防災(株) 千住スプリンクラー(株) ホーチキ(株)
	浦安市新庁舎の計画・設計・施工	鹿島建設(株) 鹿島建設(株)技術研究所 浦安市 (株)日建設計

	既成市街地でのスマートコミュニティを実現した「オアーゼ芝浦」における計画・設計・施工	清水建設(株)
北海道支部	北海道科学大学における地域性を活かした環境負荷低減設備	大成建設(株) 日伸テクノ(株) 北海道科学大学 魚住 昌広 半澤 久
東北支部	配電工事用建柱車による螺旋状地中熱交換器埋設技術の開発	東北電力(株) (株)イノアック住環境 (株)ユアテック 赤井 仁志 葛 隆生
	釜石市上中島町復興公営住宅Ⅱ期 釜石スマートシティ計画におけるスマートコミュニティ実現に向けた取組み	(株)竹中工務店東北支店 (株)ユアテック
中部支部	中部大学スマートエコキャンパス ～スマートコミュニティの実証モデルを目指して～	清水建設(株) 山羽 基 高砂熱学工業(株) 川北電気工業(株) 東邦ガス(株) パナソニック(株)エコソリューションズ [®] 社 長瀬産業(株)
北信越支部	HIOKI イノベーションセンター	(株)日建設計 大成建設(株)北信越支店 (株)大気社関東支店
	ESCO・ESP を活用したカーボンマネジメント及び避難拠点機能強化（新潟市亀田総合体育館ESCO事業）	菱機工業(株)新潟支店 研冷工業(株)
近畿支部	大阪ガス新情報発信拠点の計画～地域社会への貢献と先進エネルギーシステムの具現化～	(株)安井建築設計事務所 大阪ガス(株) (株)竹中工務店 近本 智行 李 明香 原田 和典
	社会医療法人生長会ベルランド総合病院の空気調和・衛生設備	清水建設(株)関西支店 社会医療法人生長会ベルランド総合病院

	立命館大学大阪いばらきキャンパス～地域と連携したエコアクションキャンパス～	(株)竹中工務店大阪本店 学校法人立命館 (株)山下設計 (株)OGCTS
中国・四国支部	新居浜市 あかがねミュージアム 人が集う文化施設における温熱環境と空気質の提案と評価	(株)日建設計 大阪 新居浜市 あかがねミュージアム 三井住友建設(株)四国支店 (株)一宮工務店 (株)白石工務店 鍵 直樹 柳 宇
九州支部	ホテルオリオンモトブにおける水と空気のトータルエネルギーシステムの計画と検証	(株)日建設計 (株)環境設計国建 清水建設(株)九州支店 高砂熱学工業(株)九州支店 三建設備工業(株)九州支店 (株)日建設計総合研究所

3) 第33回高校教育賞

業績名	受賞者
無し	無し

(5) 第8回井上宇市記念賞

本賞は、故井上宇市君（第50期～第53期会長）の業績を記念し、空気調和設備及び環境工学分野に関する開発、設計、研究、教育に特に貢献のあった技術者、研究者に井上宇市賞、アジア国際賞を授与する。

賞名	受賞者
井上宇市賞	井上 隆 （東京理科大学）
井上宇市賞	那須原 和良 （清水建設(株)）
アジア国際賞	Zhu Ying Xin (Tsinghua University)

(6) 第27回篠原記念賞

本賞は、故篠原隆政君（第58期～第61期会長）の業績を記念し、給排水または衛生に関する技術の研究、開発、普及に優れた業績を挙げた会員に対して篠原記念賞を、また、将来の活動が期待できる博士修了学生あるいは修士修了学生、ならびに今後もさらなる活躍が期待できる会員に対して篠原記念賞奨励賞を授与する。

賞名	受賞者
篠原記念賞	井上 浩章 (アクアス(株))

奨励賞	呉 光正（関東学院大学）
奨励賞	矢ヶ崎 啓介（工学院大学）
奨励賞	小原 雄輝（北海道大学）

(7) 第 15 回功績賞

功績賞は、空気調和・衛生工学の発展ならびに本会の活動に顕著な功績のあった委員会、出版物等に対して下記を選出する。

業績名	受賞者
エネルギーシステムの設計情報データベース －Ⅰ編：熱負荷・電力負荷の原単位－ －Ⅱ編：熱源システムの設計仕様－	空気調和設備委員会 エネルギーシステム設計情報データベース 小委員会
排水管清掃方法の実態調査及び清掃の評価に関する調査研究	施工・保全委員会 排水管清掃の設計・施工・維持管理検討小委員会
内部発熱の偏在化に対応した空調システムの設計法の提案ならびに熱環境シミュレーションに係わる最新動向調査	空気調和設備委員会 熱環境シミュレーション小委員会

IV. 会計報告

1. 財務諸表報告

(1) 貸借対照表

平成31年3月31日現在

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	315,149,144	329,378,048	△ 14,228,904
未収入金	14,982,469	14,810,749	171,720
未収会費	0	0	0
在庫品	12,000,886	14,683,239	△ 2,682,353
仮払金	40,000	20,000	20,000
前払金	5,823,295	5,314,753	508,542
流動資産合計	347,995,794	364,206,789	△ 16,210,995
2. 固定資産			
(1) 基本財産	0	0	0
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	26,449,887	24,709,651	1,740,236
公益目的資産	150,000,000	150,000,000	0
公益目的事業資産	200,000,000	200,000,000	0
事務所等の改修および取得資産	95,000,000	80,000,000	15,000,000
特定資産合計	471,449,887	454,709,651	16,740,236
(3) その他の固定資産			
電話加入権	235,900	235,900	0
敷金・保証金	17,401,360	17,401,360	0
その他の固定資産合計	17,637,260	17,637,260	0
固定資産合計	489,087,147	472,346,911	16,740,236
資産合計	837,082,941	836,553,700	529,241
II. 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	6,044,629	5,858,054	186,575
未払消費税等	0	4,726,600	△ 4,726,600
未払法人税等	0	0	0
前受会費	81,272,200	80,102,000	1,170,200
前受金	6,628,116	6,314,980	313,136
預り金	694,544	865,798	△ 171,254
仮受金	124,854	118,966	5,888
賞与引当金	7,600,000	7,800,000	△ 200,000
流動負債合計	102,364,343	105,786,398	△ 3,422,055
2. 固定負債			
退職給付引当金	26,449,887	24,709,651	1,740,236
固定負債合計	26,449,887	24,709,651	1,740,236
負債合計	128,814,230	130,496,049	△ 1,681,819
III. 正味財産の部			
1. 一般正味財産	708,268,711	706,057,651	2,211,060
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(445,000,000)	(430,000,000)	(15,000,000)
正味財産合計	708,268,711	706,057,651	2,211,060
負債及び正味財産合計	837,082,941	836,553,700	529,241

(2) 正味財産増減計算書

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

(単位:円)

科 目	正味財産増減計算書内訳書			当年度	前年度	増 減
	公益目的 事業会計	法人会計	内部 取引 消去			
I 一般正味財産増減の部						
1. 経常増減の部						
(1) 経常収益						
①受取入会金	765,000	326,000	0	1,091,000	1,026,000	65,000
正会員受取入会金	586,000	250,000	0	836,000	771,000	65,000
学生会員受取入会金	137,000	58,000	0	195,000	165,000	30,000
賛助会員受取入会金	42,000	18,000	0	60,000	90,000	△ 30,000
②受取会費	132,585,000	56,820,550	0	189,405,550	213,684,650	△ 24,279,100
正会員受取会費	109,215,000	46,805,300	0	156,020,300	156,738,150	△ 717,850
学生会員受取会費	1,530,000	655,500	0	2,185,500	1,979,000	206,500
賛助会員受取会費	21,840,000	9,359,750	0	31,199,750	30,847,500	352,250
賛助会員特別会費	-	-	-	-	24,120,000	△ 24,120,000
③事業収益	112,115,872	2,612,600	0	114,728,472	123,725,331	△ 8,996,859
1-1 講座セミナーの実施	42,517,691	0	0	42,517,691	49,130,934	△ 6,613,243
教育・普及事業収益	21,459,841	0	0	21,459,841	19,853,060	1,606,781
学術事業収益	16,137,054	0	0	16,137,054	24,066,178	△ 7,929,124
C P D 事業収益	4,920,796	0	0	4,920,796	5,211,696	△ 290,900
1-2 資格付与の実施	25,308,000	0	0	25,308,000	23,893,000	1,415,000
資格検定事業収益	25,308,000	0	0	25,308,000	23,893,000	1,415,000
1-3 調査・資料収集の実施	44,290,181	0	0	44,290,181	47,679,977	△ 3,389,796
学術調査研究事業収益	0	0	0	0	0	0
国際交流事業収益	0	0	0	0	0	0
受託調査研究事業収益	0	0	0	0	0	0
出版物発行事業収益	44,290,181	0	0	44,290,181	47,679,977	△ 3,389,796
1-4 技術開発・研究開発の実施	0	0	0	0	0	0
規格制定事業収益	0	0	0	0	0	0
1-5 表彰の実施	0	0	0	0	0	0
表彰事業収益	0	0	0	0	0	0
法人会計	0	2,612,600	0	2,612,600	3,021,420	△ 408,820
W e b 広告収益	0	2,612,600	0	2,612,600	2,745,400	△ 132,800
周年記念事業収益	0	0	0	0	0	0
特別委員会収益	0	0	0	0	276,020	△ 276,020
④受取補助金等	0	0	0	0	0	0
⑤受取負担金	0	0	0	0	0	0
⑥受取寄附金	0	0	0	0	6,409,648	△ 6,409,648
⑦受取利息	2,075	518	0	2,593	3,029	△ 436
⑧雑収益	842,368	93,127	0	935,495	1,032,286	△ 96,791
経常収益計	246,310,315	59,852,795	0	306,163,110	345,880,944	△ 39,717,834

科 目	正味財産増減計算書内訳書			当年度	前年度	増 減
	公益目的 事業会計	法人会計	内部 取引 消去			
(2) 経常費用						
①事業費	247,424,569	0	0	247,424,569	261,921,229	△ 14,496,660
1-1 講座セミナーの実施	25,161,585	0	0	25,161,585	32,428,772	△ 7,267,187
教育・普及事業費	11,677,827	0	0	11,677,827	11,397,820	280,007
学術事業費	12,670,487	0	0	12,670,487	20,263,831	△ 7,593,344
C P D 事業費	813,271	0	0	813,271	767,121	46,150
1-2 資格付与の実施	14,399,468	0	0	14,399,468	15,048,910	△ 649,442
資格検定事業費	14,399,468	0	0	14,399,468	15,048,910	△ 649,442
1-3 調査・資料収集の実施	64,129,834	0	0	64,129,834	65,587,083	△ 1,457,249
学術調査研究費	1,940,322	0	0	1,940,322	2,056,654	△ 116,332
国際交流事業費	1,269,279	0	0	1,269,279	896,744	372,535
受託調査研究事業費	0	0	0	0	0	0
出版物発行事業費	60,920,233	0	0	60,920,233	62,633,685	△ 1,713,452
1-4 技術開発・研究開発の実施	109,221	0	0	109,221	170,673	△ 61,452
規格制定事業費	109,221	0	0	109,221	170,673	△ 61,452
1-5 表彰の実施	5,681,100	0	0	5,681,100	6,370,268	△ 689,168
表彰事業費	5,681,100	0	0	5,681,100	6,370,268	△ 689,168
旅費・交通費	2,109,172	0	0	2,109,172	2,752,527	△ 643,355
小計	111,590,380	0	0	111,590,380	122,358,233	△ 10,767,853
給料手当	71,582,134	0	0	71,582,134	72,103,684	△ 521,550
法定福利費	13,978,682	0	0	13,978,682	13,714,150	264,532
賞与引当金繰入	△ 160,000	0	0	△ 160,000	560,000	△ 720,000
退職給付費用	4,424,189	0	0	4,424,189	4,673,918	△ 249,729
福利厚生費	1,021,770	0	0	1,021,770	1,192,251	△ 170,481
旅費交通費	59,231	0	0	59,231	276,485	△ 217,254
通信費	1,734,899	0	0	1,734,899	1,680,082	54,817
減価償却費	0	0	0	0	0	0
消耗什器備品費	232,480	0	0	232,480	121,600	110,880
消耗品費	435,466	0	0	435,466	643,040	△ 207,574
修繕費	720,000	0	0	720,000	0	720,000
印刷費	248,739	0	0	248,739	282,586	△ 33,847
共益費	2,476,209	0	0	2,476,209	3,143,334	△ 667,125
賃借料	23,303,408	0	0	23,303,408	20,217,759	3,085,649
租税公課	454,608	0	0	454,608	13,008	441,600
事務委託費	7,150,728	0	0	7,150,728	6,766,960	383,768
雑費	802,781	0	0	802,781	1,301,105	△ 498,324
消費税	7,368,865	0	0	7,368,865	12,873,034	△ 5,504,169
小計(事業運営費)	135,834,189	0	0	135,834,189	139,562,996	△ 3,728,807
②管理費	0	56,527,481	0	56,527,481	80,170,203	△ 23,642,722
会員事業費	0	2,842,629	0	2,842,629	2,865,568	△ 22,939
委員会委嘱・名簿作成費	0	127,720	0	127,720	118,720	9,000
国際交流事業費(国際会議補助)	0	92,593	0	92,593	92,593	0
技術フェロー事業費	0	29,500	0	29,500	19,000	10,500
情報化促進事業費	0	3,310,216	0	3,310,216	4,470,465	△ 1,160,249
会議費	0	7,511,074	0	7,511,074	7,907,717	△ 396,643
役員選挙費	0	930,299	0	930,299	880,902	49,397
代議員選挙費	0	2,550,000	0	2,550,000	0	2,550,000
加入学協会費	0	554,167	0	554,167	545,996	8,171
支払保険料	0	275,528	0	275,528	275,630	△ 102
周年記念事業費	0	0	0	0	23,000,581	△ 23,000,581
旅費・交通費	0	4,345,213	0	4,345,213	5,102,286	△ 757,073
小計	0	22,568,939	0	22,568,939	45,279,458	△ 22,710,519
給料手当	0	17,895,533	0	17,895,533	18,025,921	△ 130,388
法定福利費	0	3,494,670	0	3,494,670	3,428,538	66,132
賞与引当金繰入	0	△ 40,000	0	△ 40,000	140,000	△ 180,000
退職給付費用	0	1,106,047	0	1,106,047	1,168,479	△ 62,432
福利厚生費	0	255,443	0	255,443	298,063	△ 42,620
旅費交通費	0	14,807	0	14,807	69,120	△ 54,313
通信費	0	433,724	0	433,724	420,020	13,704
減価償却費	0	0	0	0	0	0
消耗什器備品費	0	58,120	0	58,120	30,400	27,720
消耗品費	0	108,867	0	108,867	160,760	△ 51,893
修繕費	0	180,000	0	180,000	0	180,000
印刷費	0	62,184	0	62,184	70,646	△ 8,462
共益費	0	619,051	0	619,051	785,834	△ 166,783
賃借料	0	5,825,852	0	5,825,852	5,054,440	771,412
租税公課	0	113,652	0	113,652	3,252	110,400
事務委託費	0	1,787,682	0	1,787,682	1,691,739	95,943
雑費	0	200,694	0	200,694	325,275	△ 124,581
消費税	0	1,842,216	0	1,842,216	3,218,258	△ 1,376,042
小計	0	33,958,542	0	33,958,542	34,890,745	△ 932,203
経常費用計	247,424,569	56,527,481	0	303,952,050	342,091,432	△ 38,139,382
当期経常増減額	△ 1,114,254	3,325,314	0	2,211,060	3,789,512	△ 1,578,452

科 目	正味財産増減計算書内訳書			当年度	前年度	増 減
	公益目的 事業会計	法人会計	内部 取引 消去			
2. 経常外増減の部						
（1）経常外収益						
固定資産売却益	0	0	0	0	183,152,794	△ 183,152,794
経常外収益計	0	0	0	0	183,152,794	△ 183,152,794
（2）経常外費用						
固定資産除却損	0	0	0	0	349,442	△ 349,442
事務所移転費用	0	0	0	0	41,537,855	△ 41,537,855
経常外費用計	0	0	0	0	41,887,297	△ 41,887,297
当期経常外増減額	0	0	0	0	141,265,497	△ 141,265,497
当期一般正味財産増減額	△ 1,114,254	3,325,314	0	2,211,060	145,055,009	△ 142,843,949
一般正味財産期首残高				706,057,651	561,002,642	145,055,009
一般正味財産期末残高				708,268,711	706,057,651	2,211,060
Ⅱ 正味財産期末残高				708,268,711	706,057,651	2,211,060

(3) 財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

- (1) たな卸資産の評価基準及び評価方法 個別法による原価法
- (2) 固定資産の減価償却の方法 建物 定率法
建物附属設備 定率法
備品 定率法
- (3) 引当金の計上基準
 賞与引当金 職員の賞与支給に備えるため、支給見込額の当期負担額を計上している。
 退職給付引当金 職員の退職金の支給に備えるため、退職給与規程に基づく期末要支給額から中小企業退職金共済事業財団退職金共済給付金額を控除した額を計上している。
- (4) 消費税等の会計処理
 税抜き方式を採用している。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。 (単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産	0	0	0	0
特定資産				
退職給付引当資産	24,709,651	1,740,236	0	26,449,887
公益目的資産	150,000,000	0	0	150,000,000
公益目的事業資産	200,000,000	0	0	200,000,000
事務所等の改修および取得資産	80,000,000	15,000,000	0	95,000,000
小 計	454,709,651	16,740,236	0	471,449,887
合 計	454,709,651	16,740,236	0	471,449,887

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。 (単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産	0	0	0	0
特定資産				
退職給付引当資産	26,449,887	-	-	26,449,887
公益目的資産	150,000,000	-	150,000,000	-
公益目的事業資産	200,000,000	-	200,000,000	-
事務所等の改修および取得資産	95,000,000	-	95,000,000	-
小 計	471,449,887	-	445,000,000	26,449,887
合 計	471,449,887	-	445,000,000	26,449,887

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

該当なし

(4) 附属明細書

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

1. 基本財産及び特定資産の明細

(単位:円)

区分	資産の種類	期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	期末帳簿価額
財基 産本		0	0	0	0
特定 資産	退職給付引当資産	24,709,651	1,740,236	0	26,449,887
	公益目的資産	150,000,000	0	0	150,000,000
	公益目的事業資産	200,000,000	0	0	200,000,000
	事務所等の改修および取得資産	80,000,000	15,000,000	0	95,000,000
	特定資産計	454,709,651	16,740,236	0	471,449,887

2. 引当金の明細

(単位:円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	7,800,000	7,600,000	7,800,000	-	7,600,000
退職給付引当金	24,709,651	1,740,236	-	-	26,449,887

(5) 財産目録

平成31年3月31日現在

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)			
現金預金			
現金	手許有高	運転資金として	690,632
	北海道支部	運転資金として	124,051
	東北支部	運転資金として	22,980
	中部支部	運転資金として	0
	北信越支部	運転資金として	5,850
	近畿支部	運転資金として	206,790
	中国・四国支部	運転資金として	39,939
	九州支部	運転資金として	0
	現金計		1,090,242
預金	郵便振替		
	ゆうちょ銀行 1	運転資金として	29,988,591
	ゆうちょ銀行 2	運転資金として	44,192,633
	普通預金		
	三井住友銀行 京橋 1	運転資金として	29,053,877
	三菱UFJ銀行 大久保 1	運転資金として	146,186,350
	三菱UFJ銀行 大久保 2	運転資金として	53,447
	三菱UFJ銀行 大久保 3	運転資金として	2,897,286
	三菱UFJ銀行 大久保 4	運転資金として	6,622,319
	三菱UFJ銀行 神楽坂 1	運転資金として	27,431
	北海道銀行 札幌駅前 1	運転資金として	504,344
	七十七銀行 芭蕉の辻 1	運転資金として	164,775
	三菱UFJ 柳橋 1	運転資金として	361,305
	北國銀行 本店営業部 1	運転資金として	1,687
	三井住友銀行 備後町 1	運転資金として	488,568
	広島銀行 大手町 1	運転資金として	280,772
	福岡銀行 薬院 1	運転資金として	146,038
	三菱UFJ銀行 京橋 1	運転資金として	2,641,648
	決済用普通預金		
	三菱UFJ銀行 京橋 1	運転資金として	1,997,624
	三菱UFJ銀行 京橋 2	運転資金として	18,340,315
	三菱UFJ銀行 京橋 3	運転資金として	17,317,519
	三菱UFJ銀行 京橋 4	運転資金として	3,550,643
	三菱UFJ銀行 京橋 5	運転資金として	9,142,970
	三菱UFJ銀行 京橋 6	運転資金として	98,760
	預金計		314,058,902
	現金預金計		315,149,144
未収金	355件	公1-1・CPD継続費用、手帳・登録費用	2,837,670
	(株)中外	公1-3・学会誌への広告掲載料 1月号～3月号	6,632,604
	会員・一般・丸善	公1-3・学会出版物・送料の売掛金	1,867,243
	会員・一般・丸善	公1-3・便覧・送料の売掛金	2,587,523
	5件	公1-3・学会誌別刷り、論文集掲載料等	188,429
	未収消費税		869,000
			14,982,469
在庫品	便覧156セット、パテ1171冊	公1-3・期末在庫額	12,000,886
仮払金	2件	公益目的事業及び管理目的の業務に従事する 職員の慶弔金	40,000
前払金	ホーム社(株)、日本郵便 (一財)大阪労働協会 日新航空サービス(株) (株)青木マツル、(株)小葉印刷所 JPレジャー(株) 全国公益法人協会 東京海上日動火災保険(株) (株)トセイ 全労済 医療法人社団平成医会 エムエスティ保険サービス(株)	公1-1・初級、ステップアップ、中堅技術者研修会テキスト・DM 公1-1・初級・中堅技術者研修会会場費等 公1-1・大会視察費 公1-5・表彰事業費 法 役員選挙費 法 加入学協会費 法 会社役員賠償責任保険 公益目的事業及び管理目的の業務に使用する賃借料 公益目的事業及び管理目的の業務に従事する 職員の共済保険料 公益目的事業及び管理目的の業務に従事する 職員の顧問医契約 公益目的事業及び管理目的の業務に使用する火災保険料	132,381 469,868 147,488 579,656 953,704 34,020 299,330 2,339,058 139,680 654,000 74,110
			5,823,295
その他出版事業			0
流動資産合計			347,995,794

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(固定資産)				
基本財産				0
特定資産	退職給付引当資金	決済用普通預金 三菱UFJ銀行 京橋 7		26,449,887
	公益目的資産	決済用普通預金 三菱UFJ銀行 京橋 8	公益目的事業の用に供するために継続して保有している財産	150,000,000
	公益目的事業資産	決済用普通預金 三菱UFJ銀行 京橋 9	公益目的事業に必要な収益事業等その他の業務又は活動の用に供するために継続して保有している財産	200,000,000
	事務所等の改修および取得資産	決済用普通預金 三菱UFJ銀行 京橋 10 普通預金 三菱UFJ銀行 京橋 1	事務所の改修ならびに新たに事務所を取得する費用とする財産	80,000,000
				15,000,000
				95,000,000
		小 計		471,449,887
その他	固定資産			
	電話加入権	03-5206-3600他、全6回線	(共用財産) うち、公益目的保有財産80% 管理目的の財源として使用している財産20%	235,900 188,720 47,180
	敷金・保証金		(共用財産) うち、公益目的保有財産80% 管理目的の財源として使用している財産20%	17,401,360 13,921,088 3,480,272
		その他固定資産計		17,637,260
固定資産合計				489,087,147
資産合計				837,082,941
	未払金	(株)和心 日本郵便(株) 丸善アラネット(株)、三松堂印刷(株)、執筆者 委員会委員 JPE'sメール(株) 委員会委員 産興(株)、(有)ディーター 理事 NTTフィックス(株) 管工業健康保険組合、日本年金機構	公1-1・学術・技術報告会会場費 公1-3・調査研究費 公1-3・快適な温熱環境出版製作費 公1-3・論文集査読料 公1-3・学会誌送料・発送手数料 公益目的事業の旅費・交通費 法 HP運営費 管理目的業務の旅費・交通費 公益目的事業及び管理目的の業務に使用する 電話料金 公益目的事業及び管理目的の業務に従事する 職員の社会保険料	40,736 4,200 2,266,859 20,000 934,611 148,240 344,388 724,418 5,936 1,555,241 6,044,629
	未払消費税等			0
	未払法人税等			0
	前受会費	正会員 学生会員 賛助会員	公益目的事業及び管理目的の業務に使用する 翌事業年度の会費	60,023,700 503,500 20,745,000
				81,272,200
	前受金	100名 12名 320件	公1-1・初級・中堅・初級ステップアップ 研修会受講料等 公1-1・CPD非会員継続会費 公1-3・論文集購読料	4,638,816 98,760 1,890,540
				6,628,116
	預り金	職員、委員会委員等 職員	源泉所得税 地方税(住民税)	297,944 396,600
				694,544
	仮受金	9件	法 過入金、二重入金等	124,854
	賞与引当金	職員	公益目的事業及び管理目的の業務に従事する 職員の賞与引当金	7,600,000
流動負債合計				102,364,343
	退職給付引当金	職員	公益目的事業及び管理目的の業務に従事する 職員の退職給付金の引当金	26,449,887
固定負債合計				26,449,887
負債合計				128,814,230
正味財産				708,268,711

I～IVのとおり報告いたします。

平成31年4月19日

公益社団法人 空気調和・衛生工学会

会 長 田 辺 新 一 印

平成31年4月22日

公益社団法人 空気調和・衛生工学会

会 長 田 辺 新 一 殿

公益社団法人 空気調和・衛生工学会

監 事 那 須 原 和 良 印

監 事 西 村 英 樹 印

監 査 報 告 書

第92期事業報告書、貸借対照表、正味財産増減計算書及びその付属明細書並びに財産目録等について、関係書類とともにその内容を監査した結果、法令および定款に照らして正当であることを認めます。